



PowerCMS for MT ver. 2

PowerCMSforMT Ver.2

User's Guide

☰ 概要	10
☰ 制限事項.....	10
☰ ソフトウェア動作環境.....	11
☰ サポート情報	13
☰ サポートサイト	13
☰ サインアップについて	13
☰ Power CMS for MT の構成	14
☰ 設置と調整.....	14
☰ mt-config.cgi の設定	14
☰ テンプレートセットのインストール.....	15
☰ インストールされる主要なテンプレート(Enterprise エディション/ブログの例)	15
☰ スタイルの変更について.....	17
☰ バージョン 2.05の新機能	18
👉 FastCGIサポート/Memcachedサポート、管理画面パフォーマンスの向上	18
☰ 新たにmt-config.cgiに指定可能になった設定項目	18
👉 JavaScript/CSSライブラリのコード圧縮に対応	18
☰ 設定方法	18
👉 Google Analyticsとの連携 (GoogleAnalytics).....	19
👉 PHPによる拡張 (DynamicMTML).....	19
☰ Power CMS for MT2.0からバージョン 2.05へのアップグレード	20
👉 ファイルの統廃合による変更	20
👉 mt-form.cgiに関する変更	20
👉 ダイナミックパブリッシングの仕様変更について.....	21
☰ 高速化/軽量化に関するヒント	22
☰ Movable Typeの高速化/軽量化に関する機能の利用.....	22
☰ データベースのチューニング.....	22
☰ FastCGI/Memcachedの利用	22
☰ mt-config.cgiの高速化に関する設定.....	23
☰ JavaScript/CSSコードの圧縮.....	23
☰ 不要なプラグインの削除.....	23
☰ LogViewerプラグインの代わりにGoogleAnalyticsプラグインを利用.....	23

最新ブラウザを利用	23
テンプレートタグを利用した再構築の軽量化	24
ダイナミックパブリッシングと静的ダイナミックパブリッシング(DynamicMTML)の活用	24
Power CMS for MT の基本機能	25
ユーザーインターフェイス	25
BlogTree ダッシュボードウィジェット	25
ヘッダメニュー	26
サイドメニュー	27
アイテムリスト・ページリストのドラッグ&ドロップインターフェイス	28
WYSIWYG エディタ	31
拡張フィールドとテンプレートセクタ	32
拡張フィールドを利用する	32
拡張フィールドで追加可能なコントロール	34
拡張フィールド関連の設定と制限事項	37
拡張フィールドの設定	37
拡張フィールドの設定(権限の設定)	37
拡張フィールドを削除する、拡張フィールドの順序を入れ替える	39
カスタマイズ済みのエントリ投稿フォームをテンプレートセクタに登録する	39
テンプレートセクター関連の設定項目	40
一覧表示でのエントリテンプレートの表示と絞り込み	41
記事テンプレートの作成と削除について	41
拡張フィールド、テンプレートセクタ関連のテンプレート・タグ	42
アンケートフォームの作成	49
フォームを作成する	49
投稿後の処理とフォーム設定のカスタマイズ	50
プラグイン設定	53
アンケートフォーム関連のテンプレート・タグ	53
グループの作成とエントリ並び順の指定	54
新規エントリグループを作成する	55
グループへのアイテムの登録	56
グループの設定	56
ワンクリックでテンプレートを作成	57
カテゴリとエントリグループを同期させる	58
アイテムグループ関連のテンプレート・タグ	59
ObjectGroup プラグイン (エントリ/カテゴリ/ブログをグループ化)	61
ダイナミック検索機能	62
検索機能を利用するための準備	62

🔍 検索クエリー.....	63
🔍 検索キャッシュ.....	64
🔍 PHPへのメモリ割当について.....	64
🔍 検索関連のテンプレート・タグ.....	65
🔍 リスト系アーカイブページの静的ファイル分割.....	71
🔍 テンプレート分割の設定.....	71
🔍 ページ送りナビゲーションの作成.....	71
🔍 静的ダイナミックパブリッシング(DynamicMTML).....	73
🔍 静的ダイナミックパブリッシングの概要.....	73
🔍 インストールと準備.....	74
🔍 動作環境.....	74
🔍 mt-config.cgiの設定.....	74
🔍 ダイナミックパブリッシングの設定.....	75
🔍 テンプレートのインストール.....	76
🔍 動作をテストする.....	76
🔍 テンプレート・タグの活用.....	79
🔍 DynamicMTMLを活用したテンプレート・タグの例.....	86
🔍 ブログ、カテゴリ、エントリへのファイルの添付.....	88
🔍 ファイルを添付する.....	88
🔍 ファイル削除する、差し替える、名前や説明、タグを指定する.....	88
🔍 添付ファイル数、ファイル保存場所の設定.....	89
🔍 添付ファイルに関する情報をテンプレート・タグで取得する.....	89
🔍 添付ファイル関連のテンプレート・タグ.....	90
🔍 エントリの投稿画面のフィールドラベルのカスタマイズ.....	91
🔍 フィールドラベルの設定.....	91
🔍 アクセス解析.....	92
🔍 アクセス解析用のテンプレート.....	92
🔍 アクセスログのインポートとレポートの構築.....	92
🔍 アクセスレポートの参照.....	93
🔍 アクセス解析関連のテンプレート・タグ.....	94
🔍 LogViewer プラグインの設定.....	96
🔍 指定日非公開機能(EntryPublish プラグイン).....	98
🔍 非公開日時を指定する.....	98
🔍 非公開日が指定されたエントリの非公開処理.....	98
🔍 テンプレート・タグによる非公開日前後での分岐処理.....	99
🔍 ワークフロー機能.....	100
🔍 「編集者」と「ブログ管理者」の間でのエントリ公開の承認フロー.....	100

☉ 一覧表示でのステータス「公開前(承認依頼中)」のエントリの表示と絞り込み.....	102
☉ 「公開前(承認依頼中)」エントリの所有者の設定.....	102
📍 リビジョンとワークフロー.....	103
☉ リビジョン(バックアップ)の保存.....	103
☉ バックアップからの復帰.....	103
☉ ワークフローへのリビジョン機能の活用.....	104
☉ リビジョンを現在公開中の版と差し替える.....	105
☉ リビジョンを日時指定して現在の版と差し替える.....	106
☉ リビジョンデータのバックアップ.....	106
📍 管理画面のロック.....	107
☉ 管理画面のロックとロックの解除.....	107
☉ 管理画面のロック状態の確認.....	107
📍 エクスポート/インポート機能.....	108
☉ Power CMS 形式のエクスポート/インポート.....	108
☉ CSV/TSV (Tab Separated Values)形式のファイルからのインポート.....	108
☉ カテゴリ情報のインポート.....	111
📍 エントリ(ブログ記事/ウェブページ)の複製.....	113
☉ 既存のエントリを複製して効率よく新しいエントリを作成する.....	113
📍 ブログ記事と複数のウェブページを関連付ける.....	114
☉ ブログ記事に関連したウェブページを作成する.....	114
☉ グループ化されたブログ記事、ウェブページ間のページ送りを作成する.....	114
📍 プラグインの設定.....	115
📍 HTMLの文法チェック.....	116
☉ プレビュー時に生成されたHTMLの文法をW3C Markup Validation Serviceでチェックする...116	116
📍 管理画面でブログ/ブログ記事の呼称をカスタマイズする.....	117
📍 リンクをオブジェクトで管理するLinkプラグイン.....	118
☉ Perlモジュールについて.....	118
☉ コールバック.....	120
📍 標準オプションプラグイン.....	122
📍 Google Analyticsプラグイン.....	122
📍 Google Analyticsプラグインの設定.....	122
☉ アクセス解析関連のテンプレート・タグ.....	123
📍 Abs2Rel プラグイン (相対パス変換).....	124
☉ Abs2Relプラグインの設定項目.....	124
📍 Accessibility プラグイン (アクセシビリティ向上支援).....	125
☉ 画像の代替テキストのチェック.....	125

☺ テキストフィルタ	125
☺ ファイル全体に対してフィルタを有効にする	126
☺ Quickeditプラグイン (エントリから編集画面へのスムーズな移動)	127
☺ 設定と利用方法.....	127
☺ RebuildIndexByID プラグイン (別ブログのインデックスアーカイブを同時再構築).....	128
☺ 設定と利用方法.....	128
☺ TabSplitter プラグイン (タブ区切りテキストを柔軟に取り扱う)	129
☺ EntryTagEditor プラグイン (エントリの一括編集画面でのタグの編集).....	130
☺ EntryDown プラグイン (更新されたファイルの一括ダウンロード).....	131
☺ UploadUser プラグイン (ユーザーの一括登録)	132
☺ CSVの作成とユーザー情報の一括登録.....	132
☺ CSV のダウンロード	132
☺ ArchivePlus プラグイン (静的フォルダ/タグアーカイブ).....	133
☺ フォルダアーカイブ.....	133
☺ タグアーカイブ.....	133
☺ カスタムオブジェクト	135
☺ インストール	135
☺ 名称を設定する.....	135
☺ カスタムオブジェクトの権限.....	136
☺ 管理画面をカスタムフィールドで自由に設計	136
☺ CSV からデータを一括投入する	137
☺ カスタムオブジェクトをグループ化してソート順指定する	137
☺ グループ化したカスタムオブジェクトの一覧を表示するテンプレートモジュールを作成する.....	138
☺ カスタムオブジェクトをページとして表示する.....	140
☺ Viewerプラグインの設置とテンプレートの作成.....	140
☺ プラグインによる拡張	141
☺ コールバック	141
☺ 入力チェック支援プラグイン (RequiredFields).....	143
☺ プラグイン設定.....	143
☺ ダウンローダ(Download).....	144
☺ インストール	144
☺ プラグイン設定(ブログ/ ウェブサイト単位で行います).....	144
☺ カスタム権限設定(DesignPermissions).....	144
☺ カスタムフィールドインポート/エクスポート (CustomFieldImporter)	145
☺ CSV/TSV (Tab Separated Values)形式のファイルからのインポート	145
☺ 多段階(無制限)ワークフロー(EntryWorkflow).....	146
☺ LightBox.....	147

📍 ログローテーション(Logrotate)	147
📍 管理画面のIPアドレス制限(Protection).....	148
📍 ユーザーの情報の一括インポート	148
📍 Professional 版以上のエディションに含まれるプラグイン	150
📍 リンクチェッカ	150
📍 リンクチェックの実行	150
📍 リンクチェックの修復	150
📍 リンクチェック関連の設定	151
📍 メールマガジン	152
📍 インストールされるロール	152
📍 MailMagazine プラグインの設定項目	152
📍 メールマガジンの配信	153
📍 指定日配信機能.....	153
📍 メールマガジンの一覧と再編集	154
📍 メールマガジンをエントリとして保存する	154
📍 会員限定サイト(Members プラグイン).....	155
📍 Members プラグインによる処理の流れ	155
📍 会員限定サイトの構築手順	155
📍 会員限定サイトと一般公開サイトの切り替え.....	156
📍 「会員」とインストールされるロールについて	157
📍 Members プラグインの設定	157
📍 Members プラグインで利用出来るタグ	157
📍 携帯機能(Mobile プラグイン).....	159
📍 メール投稿のための設定.....	159
📍 各ブログのプラグイン設定	159
📍 ユーザのメールアドレスの設定.....	160
📍 メール投稿.....	160
📍 メールの取り込み処理.....	160
📍 サムネイルの自動生成のための設定.....	161
📍 各ブログのプラグイン設定	161
📍 携帯サイト用ライブラリ	162
📍 絵文字の貼り付け	165
📍 キャンペーン	167
📍 インストール	167
📍 プラグイン設定(ブログ/ ウェブサイト単位で行います).....	167
📍 mt- campaign.cgiによる効果測定	172

🕒 プラグインによる拡張	172
🕒 コールバック	172
🕒 Professional 版以上のエディションに含まれるオプションプラグイン	174
🕒 Copy2Public プラグイン (ステージングサーバー→公開サーバーへのデータの転送).....	174
🕒 同期する対象ファイルの判別について	174
🕒 プラグイン設定	175
🕒 環境変数の設定.....	176
🕒 転送の実行について	176
🕒 公開サーバでのファイルの同期について	177
🕒 予約された同期タスクの確認.....	177
🕒 Enterprise エディションに含まれるプラグイン	179
🕒 既存 HTML からのインポート.....	179
🕒 インポートの準備	179
🕒 インポートの設定	179
🕒 アイテムの同時取り込み	181
🕒 プラグインによる拡張	181
🕒 リモートバックアップ(BackupConfig プラグイン)	183
🕒 バックアップの実行.....	183
🕒 リモートバックアップ機能に関する注意事項.....	183
🕒 バックアップ設定.....	184
🕒 バックアップに関する設定内容	185
🕒 各データベースに関する特記事項.....	186
🕒 PostgreSQLの場合	186
🕒 Microsoft SQL Server 2005の場合.....	186
🕒 Oracle Database 10g for Linux の場合	186
🕒 Oracle Database 10g for Microsoft Windows の場合.....	187
🕒 FTPに関する設定.....	187
🕒 その他の設定.....	187
🕒 エンタープライズ検索	188
🕒 検索インデックスの作成.....	188
🕒 検索インデックスの自動更新.....	188
🕒 エンタープライズ検索関連のテンプレート	188
🕒 文書ドラフトテンプレート	188
🕒 検索の実行とテンプレート	190
🕒 環境変数の設定.....	191
🕒 プラグインの設定.....	191
🕒 Windows Server 2008 でのエンタープライズ検索のセットアップ	195

☺ Hyper Estraier のセットアップ	195
☺ Perl モジュール(PPM パッケージ)のインストール.....	195
☺ Enterprise エディションに含まれるオプションプラグイン	196
☺ ZipUploader プラグイン (アイテムの一括登録).....	196
☺ CSV の作成と Zip ファイルからのアイテム一括登録.....	196
☺ こんな時は	197
☺ Movable Type のログにエラーが残る場合.....	197
☺ ソフトウェア利用許諾書	198

概要

Power CMS for MT 2.0 は Movable Type 5 のために開発されたプラグインセットです。
Movable Type 5 をさらに高度な CMS(コンテンツ管理システム)として活用するための様々な機能を提供します。

- ・ 管理者・記事投稿者に最適化されたユーザーインターフェイス
- ・ 投稿画面のカスタマイズ
- ・ 強力なインポート機能
- ・ カスタマイズした投稿画面をいくつでも登録可能
- ・ 高速なキーワード検索/タグ検索機能
- ・ ブログ記事/ウェブページやカテゴリ等のオブジェクトのグループ化、表示順を GUI で設定
- ・ ドラッグ&ドロップでファイルのアップロード
- ・ ドラッグ&ドロップでのファイルやリンクの挿入
- ・ エントリの時限公開/配信予約
- ・ 強力なワークフロー機能
- ・ ブログ記事/ウェブページの複製機能
- ・ アクセス解析機能
- ・ 階層型ツリー表示でサイトの一覧性を向上
- ・ CMS ブックマーク
- ・ 既存の HTML ページを一括インポート
- ・ リビジョン管理
- ・ インデックス型全文検索により大量の文書を高速サーチ
- ・ 定期的な自動バックアップ
- ・ 内部リンク・外部リンクに対応したリンクチェッカ
- ・ ログインユーザーだけに公開されるページの作成
- ・ 第3世代携帯電話に対応した携帯サイトを自動生成
- ・ シンプル/高品質な汎用的テンプレートセット付属
- ・ 高機能 WYSIWYG エディタ
- ・ リスト系ページのページ分割
- ・ エントリにウェブページを関連付け、複数ページからなる一連のページを簡単に作成
- ・ エントリを公開状態にしたまま、将来のリビジョンを無制限に作成
- ・ 携帯サイトの自動生成
- ・ 登録ユーザーに一括でメールマガジンを作成・送信
- ・ FastCGIサポート/Memcachedサポート
- ・ その他様々なオプションプラグインを同梱しています。
(オプションプラグインの例)
 - ・ 相対パス変換プラグイン、アクセシビリティ向上プラグイン、等々

制限事項

Movable Type 5 の標準機能であるバックアップからの復元機能には対応していません。バックアップ/復元機能では Power CMS が拡張するテーブルのレコードの ID が引き継がれないため、対応の予定はございません。バックアップおよび復元に関する操作につきましては、データベース単位で行っていただきますようお願いいたします。

👤 ソフトウェア動作環境

- ・ オープンソース版を除く Movable Type 5.04 以上
- ・ Movable Type Advanced
- ・ Perl バージョン 5.8.1 以上
- ・ PHP バージョン 5.0 以上

サーバーOS

- ・ Linux, Solaris/UNIX, BSD
- ・ Mac OS X
- ・ Microsoft Windows Server 2008 (R2 には未対応)

ウェブサーバー

- ・ Apache(ダイナミックパブリッシングの利用には .htaccess ファイルが利用可能である必要があります)
- ・ Microsoft IIS

データベース

- ・ MySQL 5.0 以降
- ・ PostgreSQL 8 以降
- ・ Oracle Database 11g (Movable Type Advanced のみ)
- ・ Microsoft SQL Server 2008 (Movable Type Advanced のみ)

全文検索エンジン

- ・ Hyper Estraier (Enterpriseエディションのみ)

Perl モジュール

- ・ Image::Magick
- ・ XML::Parser
- ・ Archive::Zip
- ・ LWP::UserAgent
- ・ MIME::Parser (携帯メール投稿にのみ必要)
- ・ Estraier.pm (エンタープライズ検索に必要)

推奨 Perl モジュール

- ・ Text::CSV_XS(セル内に改行を含む CSV ファイルを処理する場合に必要)

クライアント動作環境

- ・ Mozilla Firefox 3.5.x, 3.6.x
- ・ Internet Explorer 6, 7, 8 * Internet Explorer 6 では機能に制限があります。また管理画面の JavaScript実行速度が遅くなります。
- ・ Internet Explorer 6を利用しなければならない環境ではMovable Type 4.x+Power CMS for MT1.5xもしくは別のブラウザのご利用を推奨します。
- ・ ドラッグ&ドロップによるファイルアップロードには Firefox 3.6 以上または Gears (<http://gears.google.com/>) のインストールが必要です(Internet Explorer 7 以降、Firefox 3.5 以降)。

その他

Movable Type によって提供されるコミュニティ機能と組み合わせての使用は想定されておりません。

Movable Type は Six Apart, Ltd.の商標です。

The YUI Library is a set of utilities and controls, written with JavaScript and CSS, for building richly interactive web applications using techniques such as DOM scripting, DHTML and AJAX. YUI is available under a BSD license and is free for all uses.

TinyMCE is a platform independent web based Javascript HTML WYSIWYG editor control released as Open Source under LGPL by Moxiecode Systems AB.

Gears is open source software, licensed under the New BSD license.

Microsoft Excelは、米国Microsoft Corp.の商品名称です。

Hyper EstraierはGNU Lesser General Public Licenseに基づいて配布されているフリーソフトウェアです。

📍 サポート情報

📍 サポートサイト

最新バージョンのダウンロードはサポートサイトから行うことができます。

<http://powercms.alfasado.net/members/>

📍 サインアップについて

サポートサイトへの初回ログイン時にサインアップを行ってください。

- ・ユーザー名は任意の文字列(英数記号文字)を指定してください
- ・表示する名前には、お申し込みの際の会社名をご記入ください
- ・メールアドレスには、お申し込みの際に指定したご担当者のメールアドレスをご記入ください
- ・ライセンスコードにはマニュアルに記載のライセンスコードをご記入ください
- ・アップデート情報のメールでの受け取りを希望される方は「メールマガジンの購読」にチェックをいれてください
- ・サインアップ後管理者がお客さま情報を確認後、メールにてお知らせいたします

● ライセンス情報

ライセンス種別	
ライセンスコード	
サポート有効期限	



















● サポートメールアドレス

E-Mail	powercms@alfasado.jp
--------	----------------------

🌟 Power CMS for MT のサポートは特別な場合を除き、メールでのご提供となります。お電話でのサポート対応はお受けいたしかねますのでご了承ください。

🔗 Power CMS for MT の構成

以下のファイル/フォルダを mtディレクトリ以下に配置します

ファイル/フォルダ名	説明
 plugins/PowerCMS	Power CMS for MT Standard以上に必要なプログラム群
 plugins/PowerCMSProfessional	Power CMS for MT Professional以上に必要なプログラム群
 plugins/PowerCMSEnterprise	Power CMS for MT Enterprise以上に必要なプログラム群
 plugins/PowerCMSTemplateSet	Power CMS の機能をすぐにお使いいただけるテンプレートセットです。
 mt-static/plugins/PowerCMS	CSS/JavaScript/アイコンなどの静的ファイル一式
 mt-static/plugins/BlogTree	ダッシュボードで利用する静的ファイル一式
 mt-static/plugins/TinyMCE	WYSIWYGエディタ用の静的ファイル一式
 mt-static/plugins/ItemSort	エントリグループで利用する静的ファイル一式
 mt-static/plugins/ObjectGroup	オブジェクトグループで利用する静的ファイル一式
 mt-static/plugins/EntryPrepublish	ワークフロー機能で利用する静的ファイル一式
 mt-static/plugins/ PowerCMSTemplateSet	テンプレートセットが使用するスタティックなファイルです。
 mt-form.cgi	フォーム機能を使ってポストされたデータを処理します
 mt-members.cgi	会員サイトの機能を提供します(Professional以上)
 mt-estraier.cgi	全文検索機能を提供します(Enterprise以上)
 tools/send-mail-magazine	メールマガジンを送信します(Professional以上)
 tools/run-backup-sql-and-docs	リモートバックアップを実行します(Enterprise以上)
 tools/estcmd-gather	全文検索のインデックスを作成・更新します
 powercms_files	Power CMS for MT が保存するファイルを格納するディレクトリ(作成が必要です)

🔗 設置と調整

- ・ mt ディレクトリ直下の各 cgi には実行パーミッションを与えます。
- ・ powercms_files を作成し、Web サーバーから書き込み可能なパーミッションを与えます。
- ・ tools/ ディレクトリ以下の各ファイルに実行パーミッションを与えます。各機能を利用する場合は MT の run-periodic-tasksと同じ要領で cron ジョブに登録してください。

[毎日午前4時にバックアップを行う cron ジョブの設定例]

```
0 4 * * * cd /path/to/mt; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

- ・ オプションプラグイン(サポートサイトからダウンロードできます)のインストールについては各オプションのページを参照ください。

✳️ オプションプラグインのインストールに関する注意

オプションプラグインには、正常に動作するにあたり特定の Perl モジュールを必要とするものが含まれています。動作に必要なPerl モジュールがサーバにインストールされていることを確認の上、必要なもののみをインストールするようにしてください。それぞれのプラグインに必要な Perl モジュールは、本マニュアル内に後述しています。

🔗 mt-config.cgi の設定

- ・ AutoSaveFrequency 0 (自動保存をOFFにします。Power CMSが拡張したデータの不整合を防ぎます)
- ・ MemberScript mt-members.cgi (会員限定ページ、携帯サイトを利用する場合に、CGI名を変更する場合のみ記述します)

- ・ EstraierScript mt-estraier.cgi (インデックス検索を利用する場合に、CGI名を変更する場合のみ記述します)
- ・ PowerCMSFilesDir (powercms_files を任意の場所に指定する場合に記述します)
- ・ EnableCMSFileCache 1 (CMSCacheでファイルキャッシュを利用する(キャッシュファイルはpowercms_files/cmscacheに保存されます))
- ・ EnableCMSMemcached 1 (Memcachedが有効な場合、CMSCacheでMemcachedを利用する)
- ・ DisableSystemMenu 1 (システムメニューを無効にする)
- ・ DisableCreateMenu 1 (システムスコープの「新規作成」メニュー(ヘッダ部右側に表示されるメニュー)を無効化する*)

✳️ 新規作成メニューが有効な場合、ウェブサイト、ブログの数が大量にある場合に速度低下の原因となります。

Power CMS for MT2.043から、フォーム(mt-form.cgi)のtemplate_idパラメタ指定はデフォルトで無効になりました。フォームの確認画面には「フォーム確認画面」テンプレートが使われます(このテンプレートにHTMLヘッダ等を含む完全なHTMLを記述してください)。

Power CMS for MT2.042以前のバージョンからのアップデートの際にmt-form.cgiでtemplate_idパラメタの指定を利用している場合、下記の手順で有効化してください。

mt-config.cgiに下記の記述を追加

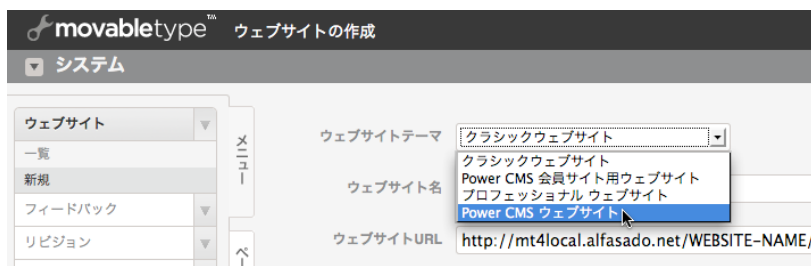
```
ExtraFormAllowTemplateID 1
```

各ブログ/ウェブサイトのプラグイン設定で、ExtraFormプラグインの設定→「確認画面に利用可能なtemplate_id (カンマ区切り)」に確認画面に利用するテンプレートのIDをカンマ区切りで指定するか、mt-config.cgiに下記のように記述してください。

```
ExtraFormAllowTemplateIDs 33,44,55 (確認画面に利用するテンプレートのID)
```

📁 テンプレートセットのインストール

Movable Type のインストール時に各テンプレートセットを選択する事で、各種テンプレートがインストールされます。既存のブログにテンプレートセットを適用することも可能です(各機能の中には特定のテンプレートが必要なものがあります)。



📁 インストールされる主要なテンプレート(Enterprise エディション/ブログの例)

	テンプレート名	テンプレートの内容
インデックステンプレート	.htaccess	ダイナミック検索のための.htaccessファイル(Apache用)
	.htaccess(携帯用)	携帯サイトのための.htaccessファイル(Apache用)
	Dynamic Site Bootstrapper mtview.php	ダイナミックパブリッシングを有効にします(検索結果のキャッシュ機能を提供します)
	Direct Category Jumper	携帯サイトのカテゴリ移動用php
	JavaScript	サイトで利用するJavaScriptファイル

	テンプレート名	テンプレートの内容
	JavaScript(common.js)	サイトで利用するJavaScriptファイル
	アクセスログ保存 JavaScript	アクセスログを保存するリクエストをphpに送信するJavaScriptファイル
	アクセスログ記録	アクセスログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存するphpファイル
	スタイルシート	サイトで利用するCSS
	メインページ	メインインデックス・ページ
	メインページ(携帯用)	携帯サイトのトップページ
	最新記事のフィード	Atom形式のフィード
	検索フィード	検索結果のRSS 2.0形式のフィード(ダイナミックパブリッシング)
	検索ログ保存 JavaScript	検索ログを保存するリクエストをphpに送信するJavaScriptファイル
	検索ログ記録	検索保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存するphpファイル
	検索結果(ダイナミック)	ダイナミックパブリッシングによるサイト内検索
	検索結果(ダイナミック・携帯用)	ダイナミックパブリッシングによるサイト内検索(携帯サイト用)
アーカイブテンプレート	ウェブページ	ウェブページテンプレート
	ウェブページ(携帯用)	携帯用ウェブページテンプレート
	ブログ記事	ブログ記事テンプレート(ブログのみ)
	ブログ記事(携帯用)	携帯用ブログ記事テンプレート(ブログのみ)
	ブログ記事のリスト	カテゴリアーカイブ/日付アーカイブ用のテンプレート (ブログのみ)
	ブログ記事のリスト(携帯用)	携帯用カテゴリアーカイブ/日付アーカイブ用のテンプレート (ブログのみ)
	ウェブページドラフト	全文検索登録用のテンプレート
	ブログ記事ドラフト	全文検索登録用のテンプレート (ブログのみ)
テンプレートモジュール	コメント	コメントモジュール
	サイドカラム1	サイドカラムモジュール(1)
	サイドカラム2	サイドカラムモジュール(2)
	サイトマップ	サイトマップモジュール
	トラックバック	トラックバックモジュール
	フォーム (ウェブページ)	Power CMS のフォーム作成機能を利用するためのテンプレート
	フォーム (ブログ記事)	Power CMS のフォーム作成機能を利用するためのテンプレート
	フッター	各テンプレートで共通して読み込まれるヘッダ部分
	ヘッダー	各テンプレートで共通して読み込まれるフッタ部分
	メインカラム	ページのメイン部分のモジュール
	拡張フィールド	拡張フィールドをループで出力するテンプレートモジュール
	親子記事ページ送り	ブログ記事とウェブページが関連付けられているときにページ送りを表示するモジュール
	ブログ記事の詳細(携帯用)	携帯用ブログ記事の表示部分のモジュール
	ウェブページの詳細(携帯用)	携帯用ウェブページの表示部分のモジュール
	ヘッダー(携帯用)	携帯サイトのヘッダ
	フッター(携帯用)	携帯サイトのフッタ
	サイトマップ(携帯用)	携帯サイトのサイトマップ

	テンプレート名	テンプレートの内容
システムテンプレート	Hyper Estraier 検索結果	全文検索を利用する時に mt-estraier.cgi が利用するテンプレート
	コメントプレビュー	コメント投稿時の確認画面用テンプレート
	コメント完了	コメント投稿完了時のテンプレート
	ダイナミックパブリッシングエラー	ダイナミックパブリッシングエラー、もしくは404エラーページ
	フォーム投稿確認画面	フォームの確認画面テンプレート
	ポップアップ画像	画像のサムネイルからポップアップ表示するテンプレート
	検索結果	MT標準の検索テンプレート
	フォームエントリ作成者宛てメール	フォームから受け付けた投稿をエントリ投稿者へ通知するメールテンプレート
	フォーム投稿者宛てメール	フォームからの投稿完了時に投稿者へ通知するメールテンプレート
	公開通知	承認待ちエントリが公開された時に投稿者へ通知するメールテンプレート
	差し戻し通知	承認待ちエントリが差し戻された時に投稿者へ通知するメールテンプレート
	承認依頼通知	エントリを承認依頼する時に送信されるメールテンプレート

*エディションやテンプレートセットによって一部異なります。テンプレート・タグについては該当のセクションをご覧ください。

🔗 スタイルの変更について

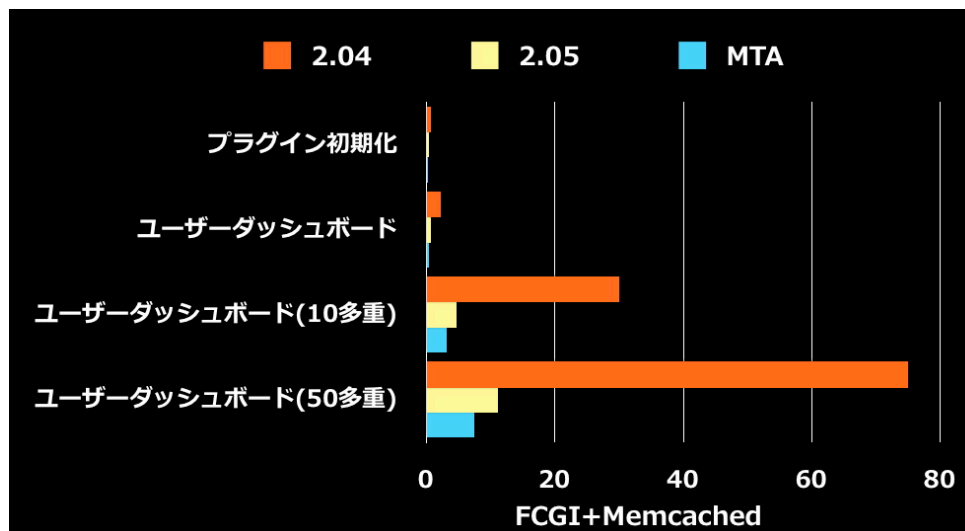
Power CMS テンプレートセットは StyleCatcher に対応しています。スタイル選択画面の「カテゴリ」で「Power CMS」を選択すると Power CMS テンプレートセットに対応したテーマが表示されます。テーマを選択すると自動的にインデックステンプレートの「スタイルシート」の内容が書き換わり、スタイルが変更されます。

✳️ StyleCatcher はオフラインでのご利用はできません。

バージョン 2.05の新機能

FastCGIサポート/Memcachedサポート、管理画面パフォーマンスの向上

プラグインファイルの大幅な軽量化、SQLクエリの最適化に加え、Memcached、FastCGIをサポートしました。



高速化のベンチマーク(単位:秒) * 数値は環境に依存します。

新たにmt-config.cgiに指定可能になった設定項目

設定項目	例	解説
EnableCMSFileCache	1	CMSCacheでファイルキャッシュを利用します。
EnableCMSMemcached	1	CMSCacheでMemcachedによるキャッシュを有効化します。
DisableSystemMenu	1	画面上部に表示されるプルダウンのシステムメニューを無効化します。
DisableCreateMenu	1	システムレベルの階層式の「新規作成」メニューを無効化します(ウェブサイト/ブログの数が多い場合に速度低下の一因となります)。
CSSCompressor	1	管理画面のCSSを圧縮します(サーバー側の処理速度よりも通信速度やブラウザ側の速度がボトルネックになっている場合のみ指定してください)。
JsCompressor	1	管理画面のJavaScriptコードを圧縮します(サーバー側の処理速度よりも通信速度やブラウザ側の速度がボトルネックになっている場合のみ指定してください)。

JavaScript/CSSライブラリのコード圧縮に対応

minify(PHP)、JavaScript::Minifier(Perl)ライブラリによりJavaScript/CSSを圧縮して返すことが可能です。

設定方法

インデックステンプレートなどでCSS・Javascriptを作成した際に、該当のテンプレートでブロックタグを使用します。さらにPowerCMSプラグインの設定画面で「CSS / JavaScriptを圧縮する」にチェックを入れると使用できます。



✿ テンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTCSSCompressor

CSS記述から、支障のない範囲でタブ・空白・改行を削除します。

指定出来るモディファイア

MTCSSCompressor: プラグイン設定画面の圧縮可不可を反映します。

MTJSCompressor

Javascript記述から、支障のない範囲でタブ・空白・改行を削除します。

指定出来るモディファイア

MTCSSCompressor: プラグイン設定画面の圧縮可不可を反映します。

👤 Google Analyticsとの連携 (GoogleAnalytics)

Google Analytics のデータを利用してテンプレートタグで人気記事/ページのランキングを作成することが可能です。ブログのダッシュボードで Blog Stats ウィジェットにページビューのサマリーを表示することもできます。詳細については「標準オプションプラグイン」の項を参照してください。

👤 PHPによる拡張 (DynamicMTML)

静的ファイル内のMTタグを動的にビルドできるDynamicMTMLが大幅に機能拡張されました。PHPによる動的ウェブサイトの構築の可能性が大きく広がりました。詳細についてはDynamicMTMLの項を参照してください。

🔔 Power CMS for MT2.0からバージョン2.05へのアップグレード

🔴重要:アップデート時にはデータベース、プラグインファイル等のバックアップをお願いいたします。

👤 ファイルの統廃合による変更

プラグインの統廃合によりファイル構成が変更になっています。このため、新規インストール以外の上書きの場合にはご注意ください。必ずバックアップをとってから実行してください。

下記のプラグインは廃止されPowerCMS.plに統合されました。上書きアップロードする場合は下記のプラグインを削除してください。

- PowerCMS/TemplateSelector.pl
- PowerCMS/AltSearch.pl
- PowerCMS/AttachFiles.pl
- PowerCMS/CMSExporter.pl
- PowerCMS/CSIImporter.pl
- PowerCMS/EntryChildrenPages.pl
- PowerCMS/EntryPrepublish.pl
- PowerCMS/EntryPublish.pl
- PowerCMS/Pager.pl
- PowerCMS/PowerPreview.pl
- PowerCMS/StylePreview.pl
- Table2Tag/Table2Tag.pl
- TabSplitter/TabSplitter.pl
- RebuildIndexById/RebuildIndexById.pl
- Quickedit/Quickedit.pl

下記のプラグインは廃止されPowerCMSProfessional.plに統合されました。上書きアップロードする場合は下記のプラグインを削除してください。

- PowerCMSProfessional/PowerCMSProLegacy.pl

各プラグイン設定についてはデータベースのアップグレード時に引き継がれます。統合に伴い、プラグイン設定についてはPowerCMSプラグインの設定に移動します。

👤 mt-form.cgiに関する変更

Power CMS for MT2.043から、フォーム(mt-form.cgi)のtemplate_idパラメタ指定はデフォルトで無効になりました。フォームの確認画面には「フォーム確認画面」テンプレートが使われます(このテンプレートにHTMLヘッダ等を含む完全なHTMLを記述してください)。

Power CMS for MT2.042以前のバージョンからのアップデートの際にmt-form.cgiでtemplate_idパラメタの指定を利用している場合、下記の手順で有効化してください。

```
mt-config.cgiに下記の記述を追加
ExtraFormAllowTemplateID 1
```

各ブログ/ウェブサイトのプラグイン設定で、ExtraFormプラグインの設定→「確認画面に利用可能なtemplate_id (カンマ区切り)」に確認画面に利用するテンプレートのIDをカンマ区切りで指定するか、mt-config.cgiに下記のように記述してください。



または mt-config.cgiに下記の記述を追加

```
ExtraFormAllowTemplateIDs 33,44,55 # 確認画面に利用するテンプレートのID
```

💡 ダイナミックパブリッシングの仕様変更について

バージョン2.05よりPHPによるダイナミックパブリッシングの内部仕様が大きく変更されています。ダイナミックパブリッシングをご利用の場合、アップデートの際には必ずダイナミックパブリッシング動作確認をお願いします。

🔧 高速化/軽量化に関するヒント

🔧 Movable Typeの高速化/軽量化に関する機能の利用

まず第一にMovable Typeが標準で搭載している高速化、軽量化に関する機能を利用することを検討してください。各設定についてはMovable Typeのドキュメントを参考にしてください。

- テンプレートキャッシュの利用
- サーバサイド・インクルードの利用
- 再構築キューによるバックグラウンド再構築
- ダイナミックパブリッシング
- Memcachedの利用
- FastCGIの利用

🔧 データベースのチューニング

MySQL等のデータベースをチューニングすることで、全体的なパフォーマンスの改善が見込めます。具体的なチューニング方法については各データベースのマニュアルを参照してください。

尚、Power CMS for MT2.05にはMySQLデータベース最適化のためのスクリプトが新規に追加されました。最適化は /path/to/mt/tools ディレクトリ内のスクリプト optimize-mysql を実行することで実行されます(mt/tools/optimize-mysqlにあります)。

例) 毎月 1 回の cron ジョブの設定

```
0 0 1 * * cd /path/to/mt; ./tools/optimize-mysql
```

🔧 FastCGI/Memcachedの利用

バージョン2.05よりFastCGI/Memcachedをサポートしました。FastCGI/Memcachedの設定についてはMovable Typeのドキュメントを参考にしてください。

🌟重要:FastCGI利用時にはサーバーのメモリを出来るだけ多く搭載し、定期的にApacheのサイクルを再起動またはTouchするようにしてください。

以下 <http://www.movabletype.jp/documentation/developer/server/fastcgi.html> より引用

”

長期間FastCGIを使ってApacheの運用を行った場合、FastCGI化されたMTが不安定な挙動を起こしたり、無応答になる場合があります。この不具合はmod_fcgidで修正されているとされていますが、完全では無いとの報告も上がっています。

このような状態になった場合はApacheを再起動して、定期的にFastCGIをリフレッシュさせる事で不具合のあるFastCGIプロセスを終了させる事が出来ます。同様にダイナミックパブリッシングに利用されているPHPも不安定になる場合があるので、Apacheの定期的な再起動は有用です。

またプラグインをインストールした後など、MTのシステムに変更を行った場合、MTのディレクトリに入って以下のコマンドを実行し、mt.fcgiのタイムスタンプを更新します。これによりFastCGI側のプロセスがシステムが更新された事を認識しApacheのリスタート無しにMTシステム+FastCGIの更新ができます。

```
# cd /var/www/cgi-bin/mt/
# touch *.fcgi ./
```

”

🕒 mt-config.cgiの高速化に関する設定

必要に応じて以下の設定を追加してください。

```
EnableCMSFileCache 1 # CMSの管理画面でファイルキャッシュを利用します
EnableCMSMemCached 1 # MemCachedが有効な状態でPower CMS for MTがこれを利用します
DisableSystemMenu 1 # ブログ数が多くなってきた時には無効化を検討してください
```

🕒 JavaScript/CSSコードの圧縮

PowerCMSプラグインの設定画面で「CSS / JavaScript を圧縮する」にチェックを入れて設定を保存してください(PHPと.htaccessがmt-staticディレクトリで利用可能である必要があります)。

🕒 不要なプラグインの削除

利用していないプラグインをプラグインディレクトリから削除することで初期化にかかる時間が短縮できます。尚、オプションプラグインについては必ず利用するもののみインストールしてください。

🌟重要:但し以下のプラグインを削除(無効化)すると管理画面にログインできなくなるので絶対に削除しないでください。

- PowerCMS/BlogTree.pl
- PowerCMS/CMSCache.pl
- PowerCMS/CMSStyle.pl
- PowerCMS/ItemGroup.pl
- PowerCMS/PowerCMS.pl
- PowerCMS/SidebarImage.pl

逆に言えば、上記以外のプラグインについては利用状況によって削除することができます。たとえばコメント機能を使わない場合、スパムフィルタやコメント認証系(Mixi CommentsやFacebook Commentars)、エディタ用のテキストフィルタ(MarkdownやTextile)は削除しても他の部分に影響はありません。尚、Widget Manager Upgrade Assistantプラグインはアップグレードのためのもので、インストール後は削除して問題ありません。

🌟重要:PowerCMSプラグインはプラグインやテンプレートで特定のプラグインに依存しているものがあります。基本的にはPowerCMS以下のプラグインは無効化せず、利用していないMTデフォルトのプラグインやオプションプラグインを外すことを検討してください。

🌟プラグインを無効化する際にはバックアップの上サーバーから削除してください。管理画面から無効化するだけでは軽量化に関する効果は限定的で、且つトラブルの元になります。

🕒 LogViewerプラグインの代わりにGoogleAnalyticsプラグインを利用

LogViewerプラグインはアクセスログの情報をMTのデータベースにストックするため、長期運用、アクセス数が多い環境での利用によりデータベースが肥大化する可能性があります。Power CMS for MT2.05 のオプションプラグインGoogleAnalytics プラグインの利用を検討してください。

🕒 最新のブラウザを利用

クライアント環境でのJavaScript実行速度がボトルネックになるケースがあります。古いバージョンのウェブブラウザを利用している場合は、最新のブラウザのご利用を推奨します。

🕒 テンプレートタグを利用した再構築の軽量化

Power CMS for MTには独自のキャッシュシステムを備えており、テンプレートタグでブロック毎の細かなキャッシュが設定できます。再構築の高速化に威力を発揮します。

🌟 高速化のために利用可能なテンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTRequestCacheBlock

出力されるブロックの内容を key モディファイア、blog_idモディファイアで識別し、ビルドされた値は mt-cgiのリクエストの間メモリに保持されます。一度のリクエスト(mt.cgiへのリクエスト)で構築される各ページにおいて一度再構築したデータをメモリにキャッシュして2ページ目以降ではそのデータが使われます(SQLのクエリ等は一切発行されないため、再構築の高速化が可能です)。

例:

```
<MTRequestCacheBlock key="RightMenu">
  <!--右側サイドバーのテンプレート-->
</MTRequestCacheBlock>
```

再構築中、この部分は最初の一回のみ再構築されます。環境設定EntriesPerRebuildが初期値(40)の場合、このブロック内で発行されるSQLを1/40にすることができます。

MTCMSCacheBlock

MTRequestCacheBlockが一度のリクエストに対するメモリキャッシュであるのに対し、このタグはMemcache、ファイルキャッシュ、DBキャッシュのいずれかの利用が可能な場合にmt.cgiへのリクエストをまたがって保存、再利用可能なキャッシュとなります。このタグは主に管理画面で使われます。

例:

```
<MTCMSCacheBlock key="Foo" blog_id="$blog_id" object_ds="blog" children="1" object_id="blog_id" language="ja" ttl="3600">
  <$mt:include name="インクルードテンプレート"$>
</MTCMSCacheBlock>
```

ttlモディファイアでキャッシュの有効期限(秒)を指定します。省略すると環境変数CMSTemplateCachePeriodの値が使われます(デフォルト値は10800)。

object_dsモディファイアとchildrenモディファイアを指定すると、そのオブジェクトの子オブジェクトが更新された時にキャッシュをクリアします。

🕒 ダイナミックパブリッシングと静的ダイナミックパブリッシング(DynamicMTML)の活用

Movable Typeのダイナミックパブリッシングを利用可能な場合は利用を検討してください。尚、ダイナミックパブリッシングを利用する環境では、「キャッシュ」「条件付き取得」を設定することで速度向上が見込めます。

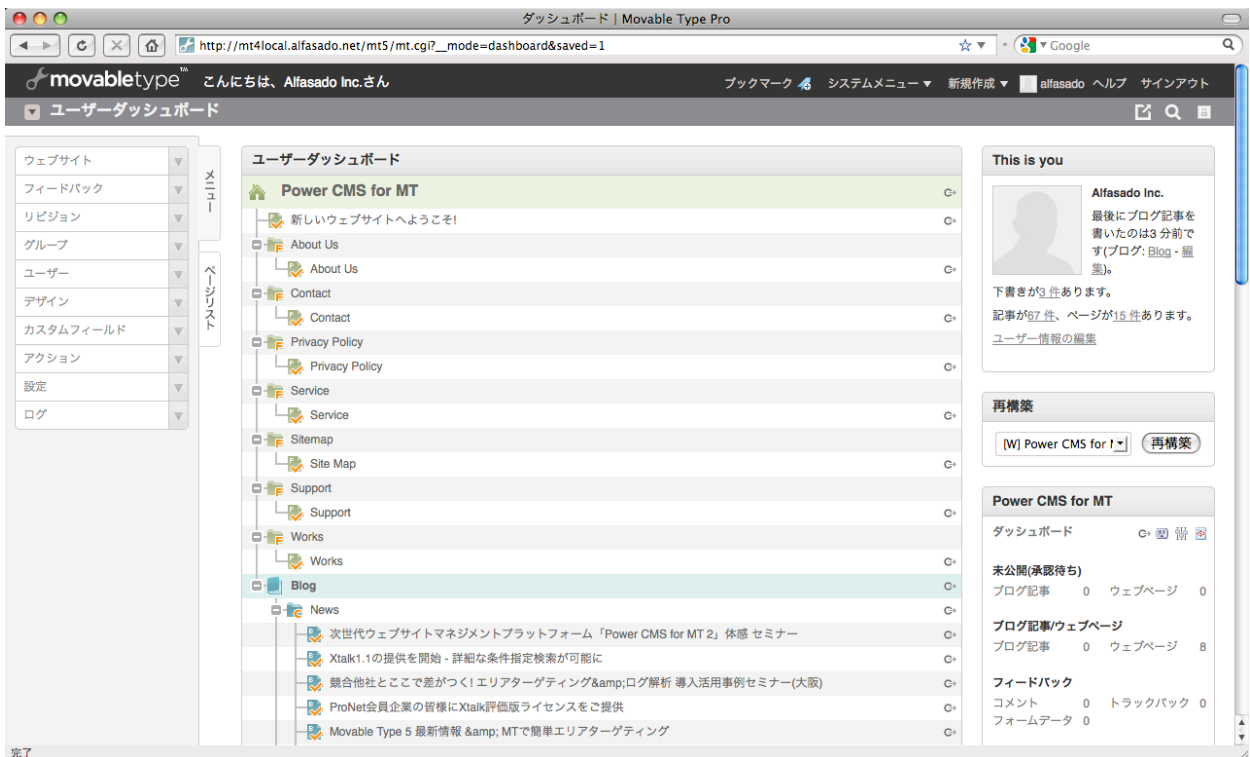
また、静的ダイナミックパブリッシング(DynamicMTML)を利用することで、頻繁に更新される部分のみをダイナミック処理することができます。これは2つの点でパフォーマンス向上に寄与します。

- 1.更新すべき箇所のみをダイナミックパブリッシング処理することで、すべてを再構築する必要がなくなる
- 2.更新される部分以外は静的出力されているため、閲覧時の負荷が最小限となる

詳細については DynamicMTML の項を参照してください。

Power CMS for MT の基本機能

ユーザーインターフェイス

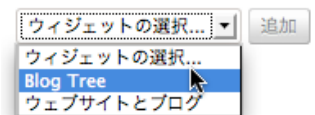


ユーザーダッシュボード

●BlogTree ダッシュボードウィジェット

ブログ、カテゴリ(フォルダ)、ブログ記事(ウェブページ)を階層的に表示するとともにサイトの各オブジェクトのサマリーを一覧表示してサイト全体を把握しやすくします。

BlogTree ダッシュボードウィジェットを表示するには、画面下の「ウィジェットの選択」ドロップダウンメニューから「BlogTree」を選択して「追加」ボタンをクリックします。



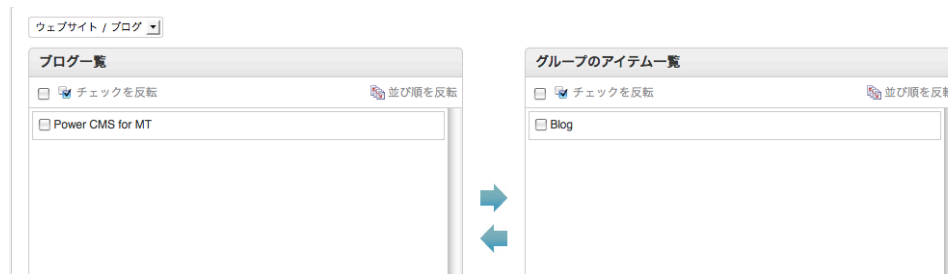
ブログツリーの各項目をクリックするとそのエントリやカテゴリの編集画面に移動します。また各項目の右側の アイコンをクリックすると生成されたページを別ウィンドウで表示することができます。

また各項目を右クリックすることで、例えばカテゴリ(フォルダ)を指定してエントリを作成したり、エントリの絞り込み一覧表示など様々なアクションを実行できます。



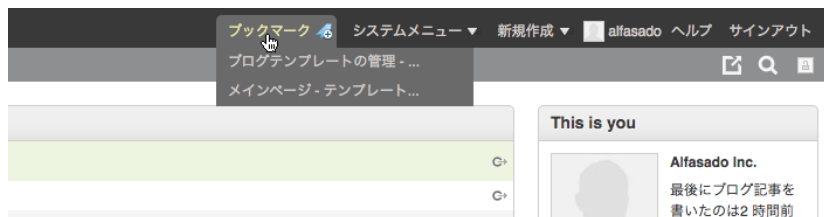
階層表示の際に読み込み・表示する階層の深さはブログ毎のプラグイン設定で変更出来ます。ブログ記事/ウェブページ数の多いブログでは階層数を減らすことで管理画面の表示速度の低下を防ぐことが出来ます。設定で指定した階層より深い階層のオブジェクトについては Ajax によって読み込み・表示します。

システムメニューのダッシュボードに表示されるブログと表示順は「BlogTree」という名前の「ブログ・グループ」として登録されています(システムインストール時に自動的に生成されます)。表示対象外にしたいブログはブログ・グループから除外することで非表示にすることが出来ます。



● ヘッダメニュー

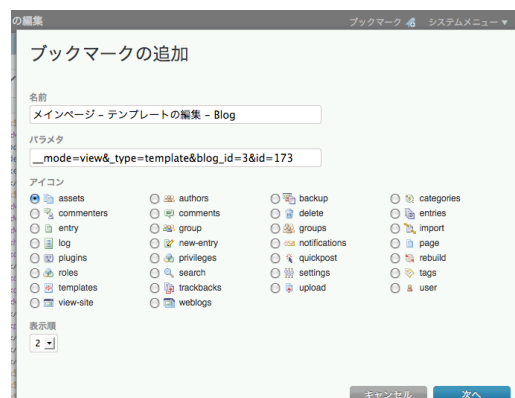
ブックマーク、システムメニュー、新規作成メニューにより管理画面内をスムーズに移動できます。



ブックマークメニュー

ブックマークメニューに表示する項目はユーザー毎に保存されます。管理画面内でブックマークメニュー右のアイコンをクリックしてブックマークを登録します。

ブックマークの削除、編集、表示順の変更は、ダッシュボードウィジェット「ブックマーク」から行います。





システムメニュー



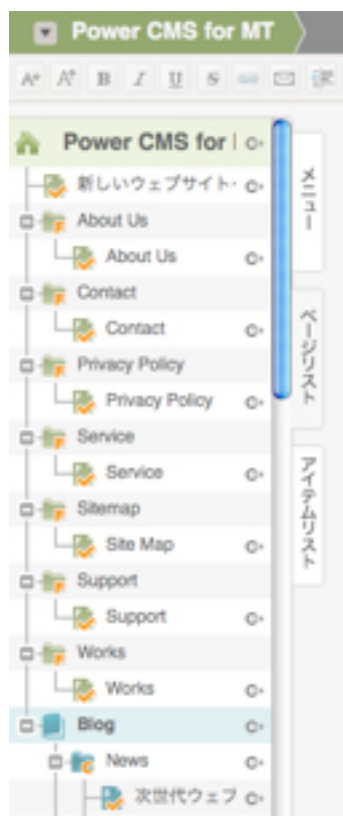
新規作成メニュー(ウェブページ/ブログ記事の作成が可能です)

● サイドメニュー

左カラムのサイドメニューは開閉可能で「メニュー」「ページリスト」「アイテムリスト」をタブで切り替えて利用でき



メニュー



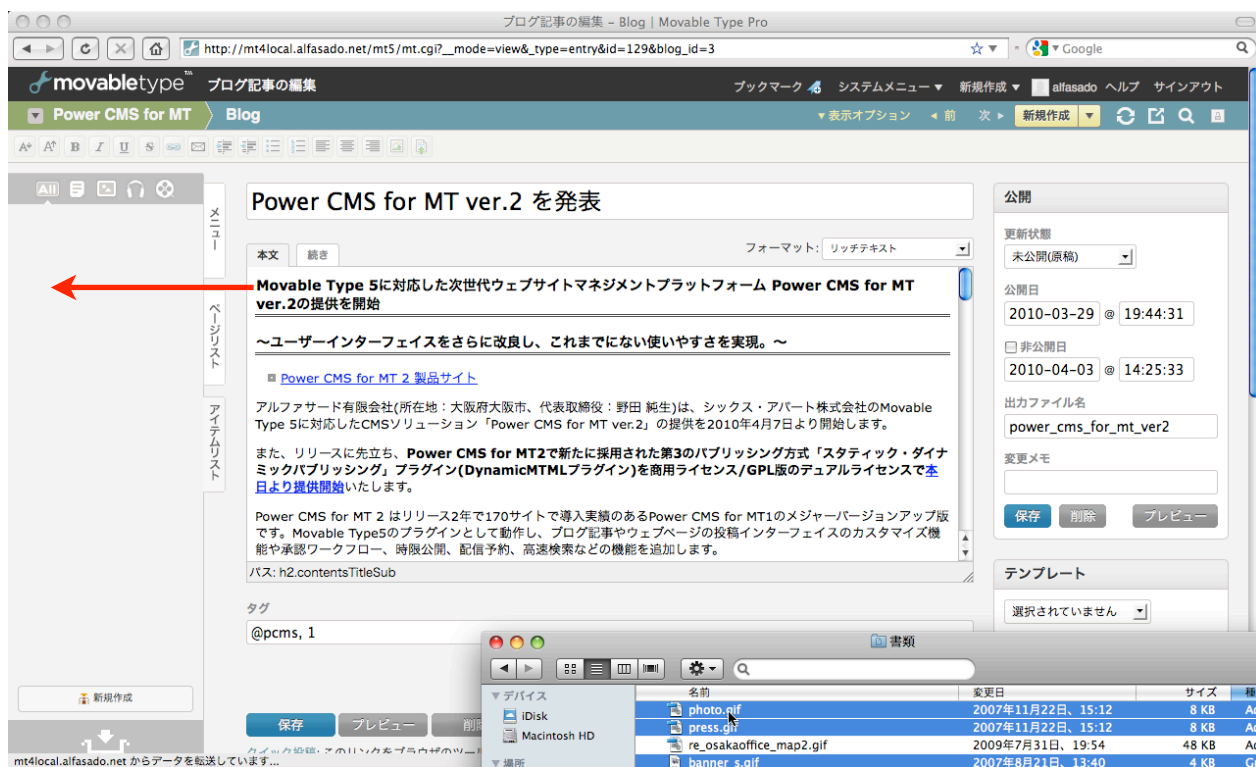
ページリスト



アイテムリスト

● アイテムリスト・ページリストのドラッグ&ドロップインターフェイス

アイテムリストへはデスクトップから複数のファイルをまとめてドラッグすることでアップロードが可能です。



❗フォルダをドラッグ&ドロップすることはできません。

ドラッグ&ドロップでのアップロードを利用するには Mozilla Firefox 3.6 以降をご利用いただくか Google の Gears* をインストールした上で、ユーザー情報の編集画面で「ドロップボックスを有効にする」チェックボックスにチェックを入れて設定を保存してください。

ユーザー情報

ユーザー名*

表示名*
コンテンツの公開時に、この名前が表示されます。

電子メール*

ドロップボックス ドロップボックスを有効にする

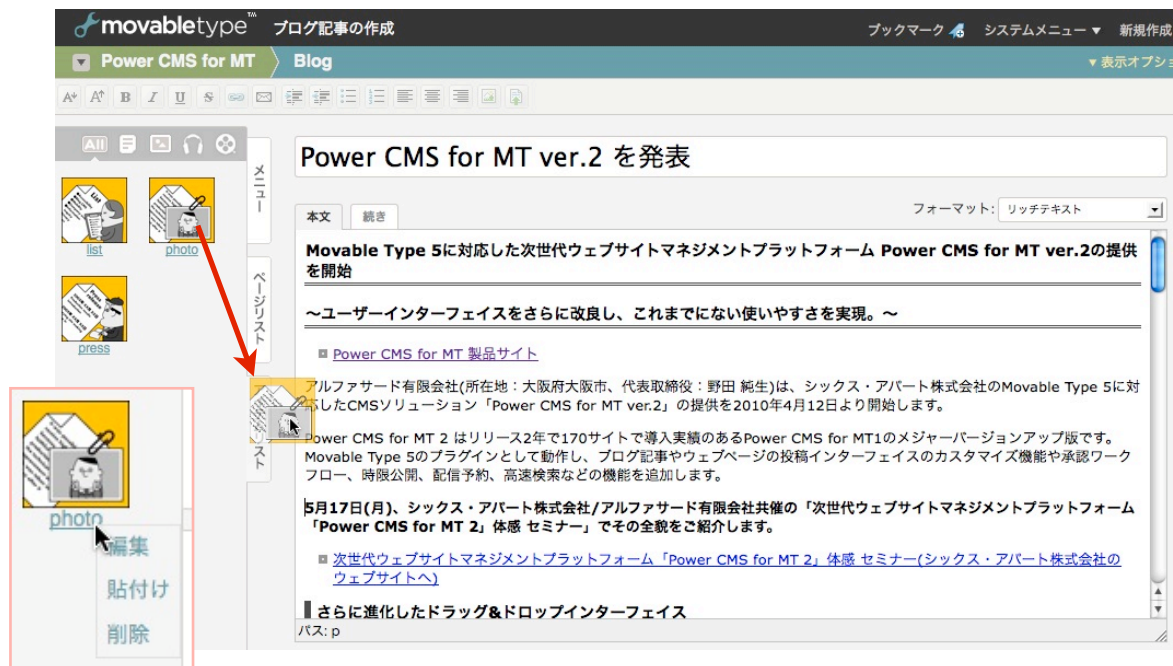
ウェブサイトURL

ユーザーの個人ホームページのURL。表示する名前とウェブサイトURLは、コンテンツやコメントの公開時に利用されます。

*Gears は Google が提供するオープンソースソフトウェアです。

<http://gears.google.com/>からダウンロードしてインストールできます。

アイテムリストやページリストからエディタへはドラッグ&ドロップで画像やリンクの挿入ができます(リッチテキスト利用時のみ)。アイテムリストのアイテムは、ファイル名を右クリックすることで「編集」「貼付け」などの操作を行うことができます。



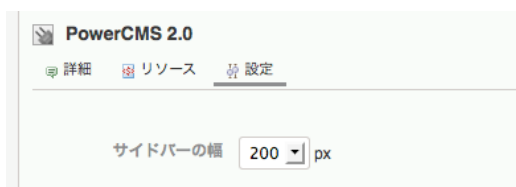
✿ブラウザに Internet Explorer を使用している場合、ドラッグ & ドロップでのリッチテキストエディタへの画像の貼付けはテキストのある領域にのみ行うことができます。

サイドバーの現在選択されているタブをクリックするとメニューを閉じることができます。タブを再度クリックするとメニューが開きます(Internet Explorer 6ではメニューの開閉はできません)。



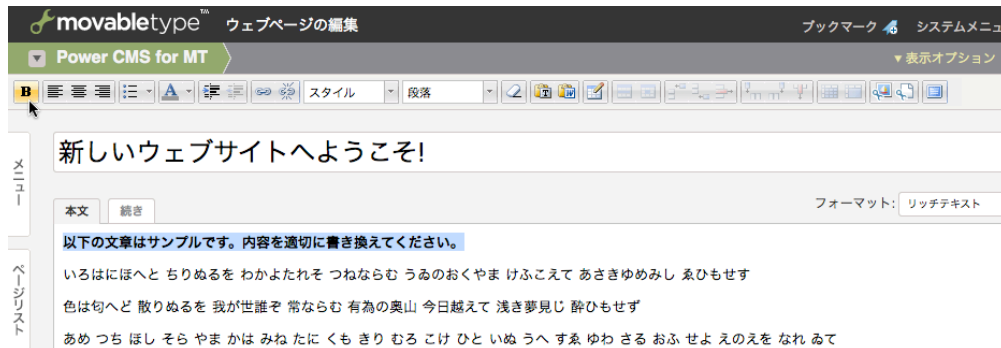
サイドメニューを閉じた状態

サイドメニューの幅はシステムプラグイン設定>Power CMS の設定で変更することが出来ます。



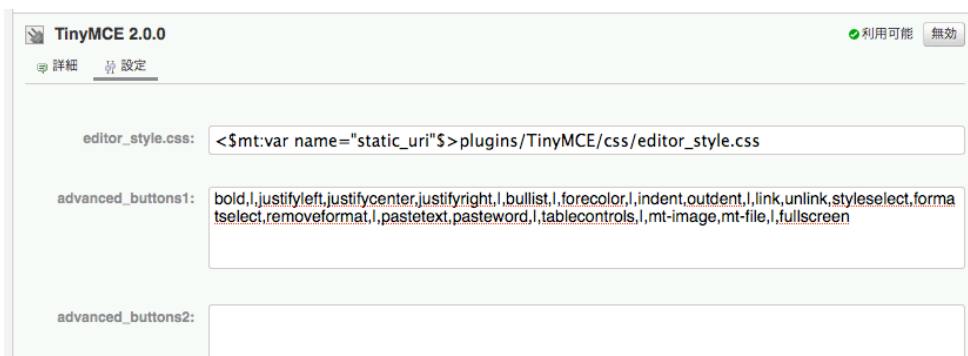
●WYSIWYG エディタ

エントリ編集画面の上部に固定表示されるリッチテキストエディタは「本文」「続き」欄の他、拡張フィールド(複数行テキスト、ファイル添付(説明欄))で利用可能です(Internet Explorer 6ではリッチテキストエディタはMovable Type標準のもののみ「本文」「続き」欄で利用可能です)。



デフォルト設定で表示されるエディタのボタン群

「システムメニュー」→「プラグイン」→「TinyMCE」→「設定」からエディタ領域に表示する CSS の設定や表示するボタンのカスタマイズができます。



1)editor_style.css(ブログ毎に設定可能)

WYSIWYGエディタでの表示に適用する CSS ファイルを指定します。パスの指定にはMTタグが指定できます。

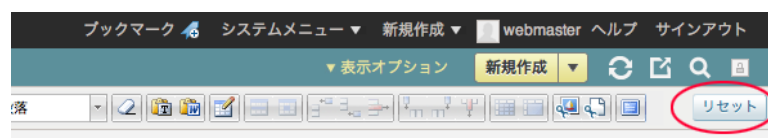
(2)advanced_buttons1~advanced_buttons5

WYSIWYGエディタで利用するボタンを指定できます。設定については TinyMCE のマニュアル(英文)を参考にしてください。

<http://tinymce.moxiecode.com/documentation.php>

※拡張フィールドでWYSIWYGエディタを利用している際のInternet Explorerでの制限事項

拡張フィールドでWYSIWYGエディタを使用している際に、フォーマットに「なし」を指定しているのにエディタツールバーがアクティブであるなど、両者が異なる状態になってしまったりエディタツールバーが消えることがあります。この事象が発生した場合は、エディタ右側の「リセット」ボタンをクリックしてください。



● 拡張フィールドとテンプレートセレクト

Power CMS for MT ではエントリー(ブログ記事とウェブページの総称)の投稿画面に独自の入力コントロール(テキストフィールドや添付ファイル、ラジオボタン等)を好きなだけ追加することができます。

また、コントロールを追加してカスタマイズしたフォームを「ひな形」として保存して、そのフォームを元にして新しいエントリーを作成することができます。

このセクションでは、エントリー投稿画面のカスタマイズ方法と、カスタマイズした投稿画面に対応するテンプレートモジュールを「テンプレートセレクト」に登録する方法を説明します。

● 「エントリーテンプレート」について



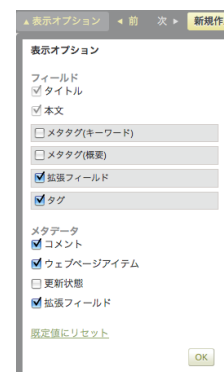
カスタマイズしたエントリー投稿フォームと、カスタマイズしたフォームの出力方法を定義したテンプレートモジュールをセットにしたものを「エントリーテンプレート」と呼びます。

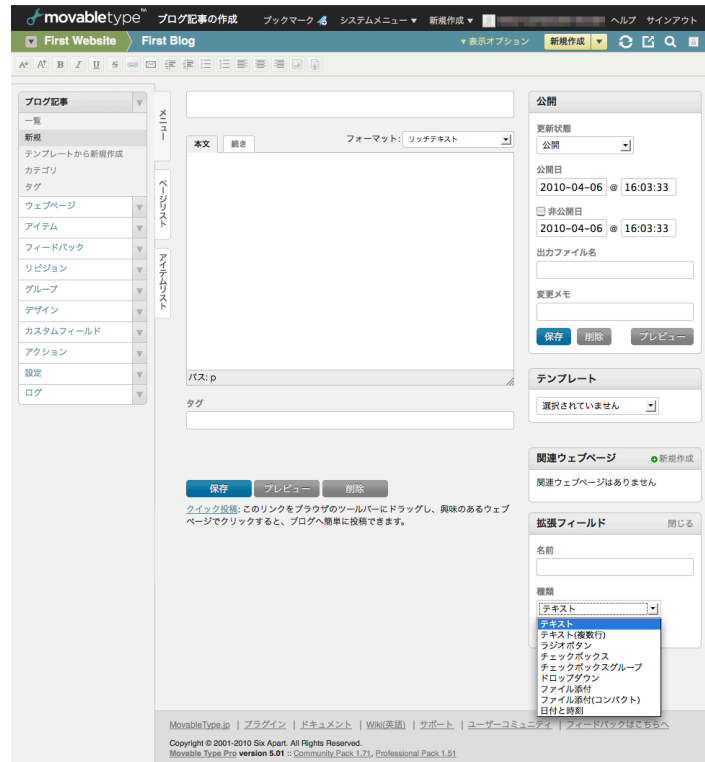
投稿者は予め登録しておいた複数のエントリーテンプレートから選択して、ブログ記事やウェブページを作成することができます。

● 拡張フィールドを利用する

拡張フィールドを利用するには、エントリーの投稿画面の「表示オプション」で「拡張フィールド」(2カ所)チェックを入れてください。チェックを入れて設定を保存すると、画面の右カラムの下部に拡張フィールドの編集権限があるユーザー(権限の設定はプラグイン「ExtFields」の設定で行います)は拡張フィールドの追加、削除、順序の入れ替えが出来るようになります。

拡張フィールドの追加はエントリー投稿画面の右側下部の「拡張フィールド」から行います。





1. 拡張フィールド → 新規追加(+ボタン) をクリックします*。
2. プルダウンメニューから追加したいコントロールの種類を選択します。選択できるのは「テキスト」「テキスト(複数行)」「ラジオボタン」「チェックボックス」「チェックボックスグループ」「ドロップダウン」「ファイル添付」「ファイル添付(コンパクト)」「日付と時刻」の9種類です。
3. 「名前(*)」フィールドにラベルを入力して「OK」ボタンをクリックします。
4. コントロールの種類が「ラジオボタン」「チェックボックス」「チェックボックスグループ」「ドロップダウン」の場合、プロンプトが表示されますので、「チェックボックス」の場合はラベルとなるテキスト、「ラジオボタン」「チェックボックスグループ」「ドロップダウン」の場合は選択肢をカンマ区切りで入力して「OK」ボタンをクリックしてください。

*この機能を利用するためには、Movable Type にログインしているユーザーが「テンプレートの編集権限」を持っている必要があります。テンプレートの編集権限を持たないユーザーは、あらかじめ登録されたテンプレートを利用してエントリを作成することができます。

*各フィールドには同じ名前をつけることができますが、名前をユニークなものにしておくとテンプレート・タグで(label属性で指定することにより)明示的に値を取り出すことができます。また、テンプレート・タグによって名前を取り出すこともできます。

例1) 名前(ラベル)を明示的に指定して値を取り出すテンプレートの例

```
品番 : <MTextFormField label="品番">
```

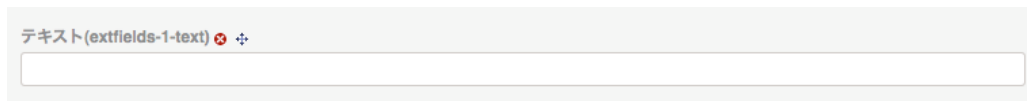
例2) ループによって拡張フィールドの名前(ラベル)と入力された値をすべて取り出すテンプレートの例

```
<ul>
<MTextFields>
  <li><MTextFormFieldLabel> : <MTextFormFieldText></li>
</MTextFields>
</ul>
```

● 拡張フィールドで追加可能なコントロール

(1) 1行テキスト

改行を含まないテキストの入力エリアです。比較的短いテキストや見出し等に適しています。



(2) 複数行テキスト

改行を含む長い文章を入力するのに適した入力エリアです。

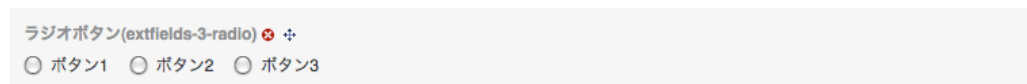
テキストフォーマットの指定やWYSIWYGエディタでの編集が可能です(Internet Explorer 6を除く)。



(3) ラジオボタン

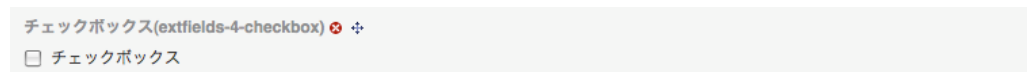
複数の選択肢から1つ選択することのできるコントロールです。

ドロップダウンメニューよりも一覧性に優れています。



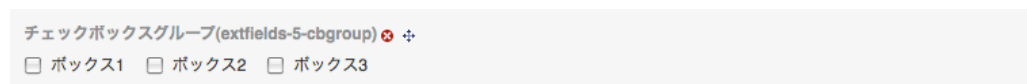
(4) チェックボックス

オン/オフの選択を行うチェックボックスです。



(5) チェックボックスグループ

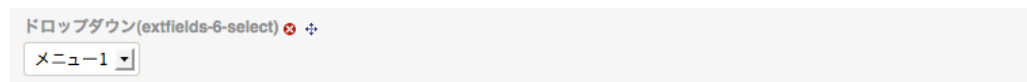
複数のチェックボックスのグループです。複数選択可能な一連の項目の指定に利用できます。



(6) ドロップダウン

複数の選択肢から1つ選択することのできるコントロールです。

ラジオボタンと比較して、多くの項目をコンパクトにおさめることができます。



(7)ファイル添付

ブラウザからファイルを選択してエントリの投稿と同時にファイルをアップロードするためのフィールドです。ファイルには「名前」と「説明」を付けることができます。


ファイルがアップされていない状態のフィールド

ファイルがアップされた状態のフィールド(画像の場合)

(8)ファイル添付(コンパクト)

説明欄のないコンパクトなファイルテンプレフィールドです。

- ・プラグイン設定で指定したサイズより幅の大きな画像(JPEG, GIF, PNG フォーマット)をアップロードした場合には自動的にサムネイルが作成されます。

- ・ファイルには「名前」と「説明」(「添付ファイル」のみ)を付けることができます。「説明」フィールドは「複数行テキスト」と同じテキストフォーマットを適用できます(WYSIWYG エディタも利用できます/Internet Explorer 6を除く)。
- ・アップロード可能なファイルの拡張子、ファイルのアップロード場所はプラグイン管理画面で設定が可能です。
- ・アップロードしたファイルはデータベースの mt_asset テーブルに同時に登録されるため、Movable Type のアイテム管理の機能を利用して管理ができます。
- ・ アイコンをクリックするとアイテム編集画面をモーダルダイアログで開きます。



※注意!

拡張フィールドを利用してアップロードしたファイルは、エントリーと紐づいているため、エントリーを削除すると同時に拡張フィールドによってアップロードされたファイルも削除されることに注意してください(但し、他のエントリーの拡張フィールドがファイルを参照している場合はファイルは削除されません)。

※ファイルがアップロードされるタイミングとファイル情報がデータベースに保存されるタイミングについて

エントリーを保存するタイミングだけでなく、エントリー投稿画面で「プレビュー」ボタンをクリックした時にもファイルがアップロードされます。

但しエントリーに ID が付与されていない場合(新規投稿時)、プレビューボタンを押してプレビュー画面を呼び出した時にはファイルがアップロードされるだけで、そのエントリーに関連付けられるファイルとしての情報はデータベースには保存されません。関連付け情報がデータベースに保存されるのはあくまでもエントリーを「保存」した時だけです。

※置換アップロード時に同名のファイルが存在する場合の「上書き」処理について

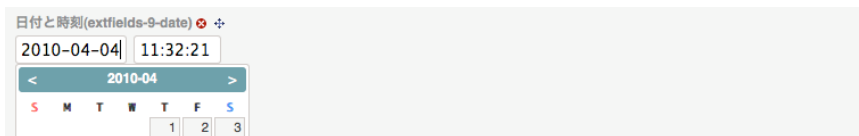
「上書き」ラジオボタンを選択することで、既に添付されているファイルを同名の新しいファイルで置き換えてアップロードすることができますが、これは「保存」ボタンを押してエントリーまたはページを「保存」した時だけです。「プレビュー」ボタンを押した際には上書きではなく「リネーム」と同等の処理をします。

※日本語を含むファイルのアップロード時のリネーム処理について

日本語を含むファイルをアップロードすると正しくリンクされない場合があります。また、PCの日本語文字コードとサーバーの日本語文字コードが異なる場合等正しく名前を取得・設定できないことがあります。このため、拡張フィールドからアップロードされたファイル名に日本語が含まれていた場合、ファイル名をハッシュ値に(MD5関数により)変換します。この時、添付ファイルの「名前」が空欄だった時には、「名前」欄にオリジナルのファイル名(から拡張子を除いたもの)を格納します。

(8)日付

日付を入力するための2つのフィールド(年月日と時分秒)が生成されます。カレンダーから日付を選択することもできます。



●拡張フィールド関連の設定と制限事項

拡張フィールドの機能は、ExtFields プラグインによって実装されています。システムメニュー「設定」→「プラグイン」→ExtFields の設定から拡張フィールドに関する設定を行えます。

●拡張フィールドの設定

システムメニュー「設定」→「プラグイン」を選択し、表示されるプラグインの一覧から「プラグインのセット: Power CMS」→「ExtField」をクリック→さらに「設定」をクリックします。

(1)デフォルトでフィールドブロックを折り畳む

拡張フィールドブロックをデフォルトでは非表示にします。チェックを入れることでクリックで表示・非表示を切り替えられるようになります。



(2)サムネイルの幅

指定した数字(ピクセル)よりも幅の広い画像(JPEG, GIF, PNG フォーマット)をアップロードした場合、自動的にサムネイルが作成されます。

(3)アップロードを許可するファイルの拡張子

指定した拡張子以外のファイルのアップロードを制限します。

(4)ファイルアップロード・フォルダ

アップロード場所を指定できます。ユーザー毎にアップロードディレクトリを指定することもできます。

※ユーザー毎のアップロードパスの指定について

- ・パスに「%u」を含めるとユーザー名に置換されます。
- ・パスに「%i」を含めるとユーザー ID に置換されます。

(5)エントリの複製時にアイテムをコピーする

このチェックを外すと、複製時には添付ファイルフィールドのみが複製され、アップロード済みのアイテム情報は複製されません。

●拡張フィールドの設定(権限の設定)

同じく、拡張フィールドを追加したり、移動したりすることのできる権限を設定することができます(拡張フィールドの移動については後述します)。この設定は、ブログ記事の場合とウェブページの場合の両方に対して行うことができます。

権限

ブログ記事の拡張フィールド管理 ブログ管理者 テンプレートの管理 ブログ記事の作成 ブログ記事の公開
 すべてのブログ記事の編集

ウェブページの拡張フィールド管理 ブログ管理者 テンプレートの管理 ウェブページの管理 ブログ記事の公開

例えば、デフォルトではどちらも「テンプレートの管理」が選択された状態になっていますが、この場合は「テンプレートの管理」権限のあるロールに属するユーザのみが拡張フィールドの追加や移動を行うことができます。「テンプレートの管理」を行うことができないユーザの場合、あらかじめ追加されている拡張フィールドがあればそれらを編集することができますが、新規に追加したり、場所を入れ替えたりすることはできません。

④ 拡張フィールドを削除する、拡張フィールドの順序を入れ替える

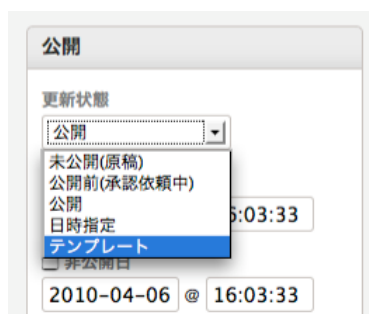
✚ アイコンをドラッグすることでフィールドの順序を入れ替えることができます。また✖ アイコンをクリックすることでフィールドを削除することができます。これらの操作が行えるのは拡張フィールドの操作権限のあるユーザーのみです。

尚、削除や順序の入れ替えが反映されるのはエントリの保存時です。

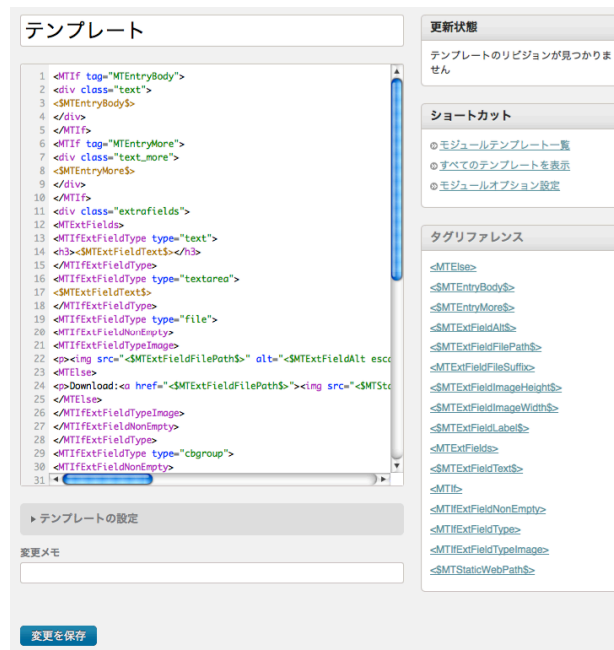


④ カスタマイズ済みのエントリ投稿フォームをテンプレートセレクトに登録する

カスタマイズしたエントリ投稿画面の「公開状態」で「テンプレート」を選択して「保存」をクリックします。



同名のテンプレートが存在しなかった場合(同一ブログ内でテンプレート名を重複して付けることはできません)、そのままテンプレート編集画面に遷移します。標準テンプレートを利用する場合(カスタマイズしない場合、各フィールドの値がグループ処理で出力されます)、「変更を保存」をクリックするとテンプレートの登録が完了します。



● テンプレートセレクト関連の設定項目

(1) CMS テンプレート(上級者向け)

Movable Type の CMS テンプレート(エントリの投稿画面=edit_entry.tpl)をこのフィールドの内容で置き換えます。エントリ投稿画面のレイアウトを変更したりラベルのテキストをカスタマイズしたい場合に利用します。通常は編集する必要はありません(空の場合はデフォルトのテンプレートが利用されます)。

(2) このテンプレートをテンプレートセレクトに登録する

チェックを入れて保存するとメニュー「新規作成」→「テンプレート→記事」(「テンプレート→ページ」)を選択した際に「エントリテンプレート」の候補として表示されます。

(3) 標準テンプレートにする

ブログ内でブログ記事やウェブページを新規作成する時のデフォルトテンプレートにする場合、ここをチェックします。ブログ記事を新規作成する際に、このエントリテンプレートが適用されます。

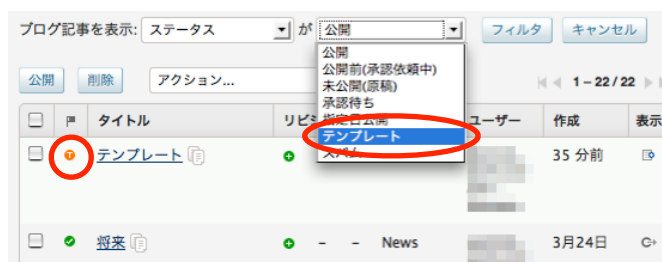
(4) サムネイル

160 pixel * 160 pixel の画像をサムネイルとして登録することができます(アップロードされた画像は自動的にリサイズされます)。メニュー「新規作成」→「テンプレート→記事」(「テンプレート→ページ」)を選択した際にテンプレート名とともにサムネイルが表示されます。



●一覧表示でのエントリテンプレートの表示と絞り込み

エントリ一覧ページでは「エントリテンプレート」として保存されているエントリは **T** アイコンが付いて表示されます。**T** アイコンをクリックするか、フィルタ「テンプレート」を指定することで「エントリテンプレート」のみを一覧表示できます。



●記事テンプレートの作成と削除について

テンプレートセレクト機能を使用して記事テンプレートを作成した場合、その記事テンプレートでファイルを出力するための、記事テンプレートのタイトルと同名のテンプレートモジュールが自動的に作成されます(例えば、「ブログ記事テンプレート」という名前で記事テンプレートを作成した場合、自動的に「ブログ記事テンプレート」というテンプレートモジュールが作成されます)。記事テンプレート作成の際に、すでに記事テンプレートのタイトルと同名のテンプレートモジュールが存在する場合、「ブログに同名のテンプレートが存在します」というエラー表示が返されます。このような場合は、別の名前で記事テンプレートを作成してください。



また、記事テンプレートを作成した場合に自動作成されるテンプレートモジュールは、記事テンプレートを削除しても自動的に削除されません。記事テンプレートを作成し直したい場合は、作成された同名のテンプレートモジュールを手動で削除してください。なお、削除する際は他のテンプレートからインクルードされていないことを十分に確認してから削除するようにしてください。

● 拡張フィールド、テンプレートセレクト関連のテンプレート・タグ

※ ExtField プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTIfExtField

エントリーに拡張フィールドが一つ以上登録されている場合に真を返します。

例:拡張フィールドが含まれている場合のみモジュールをインクルードする例

```
<MTIfExtField>
<MTInclude module="拡張フィールド">
</MTIfExtField>
```

MTextFields

エントリー内の拡張フィールドを順番に取り出します。

例:エントリー内の拡張フィールドのlabel(名前)、text(内容)を順番に出力する例

```
<ul>
<MTextFields>
  <li><MTextFieldLabel> : <MTextFieldText></li>
</MTextFields>
</ul>
```

※ フィールドをラベル名で指定して直感的に取り出すには?

Power CMSの拡張フィールドをテンプレート・タグの中で直感的に扱うには、あらかじめMTextFieldsループの中で MTSetVarBlockタグを使い、値とラベル名を関連付けると良いでしょう。

```
<MTextFields>
  <MTSetVarBlock name="label"><$MTextFieldLabel$></MTSetVarBlock>
  <MTSetVarBlock name="$label"><$MTextFieldText$></MTSetVarBlock>
</MTextFields>
```

ループが実行されると各フィールドのラベルと値が変数に入りますので、以下のような記述で拡張フィールドの値を取り出すことができます。

```
<MTIf name="施設名">
  施設名 : <MTVar name="施設名">
</MTIf>
<MTIf name="住所">
  所在 : <MTVar name="住所">
</MTIf>
```

MTextFieldAsset

MTextFields ループの中で使用し、このタグの中では Asset に関連するタグを使用することができます。拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」である場合にのみ機能します。

例:エントリ内で、拡張フィールドを使って添付されたファイルのlabel(名前)、text(内容)を順番に出力する例

```
<ul>
<MTextFields>
<mt:ExtFieldAsset>
  <li><MTAssetLabel> : <mt:AssetURL></li>
</mt:ExtFieldAsset>
</MTextFields>
</ul>
```

MTextFieldsMultiValues

チェックボックスグループ、ラジオボタン、ドロップダウンメニューのすべての選択肢をループで出力します。ループの中で選択肢のテキストを取り出すにはファンクションタグ MTextFieldValue を使います。

MTIfExtFieldSelected

MTextFieldsMultiValues ループの中で、該当の項目がチェック(選択)されている場合に真を返します。

MTIfExtFieldType

拡張フィールドの種類が type 属性と一致する場合に真を返します。MTextFields のループの中で利用することができます。label 属性(名前)を指定することで MTextFields のループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

例:type 「text (一行テキスト)」のフィールドをh2タグ、type 「textarea(複数行テキスト)」のフィールドをpタグでマークアップする例

```
<MTIfExtFieldType type="text"><h2><MTextFieldText></h2></MTIfExtFieldType>
<MTIfExtFieldType type="textarea"><p><MTextFieldText></p></MTIfExtFieldType>
```

例:label(名前)が「価格」でtype「text(一行テキスト)」の内容を表示する例

```
<MTIfExtFieldType type="text" label="価格"><p>価格:<MTextFieldText label="価格"></p></MTIfExtFieldType>
```

MTIfExtFieldTypeImage

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つアップロードされたファイルが画像(JPEG および GIF、PNG フォーマット)である場合に真を返します。MTextFields のループの中で利用することができます。label 属性を指定することでMTextFields のループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

MTIfExtFieldFileExists

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルがサーバー上に存在する場合に真を返します。

例:ファイルが存在する場合、イメージであればインラインで表示、その他のファイルであればダウンロードリンクを出力する例

```

<MTIfExtFieldFileExists label="添付ファイル">
<p>
  <MTIfExtFieldTypeImage label="添付ファイル">
    
      alt="画像:<$MTextFieldAlt$">
        title="<$MTextFieldDescription$">
          width="<$MTextFieldImageWidth$">
            height="<$MTextFieldImageHeight$">" />
  <MTElse>
    ダウンロード:<a href="<$MTextFieldFilePath$">
      title="<$MTextFieldDescription$"><$MTextFieldAlt$></a>
  </MTElse>
</MTIfExtFieldTypeImage>
</p>
</MTIfExtFieldFileExists>

```

MTIfExtFieldThumbnailExists

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNGフォーマット)である場合、サムネイルがサーバー上に存在する場合に真を返します。

MTIfExtFieldNonEmpty

拡張フィールドの内容(text)が空でない場合に真を返します。

MTIfExtFieldCompare

拡張フィールドの名前(label)と内容(text)を属性値と比較して、一致している場合に真を返します。

例:「価格」フィールドの値が0だった場合に「無料」アイコンを表示する例

```

<MTIfExtFieldCompare label="価格" text="0">
  
<MTElse>
  <MTextFieldText label="価格">円
</MTElse>
</MTIfExtFieldCompare>

```

●ファンクションタグ

MTextFieldCount

エントリに追加されている拡張フィールドの数を出力します。

MTextFieldLabel

名前(label)の値を返します。MTextFields のループの中で利用することができます。

MTextFieldValue

MTextFieldsMultiValues のループの中で、各選択肢のテキストを返します。

MTextFieldName

フィールドを識別する識別子を返します。この値は extfield-1 のような名前では保存されていますが、通常利用することはあまりないでしょう。

MTextFieldText

内容(text)の値を返します。MTextFields のループの中で利用することができます。label 属性を指定することで MTextFields のループ外でも特定の拡張フィールドに対して利用することができます。

※ラジオボタン/ドロップダウンメニューの場合は、選択された項目のテキストを出力します。

チェックボックスの場合は、チェックボックスにチェックされている場合は数字の1を出力します。

ファイルの場合は、ファイルのパス(%r/images/foo.gif)を出力します。

MTextFieldCLabel

拡張フィールドの種類が「チェックボックス」の場合にラベル(チェックボックスの右のテキスト)を出力します。

MTextFieldNum

MTextFieldsのループの中で、何度目のループが実行されているか(数値)を出力します。

MTextFieldFileName

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルの名前を出力します。

MTextFieldFilePath

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、そのファイルのパス(http から始まる URL 形式)を出力します。

MTextFieldFileDate

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つファイルがサーバーに存在する場合、そのファイルのタイムスタンプを返します。

MTextFieldFileSize

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つファイルがサーバーに存在する場合、そのファイルのサイズを返します。属性値を省略した場合、小数点以下1桁までの数字に適切な単位を付けて返します。属性値として、unit(単位= kb または mb)、decimals(数字 = 小数点以下何桁を表示するか)が指定できます。この2つの属性は必ずセットで指定してください。属性を指定した場合、数字のみが返ります(単位は付加されません)。

MTextFieldThumbnail

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNG フォーマット)である場合、サムネイルのパス(httpから始まるURL形式)を出力します。

MTextFieldImageWidth

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNG フォーマット)である場合、ファイルの幅(pixel値)を出力します。

MTextFieldImageHeight

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNG フォーマット)である場合、ファイルの高さ(pixel値)を出力します。

MTextFieldThumbnailWidth

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNG フォーマット)である場合、サムネイル画像の幅(pixel 値)を出力します。

MTextFieldThumbnailHeight

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」且つアップロードされたファイルが画像(JPEG,GIF,PNG フォーマット)である場合、サムネイル画像の高さ(pixel 値)を出力します。

MTextFieldAlt

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、拡張フィールドの「名前」欄に入力したテキストを出力します。

MTextFieldDescription

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、拡張フィールドの「説明」欄に入力したテキストを出力します。

MTextFieldFileSuffix

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」の場合、ファイルの拡張子を出力します。
拡張子にあわせたアイコンを用意することによって、ファイルの種類に応じたアイコンを表示するといったデザインが可能になります。

※高速化のためのヒント：

各ファンクションタグで label 属性を指定して個々にフィールドを取り出す方法によってテンプレートの自由度は高くなりますが、MTextField ループで順番に取り出す方が処理は高速になります。MTextFieldType タグをうまく活用してできるだけループの中で処理するのが高速化のポイントです。

MTextFieldFileThumbnail (スタティックのみ)

拡張フィールドの種類(type)が「ファイル」で且つ「画像」でオリジナルのファイルがサーバーに存在する場合、サムネイルのパスを返します。以下、オリジナルの画像が「http://example.com/files/admin/foo.gif」でラベルが「メイン画像」の場合の例を示します。

例1:

```
<MTextFieldFileThumbnail label="メイン画像" width="120">
```

- 同じ階層に foo-thumb120x.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレート・タグは <http://example.com/files/admin/foo-thumb120x.gif> を返します。

例2:

```
<$MTextFieldsFileThumbnail label="メイン画像" height="120"$>
```

- 同じ階層に foo-thumbx120.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレート・タグは <http://example.com/files/admin/foo-thumbx120.gif> を返します。

例3:

```
<$MTextFieldsFileThumbnail label="メイン画像" width="120" height="120"$>
```

- 同じ階層に foo-thumb120x120.gif を探して、存在しなければその場で生成します。
- テンプレート・タグは <http://example.com/files/admin/foo-thumb120x120.gif> を返します。

✿TemplateSelector プラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTIfTemplateSelectorBlock

常に囲んだ内容进行处理します。

このタグは、エントリーテンプレートを新たに作成して追加した時に自動的にテンプレートモジュールを追加するためのタグです(このタグが記述されているテンプレートのブロックに、テンプレートモジュールが自動登録/自動削除されます)。

MTIfTemplateSelector

エントリーテンプレート名が name 属性で指定された名前と一致する場合に真を返します。

例: ブログ記事テンプレートに登録されたテンプレート分岐の例

```
<MTIfTemplateSelectorBlock>
<!--エントリーテンプレートを登録/
削除するとMTIfTemplateSelectorBlockの中は自動的に更新されます-->
<MTIfTemplateSelector name="プレスリリーステンプレート">
  <MTInclude module="プレスリリーステンプレート">
</MTIfTemplateSelector>
<MTIfTemplateSelector name="拡張フィールドテンプレート">
  <MTInclude module="拡張フィールドテンプレート"></MTIfTemplateSelector>
<MTIfTemplateSelector name="">
  <MTInclude module="ブログ記事の詳細"></MTIfTemplateSelector>
</MTIfTemplateSelectorBlock>
```

●ファンクションタグ

MTEntiryTemplateName

エントリーテンプレートの名前を返します。

👤 アンケートフォームの作成

Power CMS for MT の拡張フィールドを使うと、ユーザーからのフィードバックを受けるためのフォームを簡単に作成することができます。拡張テンプレートにはあらかじめフォームを生成するためのテンプレートが組み込まれており、また確認画面の表示や投稿されたデータを保存するための CGI プログラムが同梱されています。

● フォームを作成する

フォームの作成はエントリ(ブログ記事又はウェブページ)単位で行います。

フォームを作成する手順は、Power CMS の拡張フィールドで入力項目を指定して、テンプレート選択ドロップダウンメニューから「フォーム(ブログ記事)」又は「フォーム(ウェブページ)」を選択して保存するだけです。

フォームの生成に対応しているコントロールは「添付ファイル」「日付」以外のすべてのフィールドです。

例えば上記の図のような項目フィールドを追加してエントリを保存すると、下の図のようなフォームが自動的に生成されます。

お問い合わせ

April 06,2010

お名前 (必須)

住所

メールアドレス (必須)

お問い合わせ内容

このサイトを何で知りましたか？

雑誌 検索 ニュースサイト ブログ その他

個人情報の取り扱い (必須)

個人情報の取り扱いに関するポリシーに同意する

確認する

フォームに項目を入力して投稿すると、以下のような確認画面を表示した後、「送信する」ボタンをクリックすると投稿されます。処理を行うプログラムは /mt-form.cgi です(この CGI スクリプトを mt.cgi と同じ場所に設置して実行パーミッションを付与する必要があります)。

お問い合わせ

April 06,2010

入力されていない必須項目があります。入力内容を確認してください。

お名前 (必須)	野田純生
住所	東京都六本木港区
メールアドレス (必須)	この項目は必須項目です
お問い合わせ内容	お問い合わせ内容を入力します
このサイトを何で知りましたか?	
個人情報の取り扱い (必須)	この項目は必須項目です

戻る

●投稿後の処理とフォーム設定のカスタマイズ

(1)投稿後の処理と保存データ

デフォルトの設定では投稿された内容は、データベースに保存されエントリの投稿者及びフォームからの投稿者にメールで通知されます(プラグイン設定で送信する/しないを切り替えられます)。投稿されたデータの一覧は、システムまたはブログのメニュー「フィードバック」→「フォームデータ」を選択することで表示されます。

投稿されたフォームデータは、投稿されたエントリ単位、メールアドレス単位、日付単位、IP アドレス単位、ステータスによって絞り込むことができます。フォームデータ(概要が表示されます)をクリックすると各データの詳細を見ることができ、項目を選択して CSV ファイルをダウンロードすることも出来ます。

すべてのフォームデータ [絞り込み]

承認 承認を取消 削除 CSV

1 - 2 / 2

<input checked="" type="checkbox"/>	識別子	フォームデータ	フォームの投稿者	ブログ記事/ウェブページ	日付	IP
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	野田純生, 東京都六本木港区, junnama@alfasado.jp , お問い合わせ内容を入力します, 雑誌, ブログ, 個人情報の取り扱いに関するポリシーに同意する	kondoh@alfasado.jp	お問い合わせ	2010年4月6日 17:03	192.168.11.33
<input checked="" type="checkbox"/>	▲	野田, お問い合わせ	kondoh@alfasado.jp	将来	2010年3月24日 15:18	192.168.11.33

(2) 必須項目の指定条件

デフォルトのテンプレートでは、ラベルに「必須」の文字列を含む項目を必須項目として扱いますが、これはテンプレートで定義されています。

拡張フィールドをフォームのコントロールとして出力し、ラベルに「必須」を含む項目を必須項目として扱うためのテンプレートは以下のようなものです。<MTIf name="label" like="必須">の部分を変更することで、必須項目の指定条件をカスタマイズすることができます(名前が required であるhidden フィールドを指定することで必須項目チェックが行えます)。

```
<MTIfExtFieldType type="text">
  <MTSetVarBlock name="label"><$MTEextFieldLabel$></MTSetVarBlock>
  <dl>
    <dt><MTVar name="label"></dt>
    <dd><input type="text" name="<$MTEextFieldName$>" style="width:95%" value="<$MTEextFieldText escape html="1"$>" />
      <input type="hidden" name="item_array" value="<$MTEextFieldName$>" />
      <MTIf name="label" like="必須"><input type="hidden" name="required" value="<$MTEextFieldName$>" /></MTIf>
    </dd>
  </dl>
</MTIfExtFieldType>
```

(3) メール送信先/送信後に表示されるページの指定

送信後に表示するページのアドレスやメールを送信するユーザーの設定については form の hidden 項目として指定します。

デフォルトテンプレートでは以下のような指定となっています。

```
<input type="hidden" name="blog_id" value="<$MTBlogId$>" />
<input type="hidden" name="entry_id" value="<$MTEntId$>" />
<input type="hidden" name="template_id" value="<$MTBuildTemplateID$>" />
<input type="hidden" name="entry_author" value="<$MTEntAuthorID$>" />
<input type="hidden" name="return_uri" value="<$MTEntPermalink$>" />
<input type="hidden" name="__mode" value="confirm" />
```

各パラメタの意味は次の通りです。

パラメタ名	デフォルト値	解説
blog_id	<\$MTBlogId\$>	ブログのIDを指定します。
entry_id	<\$MTEntId\$>	エントリのIDです。投稿された内容は、このエントリのコメントとして保存されます。
template_id	<\$MTBuildTemplateID\$>	確認画面の表示に使われるテンプレートのIDです。
entry_author	<\$MTEntAuthorID\$>	投稿された内容はこの投稿者ユーザーにメールで送信されます。
return_uri	<\$MTEntPermalink\$>	投稿を受け付けた後に表示するページのURLを指定します。
__mode	confirm	confirm 又は submit を指定します。submit を指定した場合は確認画面は表示せずにダイレクトに投稿を行います。
key(オプション)	なし	確認画面の表示の分岐に利用するためのキーです。数字等を入れておくことで確認画面の分岐処理が可能です。
identifier(オプション)	なし	管理画面で絞り込みを行うための値をセットします。

(4) 確認画面のカスタマイズ

確認画面の表示には、template_id で指定したテンプレートが使われます。

また、入力内容を表示する部分のテンプレートは各ブログのシステムテンプレート「フォーム投稿確認画面」が使われます。

確認画面は次の流れで生成されます。

1. CGI プログラムが受け取った値を「フォーム投稿確認画面テンプレート」に渡し、確認内容を反映したテーブルをビルドします。
2. template_id で指定したテンプレートに対し、entry_id で指定したエントリを指定してビルドします。但し、entry_text(<\$MTEnterBody\$>)を 1. でビルドしたテーブルに置き換えます。

2.でページをビルドするとき、確認画面を表示しているかどうかを <MTIfEntryIsDynamic> タグで分岐させることができます。つまり、確認画面のカスタマイズは、エントリ(ブログ記事又はウェブページ)のテンプレートで <MTIfEntryIsDynamic> タグを利用して分岐させること及び「フォーム投稿確認画面」の内容を変更することで行えます。

また、フォームのパラメタ「key」によって確認画面上の処理を分岐させることが出来ます。

渡された「key」の値は「フォーム投稿確認画面」テンプレートの中でのみ利用できるタグ <mt:var name="key"> で取り出すことが出来ます。例えば key に値が入っているかどうかでテンプレートを分岐させるタグは以下のようになります。

```
<mt:if name="key">
  <!--キーが指定されているときの表示-->

<mt:else>
  <!--キーが指定されていないときの表示-->

</mt:else>
</mt:if>
```

keyと同様に渡されるパラメタに error があります。これは、必須項目として指定された内容が空だった場合に指定されるパラメタです。

```
<mt:if name="error">
  入力されていない必須項目があります。入力内容を確認してください。

<mt:else>
  以下の内容でよろしければ送信してください。

</mt:else>
</mt:if>
```

(5) 通知メールのカスタマイズ

投稿後に送信される通知メールのテンプレートは各ブログのシステムテンプレート「フォーム投稿者宛メール」及び「フォームエントリ作成者宛メール」です。

●プラグイン設定

「システムメニュー」→「プラグイン設定」→「ExtraForm」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
CSVデータをShift_JISエンコードする	ダウンロードするCSVデータをShift_JISエンコードします。	
メールフィールド名	ここで指定した名前と同一の拡張フィールドをメールアドレス欄とみなします。	電子メール(必須)
フォームメールをエントリの作成者へ送信する	エントリ(ブログ記事・ウェブページ)の作成者へメールを送る場合はチェックします。	
送信者へ確認メールを送信する	フォームからの投稿者へ確認メールを送信する場合、チェックします。	
公開状態	デフォルトの公開状態(ステータス)を指定します。ステータスは2段階です。	
表示数	管理画面上のリスト表示の表示件数です。表示件数をオーバーした場合はページ送りナビゲーションが表示されます。	
アクションバーの配置	管理画面上のリスト表示の際のアクションバーの表示位置です。	
フォームデータのスロットル (秒)	スパム投稿を防止するため、一定の秒数以内の同一アドレスからの投稿を制限します。	60
確認メールの署名	確認メールの署名を指定します。テンプレートによるカスタマイズも可能です。	

●アンケートフォーム関連のテンプレート・タグ

✿ExtField プラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTIfEntryIsDynamic

テンプレートが確認画面表示処理から呼び出されている時に真を返します。

✿「フォーム投稿確認画面」内で利用出来る MTIf タグ及び MTVar タグのパラメタ

name="error"

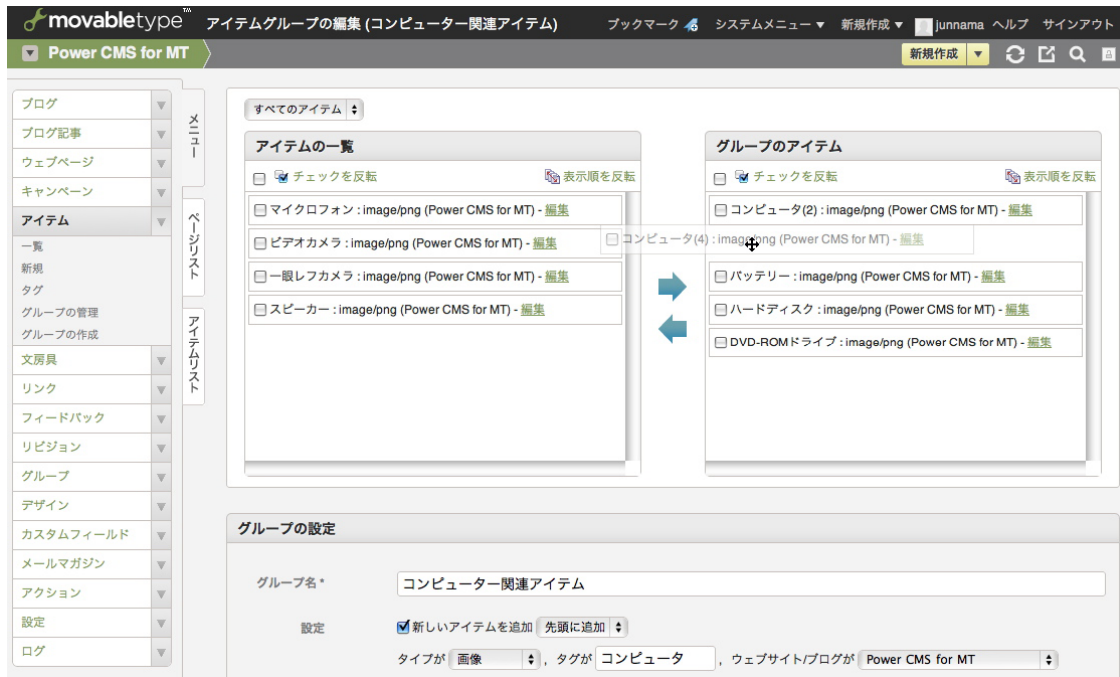
必須項目に不備(空欄)があったときに渡されます。

name="key"

form の keyパラメタに指定された値がセットされます。

🎯 グループの作成とエン트리並び順の指定

Power CMS for MT は Movable Type に登録されているエン트리（ブログ記事/ウェブページ）、カテゴリ（カテゴリ/フォルダ）、ブログ（ウェブページ/ブログ）などのオブジェクトをグループ化し、表示順を自在に設定できます。グループはいくつでも作成でき、簡単なテンプレート・タグで呼び出すことができます。この機能は、ItemSort プラグイン(ブログ記事/ウェブページのグループ指定と並び替え設定)及び ItemGroup プラグイン(カテゴリとブログのグループ指定と並び替え設定)により提供されます。



グループ&ソート機能に対応しているオブジェクトは以下の通りです。

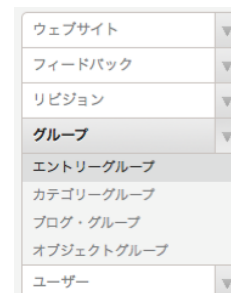
- ・ オブジェクト (ウェブサイト/ブログ/カテゴリ/フォルダ/ブログ記事/ウェブページの混在)
- ・ ブログ(ウェブサイト/ブログ *混在可能)
- ・ カテゴリ(カテゴリ/フォルダ *混在可能)
- ・ エントリー(ブログ記事/ウェブページ *混在可能)
- ・ アイテム
- ・ テンプレートモジュールとウィジェット
- ・ キャンペーン(広告管理)
- ・ リンク
- ・ カスタムオブジェクト

このセクションでは、グループの作成と設定、設定したグループのアイテムを表示させるためのテンプレート・タグについて説明します。尚、カテゴリ/ブログのグループ化、並び順の指定も同様の手順で行うことができます(ただし、ブログ・グループの作成、設定はシステムメニューからのみ行えます)。

●新規エントリグループを作成する



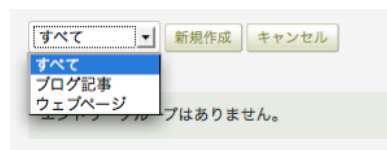
ブログのサイドバー「グループ」→
「エントリグループ」
「カテゴリーグループ」
「オブジェクトグループ」



システム、ウェブサイトのサイドバー「グループ」→
「エントリグループ」
「カテゴリーグループ」
「ブログ・グループ」
「オブジェクトグループ」

システムメニューから選択した際には全てのブログのエントリが対象になります。各ブログのメニューから選択した場合には、そのブログ内のエントリ/ウェブページが対象になります。

新規グループを作成(+アイコン)をクリックします。プルダウンから「すべて」あるいは「ブログ記事」「ウェブページ」を選択して「新規作成」をクリックします。

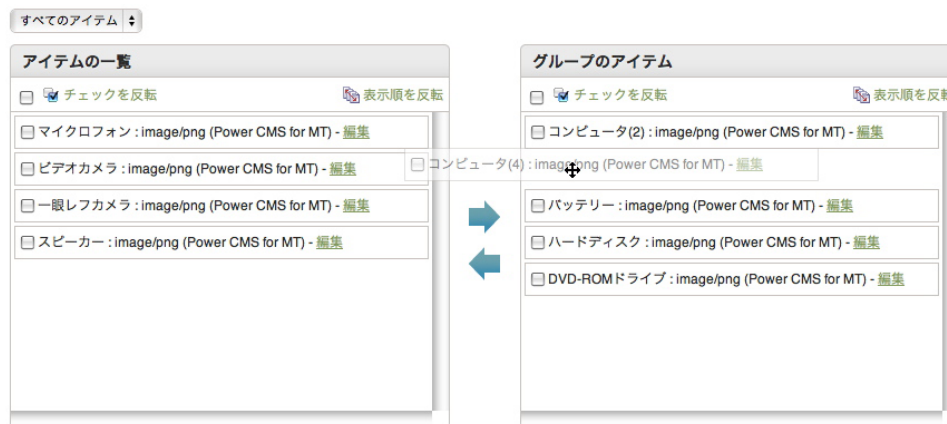


●グループへのアイテムの登録

画面左の「アイテムの一覧」から右の「グループのアイテム」グループに登録したい項目をドラッグするか、登録したい項目にチェックを入れて右矢印をクリックします。

ドラッグ&ドロップで項目の並び順を変更できます。

アイテムの一覧では、同一カテゴリ名などを識別しやすいよう、ブログ/ウェブサイト名やオブジェクトのクラス(ブログ記事かウェブページか、等)などの識別するための情報をオブジェクト名にあわせて併記しています。またオブジェクトの編集画面へのリンクがあります(クリックすると別ウィンドウを開きます)。



※注意!

画面左側のエン트리一覧に表示される件数が多い場合、管理画面の動作が遅くなることがあります。左側の一覧に表示する項目はフィルター等を使ってできるだけ絞り込むことをお勧めします。フィルターを使うと「カテゴリ」や「タグ」によって一覧表示項目を絞り込むことができます。

●グループの設定

グループの設定

グループ名*

設定 新しいアイテムを追加

タイプが , タグが , ウェブサイト/ブログが

- ・グループ名は同一のブログ内に重複して付けることは出来ません。
- ・アイテムの追加条件を指定すると新しく作成されたエントリを自動的にグループの末尾又は先頭に追加することができます。
- ・グループのアイテムは簡単なテンプレート・タグで呼び出すことができます。

例1) ブログIDが「3」のブログのグループ名「おすすめ」の項目をすべて表示するテンプレートの例

```
<div class="widget">
<h3 class="widget-header">「<MTBlogName>」のおすすめ情報</h3>
<div class="widget-content">
<MTItemGroupEntries group="おすすめ" blog_id="3">
<MTItemGroupEntriesHeader><ul class="widget-list"></MTItemGroupEntriesHeader>
<li class="widget-list-item"><a href="<MTEntryPermalink">"><MTEntryTitle></a></li>
```



```

    <MTItemGroupEntriesFooter></ul></MTItemGroupEntriesFooter>
  </MTItemGroupEntries>
</div>
</div>

```

例2) すべてのブログを対象としたグループ名「おすすめ」の項目の先頭の5件を降順で表示するテンプレートの例

```

<div class="widget">
  <h3 class="widget-header">すべてのブログからおすすめ情報をピックアップ</h3>
  <div class="widget-content">
    <ul class="widget-list">
      <MTItemGroupEntries group="おすすめ" sort_order="descend" lastn="5">
        <li class="widget-list-item"><a href="<MTEntryPermalink">"><MTEntryTitle><-
/a></li>
      </MTItemGroupEntries>
    </ul>
  </div>
</div>

```

● ワンクリックでテンプレートを作成



グループ作成して保存すると管理画面下部の「保存」ボタンの横に「モジュールの作成」というボタンが表示されます。このボタンをクリックすることで(アイテムグループの場合)「アイテムグループ：グループ名」というタイトルで下記のようなテンプレートモジュールが自動的に作られます。

```

<MTItemGroupAssets group="(グループ名)">
  <MTItemGroupAssetsHeader><ul></MTItemGroupAssetsHeader>
  <li class="<MTAssetType>">
    <MTIf tag="MTAssetType" eq="image">
      <a href="<MTAssetURL>" target="_blank">" alt="<MTAssetLabel>" /></a>
    <MTElse>
      <a href="<MTAssetURL>" target="_blank"><MTAssetLabel></a>
    </MTElse>
  </MTIf>
  </li>
  <MTItemGroupAssetsFooter></ul></MTItemGroupAssetsFooter>
</MTItemGroupAssets>

```

生成されるテンプレートモジュールの内容はプラグイン設定(ウェブサイト/ブログ毎)にカスタマイズすることも可能です。

●カテゴリとエントリグループを同期させる

各ブログの ItemSort プラグインの設定で「カテゴリ保存時に同名のグループを保存する」にチェックを入れるとカテゴリ作成時に同名のグループが作成されるようになります。この機能を使うことで、各カテゴリアーカイブの表示項目/表示順を自由に設定できます。



例) カテゴリアーカイブで MTEntries の代わりに ItemGroupEntries タグを使う例

```
<$MTCategoryLabel setvar="category_label">
<MTItemGroupEntries group="$category_label">
  <MTItemGroupEntriesHeader>
  <ul>
  </MTItemGroupEntriesHeader>
  <MTIf tag="EntryClass" eq="page">
    <li><a href="<$MTPagePermalink escape="html">"><$MTPageTitle
escape="html"></a></li>
  <MTElse>
    <li><a href="<$MTEnterPermalink escape="html">"><$MTEnterTitle
escape="html"></a></li>
  </MTElse>
  </MTIf>
  <MTItemGroupEntriesFooter>
  </ul>
  </MTItemGroupEntriesFooter>
</MTItemGroupEntries>
```

🕒 アイテムグループ関連のテンプレート・タグ

🌟 ItemSort プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTItemGroupEntries

name 属性で指定したグループのエントリ(ブログ記事/ウェブページ)を順番に出力します。
sort_order 属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn 属性で出力するエントリの数を指定できます。

MTItemGroupEntriesHeader

MTItemGroupEntries ブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupEntriesFooter

MTItemGroupEntries ブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupEntryPrevious

現在のエントリの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のエントリの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTEntries の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupEntryNext

現在のエントリの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のエントリの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTEntries の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

● ファンクションタグ

MTGroupEntryLink

グループ内のエントリがブログ記事かウェブページかに関わらず、エントリへの URL を出力します。

その他、MTItemGroupEntries ループの中では、MT 標準のブロックタグ MTEntries の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

🌟 ItemGroup プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTItemGroupCategories

name 属性で指定したグループのカテゴリ(カテゴリ/フォルダ)を順番に出力します。
sort_order 属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn 属性で出力するカテゴリの数を指定できます。

MTItemGroupCategoriesHeader

MTItemGroupCategories ブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupCategoriesFooter

MTItemGroupCategories ブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupCategoryPrevious

現在のカテゴリの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のカテゴリの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTCategories の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupCategoryNext

現在のカテゴリの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のカテゴリの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTCategories の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupBlogs

name 属性で指定したグループのブログを順番に出力します。
sort_order 属性で降順,昇順(descend|ascend)を、lastn 属性で出力するカテゴリの数を指定できます。

MTItemGroupBlogsHeader

MTItemGroupBlogs ブロックタグのループの最初の実行時に真を返します。

MTItemGroupBlogsFooter

MTItemGroupBlogs ブロックタグのループの最後の実行時に真を返します。

MTItemGroupBlogPrevious

現在のブログの、グループ内におけるひとつ前(管理画面上ではひとつ上)のブログの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTCategories の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTItemGroupBlogNext

現在のブログの、グループ内におけるひとつ後(管理画面上ではひとつ下)のブログの内容を出力するためのタグです。このタグの中では、MT 標準のブロックタグ MTCategories の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

●ファンクションタグ

MTItemGroupCategories ループの中では、MT 標準のブロックタグ MTCategories の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。MTItemGroupBlogs ループの中では、MT 標準のブログ関連のファンクションタグやエントリ、カテゴリに関するブロックタグなどがそのまま使えます。

✿blog_id 属性について

エントリ/カテゴリグループにおいて blog_id を指定しなかった場合、当該ブログで name 属性と一致するグループを検索して処理を行います。一致するグループがなかった場合、ブログ全体で name 属性と一致するグループを検索し、グループが存在すればそのグループの項目を出力します(MTItemGroupEntries/MTItemGroupCategoriesブロックタグでは別のブログのIDを指定することも可能です)。

🕒 ObjectGroup プラグイン (エントリ/カテゴリ/ブログをグループ化)

エントリグループやカテゴリグループのように同一のオブジェクトだけでなく、エントリ(ブログ記事/ウェブページ)、カテゴリ(カテゴリ/フォルダ)、ブログといった異なるオブジェクトが混在するグループを作成します。

操作方法はエントリグループなどと同様ですが、左カラムの上部のタブでオブジェクトの切り替えが可能です。



🌟 テンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTObjectGroupItems

グループ名(groupモディファイア)を指定してグループのアイテムをループで呼び出します。

MTIfObjectGroupItemIsEntry

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがエントリ(ブログ記事又はウェブページ)の場合に真を返します。

MTIfObjectGroupItemIsCategory

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがカテゴリ(カテゴリまたはフォルダ)の場合に真を返します。

MTIfObjectGroupItemIsBlog

実行されているループの中で出力されるオブジェクトがブログの場合に真を返します。

例:

```
<ul>
  <MTObjectGroupItems name="グループ名" blog_id="1">
    <$MTObjectGroupItemClass setvar="item_class">
      <MTIfObjectGroupItemIsEntry>
        <MTIf name="item_class" eq="entry">
          <li class="entry"><a href="<$MTEnterPermalink$"><$MTEnterTitle$></a></li>
        </MTIf>
        <MTIf name="item_class" eq="page">
          <li class="page"><a href="<$MTPagePermalink$"><$MTPageTitle$></a></li>
        </MTIf>
      </MTIfObjectGroupItemIsEntry>
      <MTIfObjectGroupItemIsCategory>
        <MTIf name="item_class" eq="category">
          <li class="category"><a href="<$MTCategoryArchiveLink$"><$MTCategoryLabel$><-
/a></li>
        </MTIf>
        <MTIf name="item_class" eq="folder">
          <li class="folder"><$MTFolderLabel$></li>
        </MTIf>
      </MTIfObjectGroupItemIsCategory>
      <MTIfObjectGroupItemIsBlog>
        <li class="blog"><a href="<$MTBlogURL$"><$MTBlogName$></a></li>
      </MTIfObjectGroupItemIsBlog>
    </MTObjectGroupItems>
  </ul>
```

🌟 グループ機能の使い分けについて

ObjectGroup によって作成されたグループのアイテムを取り出すループは単一のオブジェクトのグループと比較して処理速度/負担が大きいことに注意してください。

🎯 ダイナミック検索機能

Power CMS for MT では Movable Type のダイナミックパブリッシングを利用して高速に動作する検索機能を備えています。また、この機能を利用することによって、拡張フィールドの内容を検索対象にすることができます。

このセクションでは、キーワード検索、タグ検索、検索結果のフィード配信といった検索機能全般について説明します。

🌟検索機能を利用するためにはサーバーにPHPが必要です。

● 検索機能を利用するための準備

検索機能は Movable Type のダイナミックパブリッシングを利用するため、各ブログの設定でダイナミックパブリッシングを有効にする必要があります。

(1)Dynamic Site Bootstrapper テンプレートの作成

検索機能を利用するブログで Dynamic Site Bootstrapper という名前のインデックス・テンプレートを作成します。出力ファイル名は mtview.php 、公開の設定を「スタティック（既定）」にしてください。

🌟このテンプレートは、テンプレートセットを利用することによって自動的に生成されます。

Dynamic Site Bootstrapper テンプレートは、Movable Type が自動的に生成する mtview.php を上書きします。mtview.php が既に存在する場合、上書きが可能なパーミッションになっている必要があります。

(2)検索結果テンプレート、検索フィードテンプレートの作成

検索機能を利用するブログで「検索結果」と「検索フィード」のためのインデックス・テンプレートを作成します。それぞれ出力ファイル名は search.html, feed.xml としてください。この2つのテンプレートについては公開の設定を「ダイナミック」にしてください。

🌟このテンプレートは、テンプレートセットによって自動的にインストールされます。

出力ファイル名を他の名前に変更することも可能です。その場合、Dynamic Site Bootstrapper 及びプラグインの設定、を変更する必要がありますので、特にファイル名を指定する理由がない場合は dynamic/search.html, dynamic/feed.xmlとしてください。

●検索クエリー

Power CMS for MT のダイナミック検索では、指定カテゴリ以下のコンテンツを対象とした検索や、フィールドによる検索結果の表示順指定が可能です。検索クエリに指定出来るパラメタは search.html, feed.xml 共に同じです。

パラメタ	解説
blog_id	検索対象とするブログのIDを指定します。blog_idを指定しなかった場合すべてのブログを対象に検索を行います(複数のブログを明示的に指定することはできません)。
include_blogs	検索対象とするブログのIDをカンマ区切りで指定します。allを指定するとすべてのブログを検索対象にします。複数の値をチェックボックス等で指定する場合はname属性に「include_blogs[]」と指定します。
exclude_blogs	検索対象から除外するブログのIDをカンマ区切りで指定します。include_blogs属性と同様の方法で複数指定が可能です。
category	検索対象とするカテゴリのIDを指定します。
categories	複数カテゴリを指定する場合にカテゴリのIDを渡します。categories[]=1&categories[]=2&categories[]=3 のように配列で渡すか categories=1,2,3 のようにカンマで区切って渡します。
categories_and_or	「and」を渡せば、categoriesパラメタにカテゴリのIDが複数渡されたときにカテゴリのAND検索になります。「or」を渡すか、何も渡さなければOR検索になります。
tag	tag=1とした場合、タグ検索となります。
sort_order	検索結果の表示順を指定します。ascend(昇順)、descend(降順 - デフォルト)が指定できます。
sort_by	検索結果の表示順を何をキーにしてソートするかを指定します。authored_on, created_on(作成日), modified_on(更新日), title(タイトル), text(本文), text_more(追記), excerpt(概要), keywords(キーワード), author_id(投稿者ID)が指定できます。省略した場合、authored_on(作成日)をキーとしてソートします。
offset	検索結果の先頭をn番目にするかを指定します。省略した場合、1件目から表示します。
limit	検索結果をoffsetで指定した件数分表示します。省略した場合、各ブログのプラグイン設定で指定した数値分表示します。
date	日付を指定して絞り込みを行う場合に対象とするフィールドを指定します。authored_on, created_on(作成日), modified_on(更新日)が指定できます。
from	日付を指定して絞り込みを行う場合に、開始日をyyyy-mm-dd形式で指定します。
to	日付を指定して絞り込みを行う場合に、終了日をyyyy-mm-dd形式で指定します。
from_y, from_m, from_d	年月日をそれぞれ指定して日付の絞り込みを行う場合に、開始年,月,日をそれぞれyyyy,mm,dd形式で指定します。
to_y, to_m, to_d	年月日をそれぞれ指定して日付の絞り込みを行う場合に、終了年,月,日をそれぞれyyyy,mm,dd形式で指定します。
class	「ブログ記事」「ウェブページ」を指定して検索を行う場合に「entry」又は「page」を指定します。
and_or	キーワード欄に入力されたキーワードを、AND 条件で検索するか OR 条件で検索するかを指定します。or を指定すれば OR 条件に、and または特に指定がなければ AND 条件で検索されます。また、OR 条件で検索される場合、キーワードはスペースで区切られて認識されます。

●検索キャッシュ

Power CMS for MT のダイナミック検索は、高速化とサーバー負荷軽減のためにファイルキャッシュ機能を備えています。検索結果は自動的にキャッシュされ、同一条件での2回目以降の検索を高速にします。

キャッシュを有効にするためには powercms_files/cache フォルダが Movable Type から書き込み可能なパーミッションである必要があります。

※キャッシュをクリアするには？

検索キャッシュは当該のテンプレートが更新された時に自動的に削除されます(MT5.02以上)。

明示的にキャッシュをクリアするには各ブログのテンプレート一覧画面右、ショートカットから「ダイナミックキャッシュのクリア」を選択して実行してください。

※キャッシュの有効期限を変更するには？

キャッシュの有効期限は Dynamic Site Bootstrapper の2行目を修正することで変更することができます。

●PHPへのメモリ割当について

Power CMS for MT のダイナミック検索でメモリ不足のエラーが出た場合、メモリ割当の値を見直していただくことをお勧めします。php.ini の memory_limit の項を確認ください。

🔍 検索関連のテンプレート・タグ

🌟 AltSearch プラグインで利用出来るタグ

🌟 **MTAltSearchPath**, **MTAltSearchFeedPath**, **MTAltSearchLimit** 以外のテンプレート・タグは動的パブリッシング専用です。これら3つの項目はブログ毎のプラグインの設定で指定できます。

🔵 ブロックタグ

MTAltSearchResults

検索結果をループ出力します。MTAltSearchResults 内では、MT 標準のブロックタグ **MTEntries** の中で利用できるファンクションタグがそのまま使えます。

MTYears

ブログに登録されている最も古いエントリの公開日(authored_on)から最も新しいエントリの公開日を含む年をループで出力します。このタグとファンクションタグ「**MTYear**」を利用することで、エントリの日付範囲指定をする時の年指定が可能です。このタグにタグ属性(モディファイア)「**select_name**」として「**from_y**」又は「**to_y**」を指定することで、ブロックタグ「**MTIfCurrentYear**」が真を返すタイミングが異なります。

MTIfCurrentYear

selectname="from_y"としたループの中では、**MTYear** の値が最も古いエントリの公開日の年と一致するときに真を返し、**selectname="to_y"**としたループの中では、**MTYear** の値が最も新しいエントリの公開日の年と一致するときに真を返します。

ブログ内検索

日付の範囲指定をする場合の典型的な開始年を指定するドロップダウンメニューを作成するテンプレート・タグは以下ようになります。

例:

```
<select name="from_y">
<MTYears select_name="from_y">
  <option value="<MTYear>"
<MTIfCurrentYear>selected="selected"</MTIfCurrentYear><MTYear></option>
</MTYears>
</select>
```

MTAltSearchMetadatas

検索結果に関するヒット件数やページ送りのための情報等をループ出力します。

MTIfAltSearchMetaDatasHeader

MTAltSearchMetadatas ループの最初のループ実行時に真を返します。

MTIfAltSearchMetaDatasFooter

MTAltSearchMetadatas ループの最後のループ実行時に真を返します。

MTIfAltSearchResultCurrent

ページ送りが有効な場合、ループの回数が現在表示しているページと一致する場合に真を返します。

[前へ](#) [\[1\]](#) [\[2\]](#) [\[3\]](#) [\[4\]](#) [\[5\]](#) [\[6\]](#) [\[7\]](#) [\[8\]](#) [\[9\]](#) [\[10\]](#) [次へ](#)

ページ送りの中で現在のページのリンクを外す例

MTAltSearchPageCounter

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの番号を数字で出力します。

MTIfAltSearchResultPrev

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの際に、ひとつ前の検索結果ページが存在する場合に真を返します。

MTIfAltSearchResultNext

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの際に、ひとつ次の検索結果ページが存在する場合に真を返します。

MTIfAltSearchQuery

検索語(query)に何らかの文字列が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsCategory

カテゴリ(category パラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsTag

タグ(tag パラメタ)が1(tag=1)の場合に真を返します。

MTIfAltSearchDate

検索条件に日付の範囲が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchSort_by

ソート順(sort_by パラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchSort_order

ソート順(sort_order パラメタ)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchParam

URL 文字列の中で name 属性値のパラメタに指定されている値が value 属性の値と一致する場合真を返します。

例:

```
<MTIfAltSearchParam name="sort_by" value="modified_on">更新日<-  
/MTIfAltSearchParam>順に検索しました。
```

name 属性で指定したパラメタに渡された値をlike、eq、ne、lt、gt、le、ge 属性値と比較することができます。

- like 属性 (like 属性値を正規表現として扱い、それにマッチするときに真を返します)
- eq 属性 (eq 属性値に一致するときに真を返します)
- ne 属性を記述した場合 (ne 属性値に一致しないときに真を返します)
- lt 属性 (lt 属性値よりも小さいときに真を返します)
- gt 属性 (gt 属性値よりも大きいときに真を返します)
- le 属性 (le 属性値以下のときに真を返します)
- ge 属性 (ge 属性値以上のときに真を返します)

例：

```
<MTIfAltSearchParam name="sort_by" eq="modified_on">更新日<-
/MTIfAltSearchParam>順に検索しました。
```

```
<MTIfAltSearchParam name="query" like="/movable ?type|mt/i">
<a href="http://www.movabletype.jp/">Movable Typeのホームページ</a>もご覧ください。
</MTIfAltSearchParam>
```

※正規表現の修飾子として s と i が使用できます。修飾子を用いない場合、デリミタ “/” は省略できます。パラメタに複数の値が渡されている場合は、

- ・いずれかの値が like 属性値にマッチするとき
- ・いずれかの値が eq 属性値に一致するとき
- ・いずれの値も ne 属性に一致しないとき
- ・いずれかの値が lt 属性値よりも小さいとき
- ・いずれかの値が gt 属性値よりも大きいとき
- ・いずれかの値が le 属性値以下のとき
- ・いずれかの値が ge 属性値以上のとき

に真を返します。例えば次のように書いた場合、include_blogs のいずれかの値に「2,3」が含まれていると、中身が実行されます。

```
<MTIfAltSearchParam name="include_blogs" like="(^|,)2,3(,|$)">
...
</MTIfAltSearchParam>
```

MTIfAltSearchMatchQuery

検索語(query パラメタ)が value 属性の値と部分一致する場合に真を返します。

例:特定のクエリーに対して特定の内容を入力する例

```
<MTIfAltSearchMatchQuery value="MT">
もしかしてMovable Type?
</MTIfAltSearchMatchQuery>
```

MTIfAltSearchCurrentCategory

カテゴリ(categoryパラメタ)が指定されている場合に、MTCategories ループ等の中でカテゴリの ID が検索対象のカテゴリ ID と一致する時に真を返します。

MTIfAltSearchNoneMatch

MTAltSearchMetadatasループの中で利用します。検索リクエストにマッチするものが何もなかった場合に真を返します。

MTIfAltSearchDate

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchFrom

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、開始日(from)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchTo

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、終了日(to)が指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchAnd_or

検索条件に And 条件または OR 条件が(and_or)指定されている場合に真を返します。

MTIfAltSearchModeIsCategories

categories パラメタに値が渡されていたら真を返します。

MTIfAltSearchCurrentCategories

MTCategories ループ等の中でコンテキストに設定されているカテゴリの ID が、categories パラメタに渡されている値の中にあれば真を返します。

MTIfAltSearchCategories_and_or

categories_and_or パラメタに「and」か「or」が渡されていれば真を返します。

● ファンクションタグ**MTAltSearchCurrent**

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの中で現在のページが何ページ目にあたるか(数値)を出力します。

MTAltSearchMatch

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。検索条件にマッチしたエントリのトータル件数(数値)を出力します。

MTAltSearchPrev

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの中で「ひとつ前」のページの offset 値(数値)を出力します。

MTAltSearchNext

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りの中で「ひとつ次」のページの offset 値(数値)を出力します。

MTAltSearchPages

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。検索結果が(現在のoffset, limit 設定の場合)全部で何ページあるか(数値)を出力します。

MTAltSearchLast

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。現在のページで表示されている最後の項目がトータルでマッチした何件目にあたるか(数値)を出力します。

MTAltSearchResultNumber

MTAltSearchResults ループの中で利用します。MTAltSearchResults ループの何番目を実行しているか(数値)を出力します。

MTAltSearchQuery

検索語を HTML エスケープして出力します。アトリビュート pass="1" を指定することで、HTML エスケープを無効にできます。

例:検索結果に関する情報の出力例

```
<p>キーワード「<MTAltSearchQuery>」にマッチする <MTAltSearchMatch> 件のエントリが見つかりました。</p>
```

```
<p> (うち <MTAltSearchOffset> 件から <MTAltSearchLast> 件を表示しています)</p>
```

```
<p>現在のページ : <MTAltSearchCurrent> / <MTAltSearchPages>ページ</p>
```

MTAltSearchParam

name 属性で指定したパラメタに渡された値を HTML エスケープして出力します。アトリビュート pass="1" を指定することで、HTML エスケープを無効にできます。

MTAltSearchResultOffset

MTAltSearchMetadatas ループの中で利用します。ページ送りのn番目のページの offset 値(現在の offset, limit 設定の場合)を出力します。

MTAltSearchCategoryLabel

検索条件にカテゴリ(category パラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたカテゴリ名を出力します。

MTAltSearchCategoryId

検索条件にカテゴリ(category パラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたカテゴリ ID を出力します。

MTAltSearchBlogId

ブログ ID(blog_id パラメタ)が指定されている場合に、ブログの ID を出力します。

MTAltSearchSort_by

検索条件にソート条件(フィールド名 = sort_by パラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたソート条件(フィールド名)を出力します。

MTAltSearchSort_order

検索条件にソート条件(昇順|降順 = sort_order パラメタ)が指定されている場合、検索条件で指定されたソート条件(ascend|descend)を出力します。

MTAltSearchPath

検索結果テンプレートの出力ファイル名(デフォルトではdynamic/search.html, 各ブログの AltSearch プラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTAltSearchAnd_or

検索条件に AND/OR 条件が and または or で指定されている場合、その内容を出力します。

MTAltSearchCategoryIDs

categories パラメタに渡されたカテゴリのIDをカンマで連結して返します。glue モディファイアで連結文字を任意に変えることができます。

MTAltSearchCategories_and_or

categories_and_or パラメタに「and」か「or」が渡されていた場合、その値を返します。

MTAltSearchFeedPath

検索フィードテンプレートの出力ファイル名(デフォルトではdynamic/feed.xml, 各ブログの AltSearch プラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTAltSearchLimit

デフォルトの検索結果件数(limit 値=各ブログの AltSearchプラグイン設定で指定できます)を出力します。

MTAltSearchOffset

検索条件に検索結果の表示開始件数(offsetパラメタ)が指定されている場合、表示開始件数(offset)を出力します。

MTAltSearchDate

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、対象となるフィールド名(authored_on, created_on 又は modified_on) を出力します。

MTAltSearchFrom

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、開始日を yyyy-mm-dd 形式で出力します。

MTAltSearchTo

検索条件に日付の絞り込みが指定されている場合、終了日を yyyy-mm-dd 形式で出力します。

MTAltSearchResultPermalink

検索結果が「ブログ記事」や「ウェブページ」であるかどうかに関わらず、ページへのパーマリンクを出力します。

MTYear

MTYears ループの中で各年を YYYY 形式で出力します。

● モディファイア**highlight**

検索結果表示文字列中の検索語をハイライト(strong タグでマークアップ)します。

remove_js

scriptタグを消去します。

📌 リスト系アーカイブページの静的ファイル分割

Pager プラグインを有効にするとインデックス・アーカイブ、ブログ記事リストアーカイブのページを一定の件数で分割することが出来ます。

● テンプレート分割の設定

- ・分割したいアーカイブのテンプレートを編集します。
- ・MTEntriesタグに limit 属性(分割したい単位の数字)及び offset 属性を指定します。offset 属性は必ず"0"にしてください。
- ・「このアーカイブを分割する」チェックボックスにチェックを入れて、保存します。



例:

```
<MTEntries limit="20" offset="0">
  ....
</MTEntries>
```

● ページ送りナビゲーションの作成

- ・MTPager関連のタグを利用して、ページ送りナビゲーションを生成することが出来ます。

例:

```
<MTPager>
<MTIfPagerHeader>
  Page <MTPagerCurrent> of <MTPagerTotal>
  <MTIfPagerPrev><a href="<MTPagerPrevLink>">Prev</a></MTIfPagerPrev>
</MTIfPagerHeader>
[<a href="<MTPagerLink>"><MTPagerCounter></a>]
<MTIfPagerFooter>
  <MTIfPagerNext><a href="<MTPagerNextLink>">Next</a></MTIfPagerNext>
</MTIfPagerFooter>
</MTPager>

<MTEntries offset="0" limit="20">
  <MTIgnore>Some Template Tags Here.</MTIgnore>
</MTEntries>
```

Page 3 of 10 Prev [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7] [8] [9] [10] Next

✿ プラグインの仕様について

プラグインがページを分割する時、テンプレートに記述された最初の MTEntries ブロックタグを見にいけます。MTEntries ブロックタグがインクルード先のモジュールに記載されている場合、プラグインは分割の指定を見つけれないためページの分割が行われなことに注意してください。

✿テンプレート・タグ(スタティックパブリッシング専用)

●ブロックタグ

MTPager

ページ送りナビゲーション情報をループ出力するためのブロックタグです。

MTIfPagerHeader

最初のループ実行時に真を返します。

MTIfPagerPrev

現在のページの1つ前のページが存在する場合真を返します。

MTIfPagerNext

現在のページの1つ次のページが存在する場合真を返します。

●ファンクションタグ

MTPagerCounter

MTPager ループの中でページ番号を出力します。

MTPagerLink

MTPager ループの中で、現在の MTPagerCounter に対応するリンク(URL)を出力します(ファイル名は、本来出力されるファイル名_番号.拡張子となります。例：index_2.html)。

MTPagerPrevLink

現在のページの1つ前のページの URL を出力します。

MTPagerNextLink

現在のページの1つ次のページの URL を出力します。

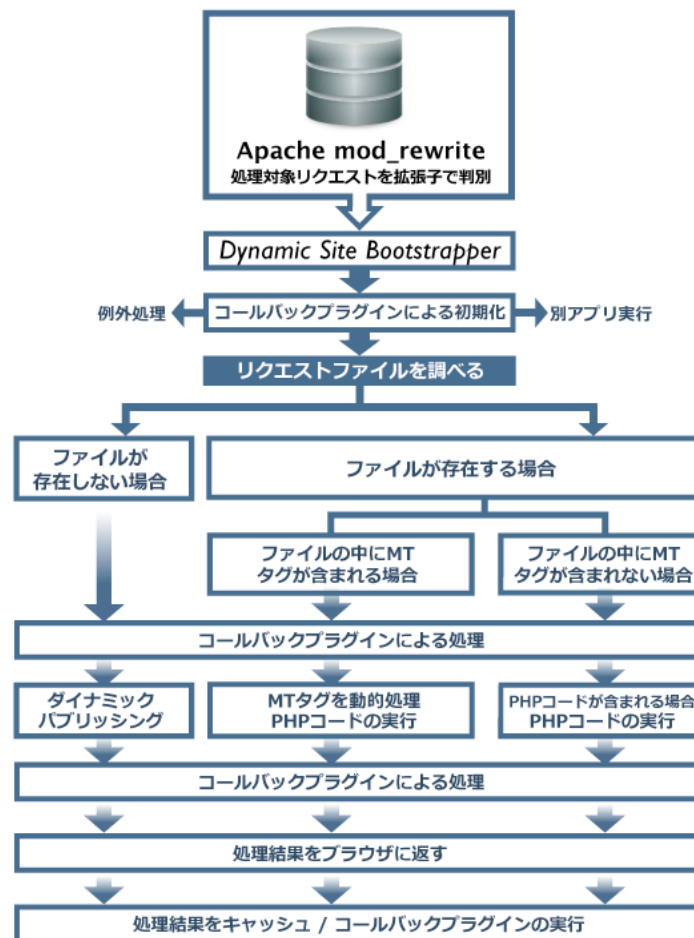
🎯 静的ダイナミックパブリッシング(DynamicMTML)

Power CMS for MTでは静的生成、動的生成(ダイナミックパブリッシング)に加え、部分的動的生成(静的ダイナミックパブリッシング)をサポートしています。この機能はDynamicMTMLプラグインによって提供されます。

🎯 静的ダイナミックパブリッシングの概要

静的ファイルが存在する場合、存在するファイルがテキストファイルの場合(mime_typeがtext/foo もしくはapplication/xhtml+xmlの場合)の場合に、ファイルの中にMTタグを含んでいればファイル内のMTタグをダイナミックパブリッシングエンジンで処理して処理結果を返します。ファイル内のMTタグの有無に関わらず、ファイル内にPHPのコードが記述されていれば、PHPのコードもあわせて実行されます(DynamicIncludeStatic環境設定が有効な場合)。静的ファイルが存在しない場合は、MTのダイナミックパブリッシングに処理が渡されます。

処理の各ポイントでコールされるコールバックに対応したプラグインによる拡張が可能です。



- Movable Type のダイナミックパブリッシングのエンジンを利用して静的な HTML ファイルの中に記述された MTML(MT タグ=Movable Type Markup Language)を動的に処理します。
- クエリ付きリクエストを独自にキャッシュする仕組みを備えています。
- 静的生成とダイナミックパブリッシングとの共存が可能です。
- Movable Type で管理していないファイルでも動作させることが可能です。
- PHPによるコールバックプラグインの作成が可能です。

以下、DynamicMTML の利用方法を順を追って説明します。

● インストールと準備

● 動作環境

- サーバーが Movable Type のダイナミックパブリッシングをサポートしていること。
- Apacheウェブサーバーで .htaccess の設置が可能なこと(IIS Web サーバーについては現段階ではサポートしていません)。

1.ダイナミックパブリッシングが利用可能なことを確認する(ブログのサイト・パス以下に templates_c, cache ディレクトリが存在し、サーバーから書き込み可能である必要があります)。

2.MTディレクトリ以下に powercms_files ディレクトリを作成し、ウェブサーバーから書き込み可能なパーミッションを設定する(*)。

*powercms_files ディレクトリの場所は環境設定ファイル mt-config.cgi に環境変数 PowerCMSFilesDir を指定することにより別の場所を指定可能です。

● mt-config.cgiの設定

項目名	設定例(初期値)	説明
DisableCompilerWarnings	0	テンプレート保存画面のエラーを非表示にします。PHPのみに対応するプラグインを作成する時にテンプレート編集画面でエラーメッセージを非表示にしたい場合に指定してください。
DynamicForceCompile	0	常に Smarty のテンプレートをコンパイルします。構築・開発段階で1を指定し、運用フェーズに入ったら必要に応じて0を指定するなどしてください。
DynamicIncludeStatic	0	スタティックファイル中のPHPコードを実行します。
DynamicSiteBootstrapper	.mtview.php	.htaccess によって処理が渡される実行ファイル名を指定してください。
UserSessionTimeoutNoCheck	0	(PHP環境で) \$app->user() (MTifLoginタグ等)を呼び出す時に UserSessionTimeoutの値を無視します。

●ダイナミックパブリッシングの設定

ブログの設定(全般設定)でダイナミックパブリッシングの各項目を設定します。

ダイナミックパブリッシング設定

キャッシュする

条件付き取得を有効にする

DynamicMTMLを有効にする (サイト・パス直下に.htaccessを生成します)

ビルド結果をキャッシュする (ビルド結果のキャッシュ有効期限(秒))

DynamicMTMLで条件付きGETを有効にする

ビルドする拡張子

処理対象外の拡張子

ディレクトリインデックス

項目名	説明	設定例
キャッシュする	Movable Typeの標準ダイナミックパブリッシングのキャッシュを利用するかどうか	ON
条件付き取得を有効にする	Movable Typeの標準ダイナミックパブリッシングでConditional GETを利用するかどうか	ON
Dy- namicMTMLを有効にする	静的コンテンツをDy- namicMTML処理する場合にチェックします。	ON
ビルド結果をキャッシュする	DynamicMTMLによってビルドされた結果及びダイナミックパブリッシングでクエリ付きのリクエストが送られた場合、その結果をキャッシュします	ON(但し常に動的に結果を取得したい場合はOFF)
(ビルド結果のキャッシュ有効期限(秒))	キャッシュの有効期限(秒)	適宜(再構築の際にキャッシュはクリアされますのでキャッシュを利用する場合は長めに設定しておいて構いません)
DynamicMTMLで条件付きGETを有効にする	HTTPヘッダの情報とファイルのタイムスタンプ(もしくはブログオブジェクトの更新タイムスタンプ)を比較して、コンテンツが更新されていない場合は 304 Not Modified ヘッダを返してクライアントキャッシュを使わせませす。	ON
ビルドする拡張子	DynamicMTMLによって処理するファイルの拡張子をカンマ区切りで指定します	html,mtml 等(設定が空欄の場合のデフォルト値)
処理対象外の拡張子	セキュリティ等の理由からDynamicMTMLの処理対象外にするファイルの拡張子をカンマ区切りで指定します	php,cgi,fcgi (設定が空欄の場合のデフォルト値)

項目名	説明	設定例
ディレクトリインデックス	リクエストが/ で終わっていた時に処理するファイルをカンマ区切りで指定します	index.html,index.mtml (設定が空欄の場合のデフォルト値)

● テンプレートのインストール

※ アップデートに関する注意

Power CMS for MT2.05よりテンプレートのインストールは不要になりました。ブログの設定で「DynamicMTMLを有効にする」のチェックを入れて保存すると必要なファイルが保存されます。従来どおりテンプレートとして必要なファイルを生成することも可能です。

これらのファイルの内容はPower CMS for MT2.05から変更されていますので、アップデートを行う際には2つのテンプレートを削除した上でブログの設定でDynamicMTMLを有効にするのチェックを入れ、設定を保存しなおしていただくことを推奨します。

- 1.DynamicMTML を有効にするブログまたはウェブサイトのデザイン>テンプレートの画面に移動します。
- 2.右カラムの「ショートカット」から「DynamicMTML のインストール」をクリックします。
- 3.「DynamicMTML Bootstrapper(出力ファイル名:.mtview.php)」 「DynamicMTML .htaccess(出力ファイル名:.htaccess)」の2つのインデックス・テンプレートがインストールされます(*)。
- 4.インストールされたテンプレートを公開(再構築)します。

ショートカット

- ⊗ [DynamicMTMLのインストール](#)
- ⊗ [ダイナミックキャッシュのクリア](#)
- ⊗ [バックアップされたテンプレート](#)
- ⊗ [公開設定](#)

*これらのファイルは該当のブログ(ウェブサイト)がダイナミックパブリッシングを利用している時、Movable Type が自動生成するファイルを上書きするものです。ご利用にあたっては該当のファイルのバックアップをとっていただき、内容をご確認の上ご利用くださいますようお願いいたします。尚、既に出カファイル名が同一のテンプレートが当該ブログに存在する場合はインストールは行われません。

● 動作をテストする

ここまでで準備は完了です。以下、いくつかの例を上げて実際の動作について説明します。

ブログ記事の本文に MT タグを記述する

試しにブログ記事の本文に MT タグを記述して動作を確認します。

```
<mt:Entries lastn="3">
<mt:EntriesHeader>
<h3>最近のブログ記事</h3>
<ul></mt:EntriesHeader>
  <li><a href="<mt:EntryPermalink>"><mt:EntryTitle remove_html="1"></a></li>
<mt:EntriesFooter></ul></mt:EntriesFooter>
</mt:Entries>
```



Power CMS for MT2へようこそ!

最近のブログ記事

- [Power CMS for MT2へようこそ!](#)
- [だれもが使えるウェブコンクール表彰式&シンポジウム開催](#)
- [次世代ウェブサイト管理プラットフォーム「Power CMS for MT 2」体感セミナー](#)

アルファサード株式会社(所在地：大阪府大阪市、代表取締役：野田 純生)は、シックス・アパート株式会社のMovable Type 5に対応したCMSソリューション「Power CMS for MT

設定が正しく行われていれば上記の画像のようにブログ記事のリストが表示されます。

続いて、FTP クライアント等でサーバー上に生成された HTML ファイルをダウンロードしてテキストエディタで編集します。ここでは mt:Entries の lastn モディファイアの値を3から20に変更します。

```

<div class="entry-body">
  <h3>最近のブログ記事
</div>
<mt:Entries lastn="20">
  <mt:EntriesHeader><ul></mt:EntriesHeader>
  <li><a href="<mt:EntryPermalink>"><mt:EntryTitle remove_html="1"></a></li>
<mt:EntriesFooter></ul></mt:EntriesFooter>
</mt:Entries>

```

Movable Type で管理されていないファイルの動的処理結果を見るために、ファイルを適当な名前に変更してサーバーにアップロードし、ブラウザでアクセスします。

2010年3月30日

Power CMS for MT2へようこそ!

最近のブログ記事

- [Power CMS for MT2へようこそ!](#)
- [だれもが使えるウェブコントロール表彰式&シンポジウム開催](#)
- [次世代ウェブサイトマネジメントプラットフォーム「Power CMS for MT 2」体感セミナー](#)
- [Power CMS for MT 1.5.846の提供を開始](#)
- [Xtalk.1の提供を開始 - 詳細な条件指定検索が可能に](#)
- [競合他社とここで差がつく! エリアターゲティング&ログ解析 導入活用事例セミナー\(大阪\)](#)
- [ProNet会員企業の皆様にXtalk評価版ライセンスをご提供](#)
- [Power CMS for MT 1.5.845の提供を開始](#)
- [Movable Type 5 最新情報 & MTで簡単エリアターゲティング](#)
- [Power CMS for MT 1.5.844の提供を開始](#)
- [Movable Type Developers & Designers Conference Osaka / Hack-a-thon](#)
- [Movable Type 5をさらに強力に! - 次世代CMS Power CMS for MT 2 最新情報](#)
- [デジタルマーケティングNEXT2009に出展](#)
- [Power CMS for MT 1.5.84の提供を開始](#)
- [Movable Type 5 最新情報 & MTで簡単エリアターゲティング - 次世代ユーザビリティの導入でライバルに差をつけろ!](#)
- [簡単エリアターゲティング - どこどこJP for Movable Typeを発表](#)
- [Xtalk\(エクストーク\)製品サイトを公開](#)
- [MT-TP相互乗り換えツールTypeChangeがTypePad新バージョンに対応](#)
- [Power CMS for MT 活用セミナー\(大阪\)のお知らせ](#)
- [Movable Type 5 最新情報 & 圧倒的コストパフォーマンスのハイエンドCMS体感セミナー](#)

アルファサード有限会社(所在地:大阪府大阪市、代表取締役:野田 純生)は、シックス・アパート株式会社のMovable Type 5に対応したCMSソリューション「Power CMS for MT

Movable Type で管理されていないファイルが動的に処理されて表示されることがおわかりいただけたかと思います。

リクエストの状況によって動的に表示を切り替える

続いて、アクセス元の情報によって表示を動的に切り替える例を紹介します。DynamicMTML に同梱されているファンクションタグ MTUserAgent を使って表示を切り替えてみます。

```
<$MTUserAgent setvar="UA">
<mt:if name="UA" like="iPhone">
    iPhoneからようこそ
<mt:else>
    iPhoneは買いましたか?
</mt:if>
```



● テンプレート・タグの活用

このように DynamicMTML プラグインには動的にコンテンツを切り替えるのに利用できるいくつかのダイナミックパブリッシング用テンプレート・タグが用意されています。また、スタティックパブリッシングと DynamicMTML を組み合わせて利用するために便利なスタティックパブリッシング用のテンプレート・タグが用意されています(尚、これらのタグはPerlによる静的パブリッシングにも対応していますが、例えば検索キーワード関連やユーザーのログイン状態を判別するタグなどはmt-search.cgi等の動的プログラムの実行時でなければ意図した動作をしません)。

クエリー文字列によって動的に表示を切り替える

MTQuery タグと MTSearchEntries タグを組み合わせて動的に異なるエントリーリストを出力する例を紹介します。

```
<$MTQuery key="query" setvar="query"$>
<mt:if name="query">
<mtsearchentries target="title" query="$query" lastn="10" operator="LIKE">
<mt:if name="__first__">
<h3>タイトルに '<mt:var name="query" escape="html">' を含むブログ記事</h3>
<ul></mt:if>
  <li><a href="<mt:EntryPermalink>"><mt:EntryTitle remove_html="1"></a></li>
<mt:if name="__last__"></ul></mt:if>
</mtsearchentries>
</mt:if>
```

ページのURLに query=foo パラメタを付けてアクセスします。

</2010/03/power-cms-for-mt2.html?query=Xtalk>

タイトルに特定の文字列を含むエントリーの一覧を表示します。

Power CMS for MT2へようこそ!

タイトルに'Xtalk'を含むブログ記事

- [Xtalk1.1の提供を開始 - 詳細な条件指定検索が可能に](#)
- [ProNet会員企業の皆様にXtalk評価版ライセンスをご提供](#)
- [Xtalk\(エクストーク\)製品サイトを公開](#)
- [情報流通プラットフォーム Xtalk\(エクストーク\)の提供を開始](#)

ブログのダイナミックパブリッシング設定「ビルド結果をキャッシュする」にチェックを入れた場合、クエリ付きのリクエストはクエリ毎に別のキャッシュとして保存されます。これにより同一のクエリ付きのリクエストはキャッシュされるため、動的処理の負荷を最小限にできます。

ログイン状態やユーザーによってページの表示を変化させる

最後に、ブロックタグ MTIfLogin を活用してユーザーのログイン状態やユーザーによってページの表示を変化させる例を紹介します。

```
<mt:IfLogin>
  <$MTAuthorDisplayName$>さん、ようこそ
  <a
href="<$MTCGIPath$><$MTCCommentScript$>?__mode=edit_profile&return_url=<$MTEnterPermalink
encode_url="1"$>">[プロフィールの編集]</a> <a
href="<$MTCGIPath$><$MTCCommunityScript$>?__mode=logout&return_url=<$MTEnterPermalink
encode_url="1"$>">[ログアウト]</a>
```

```
<mt:Else>
<a
href="<$MTCGIPath$><$MTCommentScript$>?__mode=login&blog_id=<mt:BlogID>&return_url=<$MTE
ntryPermalink encode_url="1"$>">サインインしてください</a>
</mt:IfLogin>
```

ログインしている時は以下のように表示されます。

Junnama Nodaさん、ようこそ [\[プロフィールの編集\]](#) [\[ログアウト\]](#)

ログインしていない時は以下のように表示されます。

[サインインしてください](#)

MTifLogin 内のエントリーリストはユーザーアーカイブとして振る舞うようになっています。コミュニティサイト等でユーザーの最近の記事を表示したりするなどして活用できます。

※DynamicMTML プラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTDynamicMTML

静的ファイル出力のテンプレートに記載した場合、このタグ(閉じタグを含む)及びタグの中のテキストがビルドされずそのままファイルに出力されます。このタグの内部に記述されたMTMLはダイナミックパブリッシング処理される時にビルドされます。

* このタグ及びタグMTRawMTMLをダイナミックMTML静的出力(PHPによる静的ビルド)の際にこのタグを有効化するためには(最初の)モディファイア'id'にテンプレート内でユニークな値を記載してください(Smartyのテンプレートにidが出力される必要があるため、インクルードしたテンプレートでは利用できません)。

MTNonDynamicMTML

静的ファイル出力のテンプレートに記載した場合、このタグの中のテキストをビルドした結果を<MTNonDynamicMTML>~</MTNonDynamicMTML>で囲んだ形でファイルに出力されます。このタグの中身はダイナミックパブリッシング処理される時には出力されず、DBへのアクセスに失敗した時等に(MT::get_instanceに失敗した時)に出力されます。

MTRawMTML

このブロックタグで囲まれたブロックは再構築時に処理されず、テンプレートがそのまま出力されます。このタグによりテンプレートの一部を出力して部分的に動的にページを処理させることが簡単にできるようになります。

MTCommentOut

ブロックタグの中身を HTML のコメントタグでコメントアウトします。invisible モディファイアを指定した場合、何も出力されません(MTIgnore と同様)。

MTCommentStrip

MTCommentOutとは逆にブロックタグの文字列 '<!--' 及び '-->' をすべて削除して出力します。この2つのタグを利用することで、静的な HTML を Dreamweaver 等で編集する際にMTタグの代わりにダミーの HTML を配置し、サーバー上では動的に MT タグを処理させる(逆に動的処理の際はダミーの HTML を削除する(隠す))ことが可能になります。

MTIfLogin

アクセスしてきたユーザーが Movable Type にログイン状態であるかどうかを判別します。このタグによってログイン状態のユーザーにだけ限定された情報を見せることができるようになります(このタグを使う場合、ブログのダイナミックパブリッシング設定で「ビルド結果をキャッシュする」を Off にする必要があります)。このタグの中ではMTAuthor関連のタグが利用できます。

MTClientAuthorBlock

ユーザーがログインしている場合に、ブロックタグ内でそのユーザーのコンテキストをセットします。ユーザーによって設定されたコンテンツをユーザー毎に表示させることが可能になります(このタグを使う場合、ブログのダイナミックパブリッシング設定で「ビルド結果をキャッシュする」をOffにする必要があります)。

MTClientAuthorBlock

MTClientAuthorBlockのエイリアスです。

MTEntryCategoryBlock

エントリーの主カテゴリのコンテキストをセットします。

MTIfUserHasPermission

ユーザーがログインしている時、ユーザーがpermissionモディファイアで指定した権限(例:comment)を持っている時に出力されます。

MTIfUserAgent

wantsモディファイア、likeモディファイアを指定してユーザーエージェント情報による分岐を行います。

wantsモディファイアに'Keitai'を指定した場合はDoCoMo,AU,SoftBankの場合に出力されます。

wantsモディファイアに'Smartphone'を含む場合はAndroid,BlackBerry,iPhone(iPod touch),iPad,Palm,Opera Miniの場合に出力されます。

likeモディファイアを指定した場合、HTTP_USER_AGENTに値が含まれる場合に出力されます。

例:

```
<MTIfUserAgent wants="keitai">
  DoCoMo, AU, SoftBankの携帯キャリアからのアクセスの場合出力されます。
</MTIfUserAgent>
<MTIfUserAgent wants="SmartPhone">
  Android,BlackBerry,iPhone(iPod touch),iPad,Palm,Opera Miniからのアクセスの場合出力
  されます。
</MTIfUserAgent>
<MTIfUserAgent like="Safari">
  ユーザーエージェント情報に「Safari」を含む場合に出力されます。
</MTIfUserAgent>
```

MTQueryLoop

keyモディファイアで指定したクエリー文字列の配列をvar[key]にセットしてループ出力します。

例:

```
<MTQueryLoop key="foo" glue=",">
  <mt:var name="foo" escape="html">
</MTQueryLoop>
```

*このテンプレートは request_url?foo[]=bar&foo[]=buz リクエストの時「bar,buz」を出力します。

MTSetQueryVars

リクエストのクエリー文字列をvarにセットします。

例:

```
<MTSetQueryVars>
  <mt:var name="foo" escape="html">,<mt:var name="bar" escape="html">
</MTSetQueryVars>
```

*このテンプレートは request_url?foo=1&bar=2 リクエストの時「1,2」を出力します。

MTSplitVars

textモディファイアで指定した文字列をdelimiterモディファイアで指定した文字列で分割してvar[value](valueはnameモディファイアで指定可能です)にセットしてループ出力します。

MTReferralKeywords

Google, bing, MSN, Yahoo!, gooからの流入の際(またはサイト内検索(パラメタ名はquery'または'search'))に検索されたキーワードの配列をvar[keyword]にセットしてループ出力します。

MTSearchEntries

targetで指定したカラムにquery文字列を含むエントリーを出力します。

カラム名を省略した場合はタイトル、本文、続き、概要及びキーワードが対象となります。

operator(省略時はLIKE)を指定することで検索条件を指定できます。

例えば operator="=" target="title" query="Movable Type" はタイトルが「Movable Type」と完全一致するエントリーをロードします。

コンテキスト (MTVar) にセットされる値

__first__: ループの最初

__counter__: ループの何回目か

__odd__: 奇数回目の出力

__even__: 偶数回目の出力

__last__: ループの最後

指定出来るモディファイア

query: 検索文字列

blog_id: BlogのID

include_blogs: 対象とするブログIDを列記(カンマ区切り)または"all" "children" "siblings"が指定可能です。

exclude_blogs: 対象外とするブログIDを列記(カンマ区切り)します。

target: 検索対象とするカラムを指定します。

operator: SQLの条件式を記載します。デフォルトはLIKEです。

class: entry(デフォルト)もしくはpage

category: カテゴリ名

category_id: カテゴリID

tag: タグ

status: 数字もしくは '*' (すべて)

sort_by: 表示順に指定するカラム名

sort_order: 表示順(descendもしくはascend)

lastn: 表示数

offset: オフセット値(何件目から読み込むか)

unique: 同じテンプレート内で使用したMTSearchEntriesブロックで出力したエントリーを除いて出力します。

not_entry_id: IDを指定した単一のエントリーを除いて出力します。

● ファンクションタグ

MTML (スタティック専用)

静的ファイル出力のテンプレートにのみ記載できます。tagモディファイアで指定したMTタグにparamsモディファイアで指定したパラメタを付けてMTタグとして出力します。<MTML tag="mt:blogname" params='escape="html"'> は <mt:blogname escape="html"> を出力します。MTDynamicMTMLを使わず部分的にMTタグを出力したい場合、ブロックタグの開始タグ、終了タグだけを静的に出力する場合などに利用できます。

例:

```
<MTML tag="MTIfUserHasPermission" params='permission="comment"'>
  <MTBlogName escape="html">にコメントできます。
<MTML tag="MTElse">
  <MTBlogName escape="html">にコメントできません。
<MTML tag="/MTIfUserHasPermission">
```

このテンプレートは下記のように出力され、ダイナミックパブリッシング時に処理されます。

```
<MTIfUserHasPermission permission="comment">
  [ブログ名]にコメントできます。
<MTElse>
  [ブログ名]にコメントできません。
</MTIfUserHasPermission>
```

MTMTML

MTMLのエイリアスです。

MTRawMTMLTag

MTMLのエイリアスです。

MTQuery

リクエストに付与されたクエリー文字列を取得します。取得したいクエリーはkeyモディファイアで指定します。<MTQuery key="search"> とすることで foo.html?search=bar リクエストから 'bar' を取得できます。

MTReferralKeyword

Google, bing, MSN, Yahoo!, gooからの流入の際(またはサイト内検索(パラメタ名はquery'または'search'))に検索されたキーワード(フレーズ)を出力します。

MTUserAgent

ブラウザから送られる'User-Agent'情報を判別する文字列を返します。rawモディファイアを指定すると HTTP_USER_AGENT情報をそのまま出力します。

MTCurrentArchiveURL

現在のページのURLからクエリ文字列を削除したURLをhttpからのフルパスで出力します。

MTCurrentArchiveFile

現在のページのサーバー上のファイルパスをフルパスで出力します。

MTEntryStatusInt

エントリーのステータスを数字で返します。

MTAuthorLanguage

ユーザーの言語(例:ja)を出力します。

MTTrans

phraseモディファイア及びparamsモディファイアに指定された文字列を元に現在のユーザーの言語に応じて翻訳された文字列を出力します。

*PluginName/php/l10n/以下に l10n_ja.php(または他の言語) ファイルを設置し、配列\$Lexiconにテーブルを登録することで言語ファイルを拡張することができます。

●モディファイア**highlightingsearchword**

Google, bing, MSN, Yahoo!, gooからの流入の際(またはサイト内検索(パラメタ名はquery'または'search'))に検索されたキーワードを渡されたパラメタのclass名を付けたstrongタグでマークアップします。

例:

```
<MTEntryBody highlightingsearchword="match-words">
```

* 検索キーワードが <strong class="match-words">~でマークアップされます。

make_seo_basename

文字列からURLに利用できる文字のみを先頭から指定文字分抽出してURLエンコードした文字列basenameを返します。URLに利用できない文字は'_'に置換されます。

例:

```
<$MTEntTitle make_seo_basename="50"$>
```

* 「Movable Typeへようこそ」

=> 「Movable_Type%e3%81%b8%e3%82%88%e3%81%86%e3%81%93%e3%81%9d」

trimwhitespace

余分な空白を削除してソースコードを軽量化します。

intval

文字列を数値化します。

●DynamicMTMLを活用したテンプレート・タグの例

例1: 本文欄をキーワードで検索する (/foo.html?q=keyword)

```
<mt:dynamichtml>
<mt:query key="q" escape="html" setvar="query">
<mt:if name="query">
  <mt:query key="limit" intval="1" setvar="limit">
  <mt:unless name="limit">
    <mt:setvar name="limit" value="20">
  </mt:unless>
  <mt:searchentries target="text" query="$query" lastn="$limit" count="1">
  <mt:if name="__first__">
  <div class="search-entry widget">
    <h3 class="widget-header">Search result for '<mt:var name="query"$>' (<mt:var
name="__entries_count__"> entries match).</h3>
    <ul>
  </mt:if>
      <li><a href="<mt:entrypermalink$>"><mt:entrytitle escape="html"$><-
/a></li>
  <mt:if name="__last__">
    </ul>
    <mt:if name="__entries_count__" gt="$limit">
      <p><a href="<mt:CurrentArchiveUrl?>q=<mt:var name="query"
escape="url"$>&amp;limit=<mt:var name="__entries_count__">">More</a></p>
    </mt:if>
  </mt:if>
  </mt:searchentries>
</mt:if>
</mt:dynamichtml>
```

例2: 検索エンジンからの流入時に本文に検索ワードを含むブログ記事を10件リストアップして表示する (検索ワードをハイライト表示する)

```
<mt:dynamichtml>
<mt:archivetype setvar="archive_type">
<mt:if name="archive_type" eq="Individual">
<mt:entryid setvar="me"$>
<mt:elseif name="archive_type" eq="Page">
<mt:pageid setvar="me"$>
</mt:if>
<mt:setvar name="entries_max" value="10"$>
<mt:setvar name="entries_counter" value="0"$>
<mt:referralkeywords trimwhitespace="1">
<mt:if name="entries_counter" lt="$entries_max">
  <mt:searchentries target="text" query="$keyword" unique="1" lastn="$entries_max"
not_entry_id="$me" class="*" highlightingsearchword="1">
    <mt:unless name="entries_counter">
  <div class="related-entry widget">
    <h3 class="widget-header">Your search keyword '<mt:referralkeyword
escape="html"$>'</h3>
    <ul>
  </mt:unless>
      <mt:if name="entries_counter" lt="$entries_max">
        <li><a href="<mt:entrypermalink$>"><mt:entrytitle escape="html"$></a></li>
      </mt:if>
      <mt:setvar name="entries_counter" value="1" op="+"$>
    </mt:searchentries>
  </mt:if>
</mt:referralkeywords>
    <mt:if name="entries_counter"></ul>
  </div>
</mt:if>
</mt:dynamichtml>
```

例3:PC向けにはスタティックページを返し、携帯・スマートフォンからのアクセスの際には別テンプレートを動的処理する

```
<mtml tag="mt:IfUserAgent" params='wants="keitai"'>
  <mt:dynamicmtml>
    <$mt:include module="携帯用テンプレート"$>
  </mt:dynamicmtml>
<mtml tag="mt:else">
<mtml tag="mt:IfUserAgent" params='wants="SmartPhone"'>
  <mt:dynamicmtml>
    <$mt:include module="スマートフォン向けテンプレート"$>
  </mt:dynamicmtml>
<mtml tag="mt:else">
  <$mt:include module="PC向けテンプレート"$>
</mt:else">
<mtml tag="/mt:IfUserAgent">
<mtml tag="/mt:else">
<mtml tag="/mt:IfUserAgent">
```

例4:権限のあるユーザーにEditリンクを表示する

```
<mt:dynamicmtml>
<mt:IfUserHasPermission permission="edit_all_posts">
  <$mt:setvar name="can_post" value="1"$>
<mt:Else>
  <mt:IfUserHasPermission permission="publish_post">
    <$mt:entryAuthorId setvar="entry_author_id"$>
    <$mt:AuthorId setvar="client_author_id"$>
    <mt:if name="entry_author_id" eq="client_author_id">
      <$mt:setvar name="can_post" value="1"$>
    </mt:if>
  </mt:IfUserHasPermission>
</mt:Else>
</mt:IfUserHasPermission>
<mt:if name="can_post">
  <p>
    <a
href="<$mt:CGIPath$><$mt:AdminScript$>?__mode=view&_type=entry&id=<$mt:entryid$>
&blog_id=<$mt:blogid$>">Edit</a>
  </p>
</mt:if>
</mt:dynamicmtml>
```

👤 ブログ、カテゴリ、エントリへのファイルの添付

ブログやカテゴリの設定画面にファイルを添付することが出来ます。添付ファイルは「アイテム」として登録され、MTAsset 関連タグを利用して取り出すことが出来ます。

エントリでは拡張フィールドが利用できるため、ファイル添付機能はデフォルトではオフになっていますが、プラグインの設定を行うことにより機能を有効にできます。

● ファイルを添付する

ブログの設定→全般、カテゴリの編集、ブログ記事(ウェブページ)の作成(編集)画面からファイルを添付できます。

ファイルを添付するには、「添付ファイル」フィールドのファイル選択ボタン(ブラウザによって名称は異なります)でローカルディスクにあるファイルを選択し、そのまま「保存(変更を保存)」ボタンをクリックしてください。

● ファイル削除する、差し替える、名前や説明、タグを指定する

ファイルがアップロード済みの場合、フィールドにはファイル名(画像の場合はサムネイル)、📄 アイコン、削除、上書きのチェックボックス、ファイル選択ボタン(上書きチェックボックスにチェックを入れた場合のみクリック可能になります)が表示されます。

- ・「削除」にチェックを入れ、「保存(変更を保存)」ボタンをクリックすると、添付ファイルが削除されます。
- ・「上書き」にチェックを入れ、ファイルを選択して「保存(変更を保存)」ボタンをクリックすると、既にアップロードされていたファイルは削除され、指定した画像が新たに保存されます。
- ・📄 アイコンをクリックするとアイテム編集画面をモーダルダイアログで開きます。このダイアログ上で画像の名前、説明、タグが編集できます。

●添付ファイル数、ファイル保存場所の設定

各ブログのプラグイン設定→ AttachFiles プラグインの設定から、添付ファイルの数、保存場所を指定できます。添付ファイル数を0とした場合、そのオブジェクトに対する添付ファイルは投稿できません。オブジェクトの保存場所の指定には、MT タグを使うことが出来ます。

AttachFiles 2.0 ●利用可能

☰ 詳細 🗂️ リソース ⚙️ 設定

ブログ

添付ファイル数

アップロード・パス

カテゴリ/フォルダ

添付ファイル数

アップロード・パス

ブログ記事/ウェブページ

添付ファイル数

アップロード・パス

[変更を保存](#)

●添付ファイルに関する情報をテンプレート・タグで取得する

各オブジェクトに添付されたファイルは、各オブジェクト用のブロックタグ(例えば MTBlogAttachFiles)を使ってループで取り出すことが出来ます。ブロックタグの中ではループが実行されるごとに「アイテム(Asset)」オブジェクトを返しますので、MTAsset 関連のタグを使って各種情報を取得できます。

- ✳️ エントリにファイルを添付する場合、「プレビュー」ボタンをクリックしてプレビューを表示した際にはファイルはアップロードされません。プレビュー時に画像をアップロードし、リアルタイムにプレビューに反映させたい場合、拡張フィールドの「添付ファイル」フィールドを利用してください。

添付ファイル関連のテンプレート・タグ

AttachFiles プラグインで利用出来るタグ

ブロックタグ

MTBlogAttachFiles

ブログに添付されたファイル(アイテム)を Asset オブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中では MTAsset 関連のタグが利用できます。

MTIfBlogAttachFile

ブログに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

MTCategoryAttachFiles

カテゴリに添付されたファイル(アイテム)を Asset オブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中では MTAsset 関連のタグが利用できます。

MTIfCategoryAttachFile

カテゴリに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

MTEnterAttachFiles

エントリに添付されたファイル(アイテム)を Asset オブジェクトとしてループ出力します。このブロックタグの中では MTAsset 関連のタグが利用できます。

MTIfEntryAttachFile

エントリに添付されたファイルが1つ以上ある場合に真を返します。

ファンクションタグ

MTEnterAttachFile

エントリのアイテムの URL を出力します。

MTAttachFileCounter

添付ファイルをループ出力するブロックタグの中でループの何番目が実行されているかを数字で出力します。

モディファイア

asset_id

アイテムのID(AssetID)を出力します。

path2url

保存されている添付ファイルの情報(%r/path/to/file)を URL に変換します。プラグインが内部で利用しているもので、通常は利用する必要はありません。

HTML.ImageElement

アイテムが画像の場合、img タグとして出力します。画像の alt 属性値にはアイテムの「名前」が入ります。

basename

URLのファイル名部分を返します。

👤 エントリの投稿画面のフィールドラベルのカスタマイズ

ブログのエントリが特定の用途に使われる時(例えばプレスリリース、製品カタログ等)、エントリの投稿画面のフィールドラベルを変更することで管理画面のユーザビリティを向上させることができます。

● フィールドラベルの設定

フィールドラベルの設定はブログ毎に行えます。

「プラグイン設定」→「CMSStyle プラグイン」の設定でラベルを設定します。項目が空の場合はオリジナルのラベルが表示されます。



The screenshot shows the 'CMSStyle 1.0' settings page. At the top right, it says '利用可能' (Available) with a green checkmark. Below the title, there are tabs for '詳細' (Details) and '設定' (Settings). The main section is titled 'フィールドラベル設定' (Field Label Settings). It contains five input fields with labels on the left and values in the boxes:

- タイトル (Title): 製品名 (Product Name)
- 本文 (Main Text): (Empty)
- 続き (Continue): 担当者のお勧めコメント (Recommended comment from the person in charge)
- 概要 (Summary): メタタグ(概要) (Meta-tag (Summary))
- キーワード (Keywords): メタタグ(キーワード) (Meta-tag (Keywords))

変更を保存すると、エントリ投稿画面のフィールドラベルが設定した値に変更されます。



The screenshot shows the entry creation form after the settings have been saved. The labels are now: '製品名' (Product Name) for the top text field, '本文' (Main Text) for the bottom text field, and '担当者のお勧めコメント' (Recommended comment from the person in charge) for the smaller text field. The 'フォーマット' (Format) dropdown is set to 'リッチテキスト' (Rich Text).

🎧 アクセス解析

Movable Type によって管理される各ページへのアクセス状況のレポートを作成する機能です。アクセスの多いエントリ等をテンプレート・タグによって出力することも可能です。

🎧 アクセス解析用のテンプレート

アクセス解析機能を利用するには、以下の4つのインデックステンプレートが必要です。これらのテンプレートはテンプレートインストーラーによって自動的に生成されます。

テンプレート	静的/ ダイナミック	出力ファイル名	解説
アクセスログ記録	スタティック	tracking/access.php	アクセスログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
検索ログ記録	スタティック	tracking/search.php	検索ログ保存JavaScriptによって送信されたパラメタ付きのリクエストを分解してログファイルを保存します。
アクセスログ保存 JavaScript	スタティック	tracking.js	アクセスログ保存に必要なパラメタを組み立てて「アクセスログ記録」ページへリクエストを送ります。
検索ログ保存 JavaScript	スタティック	search_tracking.js	検索ログに必要なパラメタを組み立てて「検索ログ記録」ページへリクエストを送ります。

🌸検索ログは powercms_files/log/ 以下に保存されます

🎧 アクセスログのインポートとレポートの構築

アクセス解析を行うためには、保存されたログファイルをデータベースにインポートする必要があります。ログのインポートは run-periodic-tasks の実行時に自動的に行われますが、管理画面から行うこともできます。

メニュー「ログ」→「アクセスログの取込み」を選択すると、ログをデータベースにインポートしてアクセスレポートを再構築します(ここで言う再構築は物理的なレポートファイルの生成ではなく、データベース上の各種データの更新を指します。)



🕒 アクセスレポートの参照

メニュー「ログ」→「アクセスログを表示」を選択するとアクセスログのレポートが参照できます。

システムメニューから選択した場合は、すべてのブログの合計をベースとしたレポートを、各ブログのメニューから選択した場合は、該当するブログのみのレポートが参照できます。



順位	タイトル	種類	アクセス	最終アクセス時刻
1	Power CMS for MT (Movable Typeベースの多機能CMS)	other	12003 (22.1%)	2010年4月 5日 17:15
2	Power CMS for MT 製品紹介	page	5009 (9.2%)	2010年4月 5日 17:15
3	価格表	page	4452 (8.2%)	2010年4月 5日 16:41
4	Power CMS for MTの概要	page	4330 (7.9%)	2010年4月 5日 15:03
5	Power CMS for MTを採用する7つの理由	page	3029 (5.5%)	2010年4月 5日 15:07
6	エディション別機能比較	page	2657 (4.9%)	2010年4月 5日 16:44
7	Power CMS for MT プロフェッショナル版	page	2112 (3.8%)	2010年4月 5日 14:17
8	Power CMS for MT スタンダード版	page	2037 (3.7%)	2010年4月 5日 12:56
9	オプション&サービス	page	1893 (3.4%)	2010年4月 5日 15:26
10	Power CMS for MT エンタープライズ版	page	1800 (3.3%)	2010年4月 5日 14:51
11	サポート	page	1273 (2.3%)	2010年4月 5日 16:12
12	お問合せ	page	899 (1.6%)	2010年4月 5日 14:42
13	Workflow	page	811 (1.4%)	2010年4月 5日 12:50
14	Dashboard	page	709 (1.3%)	2010年4月 5日 14:15
15	WYSIWYG	page	657 (1.2%)	2010年4月 4日 19:09
16	Importer	page	587 (1%)	2010年4月 5日 14:06
17	Web+DB	page	525 (0.9%)	2010年4月 5日 10:02
18	One more thing	page	511 (0.9%)	2010年4月 5日 12:51
19	Mobile Site	page	509 (0.9%)	2010年4月 5日 11:08
20	User Interface	page	498 (0.9%)	2010年4月 4日 10:52

レポートの名称	日付範囲	解説
日付レポート	年別、月別	ページビューの合計を日付順にグラフ表示します
URLレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	URL毎のページビューをアクセスの多い順に表示します。
検索レポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	サイト内検索で使われた検索キーワードを回数の多い順に表示します。
フレーズレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	複数の単語からなる検索リクエストについてのレポートです。
タグレポート	全期間、最近の1~10日、年別、月別、日別	タグ検索の回数(タグクラウドをクリックした回数)を降順表示します。

🕒 アクセス解析関連のテンプレート・タグ

🌟 LogViewer プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTHotTags

タグレポートの上位の n 件(lastn モディファイアで指定)を降順に出力します(sort_order モディファイアの指定も可能です)。

対象期間を period モディファイアで指定できます。last1day, last7days または任意の数字が指定できます。

例:

```
<ul>
<MTHotTags period="last7days" class="entry">
<li><a href="<$MAltSearchPath$>?query=<$MHotTag$>&offset=1&limit=20&blog_id=<
$MTBlogID$>&tag=1"><$MHotTag$> (<$MHotTagCount$>)</a></li>
</MTHotTags>
</ul>
```

MTHotEntries

アクセスレポートの上位の n 件(lastn モディファイアで指定)を降順に出力します(sort_order モディファイアの指定も可能です)。

対象期間を period モディファイアで指定できます。last1day, last7days または任意の数字が指定できます。また、class モディファイアで entry(ブログ記事) 又は page(ウェブページ) を指定できます。

このブロックタグの内部では、MTEntries ブロックタグと同様のファンクションタグが使用できます。

例:

```
<ul>
<MTHotEntries period="last7days" class="entry">
<li><a href="<$MEntryPermalink$>"><$MEntryTitle$> (<$MHotEntryCount$>)</a></li>
</MTHotEntries>
</ul>
```

● ファンクションタグ

MTHotEntryCount

MTHotEntries ブロックタグの中で使います。ページの表示回数を数字で出力します。

MTHotTag

MTHotTags ブロックタグの中で使います。タグの名前を出力します。

MTHotTagCount

MTHotTags ブロックタグの中で使います。MTHotTags で指定された期間内に何回検索されたかを数字で出力します。

MTTrackingTag

アクセスログを記録するための JavaScript コードを出力します。このタグは、body タグを閉じる直前に記述しておくのがよいでしょう。また、このタグが呼ばれる前に、そのページのタイトルを以下のように変数 page_title に入れておく必要があります。これは、各テンプレートの冒頭で行うようにしておくといよいでしょう。

例:

```
<MTSetVarBlock name="page_title"><$MTEntryTitle$>: <$MTBlogName$></MTSetVarBlock>
```

MTTrackBasename

アクセスログ記録テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値は dynamic/tracking.html です)。

MTSearchTrackBasename

検索ログ記録テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値は dynamic/search_tracking.html です)。

MTTrackScript

アクセスログ保存 JavaScript テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値は tracking.js です)。

MTSearchTrackScript

検索ログ保存 JavaScript テンプレートの出力ファイル名を出力します。このタグによって出力される値はテンプレートの設定値ではなく、ブログ毎のプラグイン設定で指定された値であることに注意してください(デフォルト値は search_tracking.js です)。

LogViewer プラグインの設定

アクセスログ解析用の LogViewer プラグインのシステム全体の設定では、解析対象から除外したい IP アドレスの指定とログデータのクリア(データベースからのクリア)を行うことができます。

除外したい IP アドレスは改行を区切り文字として入力します。

また、イントラネット用途等で、拠点の IP アドレス毎のレポートを作成することも出来ます。IP アドレスと拠点名をスペースまたはタブ文字等で区切り、1行1拠点の形式で入力してください。IP アドレスは前方一致です。

この画面から LogViewer 関連のデータベースをクリアした場合、アクセスログ関連のデータは完全に削除され、元に戻すことはできません。

The screenshot shows the 'LogViewer 2.0' settings page with the '設定' (Settings) tab selected. The page is titled 'LogViewer 2.0' and has a status indicator '● 利用可能' (Available) and a '無効' (Disable) button. The settings are as follows:

- 除外するIPアドレス:** 192.168.11.11, 192.168.11.33
- 集計対象IPアドレス:** 192.168.1. 大阪本社, 192.168.2. 東京本社
- テーブルのクリア:** [LogViewer関連のデータベースをクリアする](#)

At the bottom right, there is a '変更を保存' (Save Changes) button.

各プラグインの設定画面からは以下の設定が行えます。デフォルトの状態(テンプレートセット適用後の状態)で運用する限りにおいては設定を変更する必要はありません。

The screenshot shows the 'LogViewer 2.0' settings page with the '設定' (Settings) tab selected. The page is titled 'LogViewer 2.0' and has a status indicator '● 利用可能' (Available) and a '無効' (Disable) button. The settings are as follows:

- ディレクトリへのアクセスに対する優先ファイル名:** index.html
- アクセスログ記録テンプレートの出力ファイル名:** <サイトパス>/tracking/access.php
- アクセスログ保存 JavaScript テンプレートの出力ファイル名:** <サイトパス>/tracking.js
- 検索ログ記録テンプレートの出力ファイル名:** <サイトパス>/tracking/search.php
- 検索ログ保存 JavaScript テンプレートの出力ファイル名:** <サイトパス>/search_tracking.js

At the bottom right, there is a '変更を保存' (Save Changes) button.

設定項目名	デフォルト値	解説
ディレクトリへのアクセスに対する優先ファイル名	index.html	/(スラッシュ)で終わるリクエストに対して補完するファイル名(/と/index.html等が混在する場合、同一のURLとして処理します)。
アクセスログ記録テンプレートの出力ファイル名	tracking/access.php	各テンプレートの出力ファイル名
アクセスログ保存 JavaScriptテンプレートの出力ファイル名	tracking.js	
検索ログ記録テンプレートの出力ファイル名	tracking/search.php	
検索ログ保存 JavaScriptテンプレートの出力ファイル名	search_tracking.js	

● 指定日非公開機能(EntryPublish プラグイン)

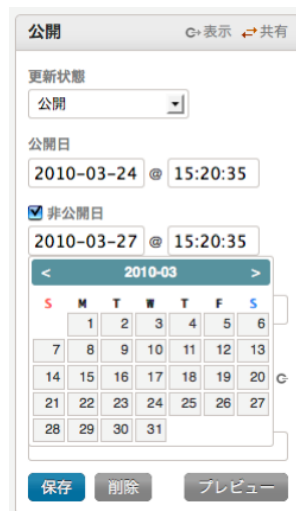
Power CMS for MT では Movable Type のブログ記事に非公開日時を指定できる指定日非公開機能があります。

指定日非公開機能では、Cron によるジョブの実行による非公開化の他、管理画面から指定日公開のエントリを非公開にする機能もあります(再構築も同時に実行されます)。

また、テンプレート・タグによって、非公開日時を過ぎているかどうかによる処理の分岐も可能です。

● 非公開日時を指定する

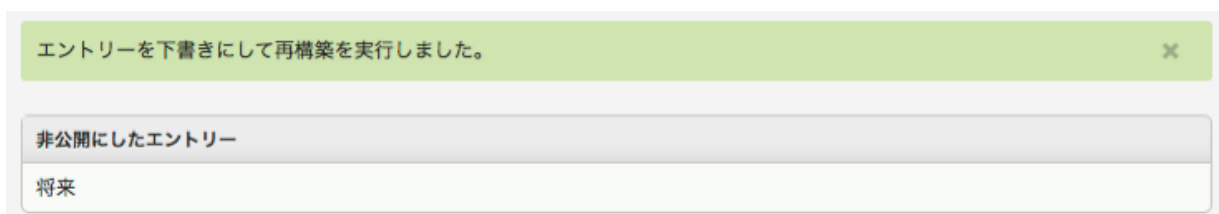
Power CMS for MT がインストールされている環境ではエントリ編集画面の「公開」ブロックに「非公開日」フィールドが追加されます。指定日非公開を実行するには、「公開を取りやめる」チェックボックスにチェックを入れ、非公開日時を指定します(カレンダーから日を指定することもできます)。



● 非公開日が指定されたエントリの非公開処理

/path/to/mt/tools/run-periodic-tasks を Cron ジョブに登録して定期実行することで、非公開日の指定されたエントリを非公開にします(必要なアーカイブの再構築も同時に行います)。

また、管理画面から非公開処理を行うこともできます。管理画面から指定日非公開を実行するには、メニュー「アクション」から「指定日非公開を実行」を選択して実行します。



● テンプレート・タグによる非公開日前後での分岐処理

「公開を取りやめる」チェックボックスにチェックを入れずに非公開日を指定すると、テンプレート・タグによって表示内容を切り替えることができます。

例えば「本文」欄にイベントの告知を入力し「追記」欄にイベント終了後の表示内容を入力、非公開日にイベント終了日を指定して、終了日以後は表示内容を切り替えるなどの処理が可能になります。

イベント終了日にあわせて表示内容を切り替えるテンプレート・タグの例

```
<MTIfEntryUnpublished>
  <h2>このイベントは終了しました。</h2>
  <MTEEntryMore>
<MTElse>
  <!--イベントの告知内容等-->
  <MTEEntryBody>
</MTElse>
</MTIfEntryUnpublished>
```

※EntryPublish プラグインで利用出来るタグ

● ブロックタグ

MTIfEntryUnpublished

テンプレート・タグが呼び出された時点の時刻と非公開指定日を比較して、非公開指定日を過ぎている場合に真を返します。

● ファンクションタグ

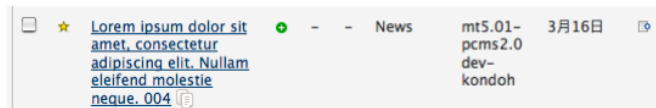
MTEntryUnpublishedOn

非公開指定日を日付フォーマットで出力します。format モディファイアで日付表示のフォーマットも可能です。

👤 ワークフロー機能

Power CMS for MT は Movable Type のブログ記事に公開状態(ステータス)「公開前(承認依頼中)」を追加します。この機能を使うと Movable Type に承認フローを組み込むことができます。

ステータスが「公開前(承認依頼中)」のエントリは★アイコンで識別できます。



● 「編集者」と「ブログ管理者」の間でのエントリ公開の承認フロー

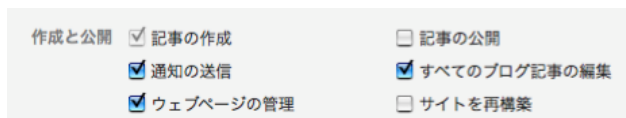
(1)各ブログのプラグインの設定で「「ブログ記事の公開」権限の無いユーザーを下位ユーザーにする」



設定はブログ毎のプラグイン設定で行います。ここでは、「ブログ記事の公開」権限の無いユーザーを下位ユーザーにする」にチェックが入っていることを確認します。

(2)「編集者」ロールを修正する

このケースでは、「編集者」を下位ユーザーとするため、ロールの設定で「編集者」の権限のうち、「ブログ記事の公開」と「ブログの再構築」の2つの権限のチェックを外します。



(3)ユーザーを作成する

ユーザーを作成し、ロール「編集者」を割り当てます。

(4)ブログの新規投稿時の公開状態を「下書き」に設定する

該当のブログの管理画面左メニュー「設定」内「投稿」で表示されるページ内、「作成の既定値」の「更新状態」を「下書き」にします。

(5)編集者権限でのブログ記事の作成

権限「編集者」で作成したユーザーでログインし、ブログ記事を作成します。

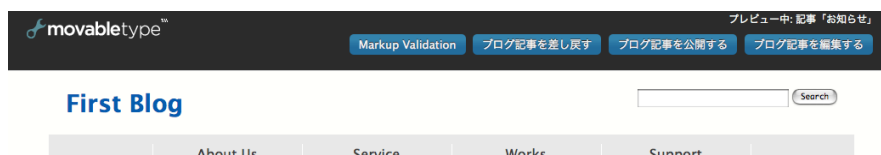
(6)公開状態「公開前(承認依頼中)」を選択して編集者へのメッセージを送信

公開状態「公開前(承認依頼中)」を選択します。「メール通知」チェックボックスをクリックしてテキストエリアに通知メールに含めるメッセージを入力します。エントリを保存すると、選択したユーザへのアドレスへメールが送信されます(通知先にメールが送信されていることを確認してください)。

✳️エントリを公開状態「公開前(承認依頼中)」で保存すると、一時的に記事の投稿者(author)が変更され(ブログの上位のユーザーに変更されます)、一時的に下位のユーザーは記事の編集が出来なくなります。

(7) ブログ管理者権限で記事を確認する

上位ユーザー「ブログ管理者」でログインし、該当記事エントリのプレビュー画面に移動します(メールのURLクリックで移動できます)。画面上部のボタンで「差し戻し」「編集」「公開」が可能です。



(8) 記事を差し戻す

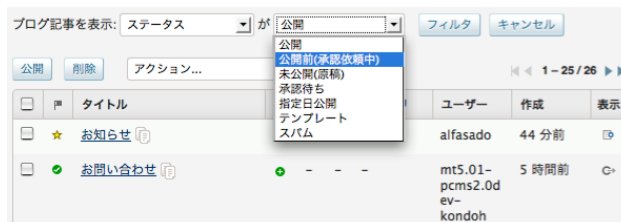
画面上部の「ブログ記事(ウェブページ)を差し戻す」ボタンをクリックするとダイアログが表示されます。

エントリの作成者へのメッセージを入力して「送信」ボタンをクリックするとメール通知とともに差し戻されます。

また、エントリの編集画面に移動して差し戻すことも出来ます。エントリ編集画面で公開状態を「下書き」にして「メール通知」チェックボックスをクリックします。テキストエリアに通知メールに含めるメッセージを入力し、エントリを保存します(「編集者」にメールが届き、「編集者」による編集が可能になります。)

●一覧表示でのステータス「公開前(承認依頼中)」のエントリの表示と絞り込み

エントリ一覧ページでは「承認依頼中」として保存されているエントリは★アイコンが付いて表示されます。★アイコンをクリックするか、フィルタ「公開前(承認依頼中)」を指定することで「承認依頼中」のみを一覧表示できます。



●「公開前(承認依頼中)」エントリの所有者の設定

下位のユーザーがステータスを「公開前(承認依頼中)」にした場合、一時的に記事の所有者が変更されますが、どのユーザーをエントリの所有者にするかどうかについてはブログの公開設定で設定できます(但し、承認メールの送信先を指定した場合は、指定した送信先ユーザーが所有者となります)。



📍 リビジョンとワークフロー

PowerRevision プラグインによってブログ記事(ウェブページ)を無制限にバージョン管理できるようになります。エントリのデータの他、エントリに含まれる画像等のアイテムも同時にバックアップ/復帰が可能です(コメントやトラックバックのバックアップ/復帰は行われません)。尚、この機能は Movable Type のエントリーのリビジョン管理の代わりに提供され、標準のリビジョン管理機能については利用できなくなります。

機能	Movable Type 標準のリビジョン	Power CMS for MTのリビジョン
データの保存	データベースに保存	データベースに履歴情報を保存、データはXMLファイルに保存
保存対象	Movable Type標準のエントリーの各データ、カスタムフィールド、対応するプラグインが拡張したエントリーのデータ	Movable Type標準のエントリーの各データ、カスタムフィールド、対応するプラグインが拡張したエントリーのデータに加えて、Power CMS for MTの各データ、エントリーの関連アイテム
リビジョンの作成時期	エントリーの更新時	エントリーの更新時(変更が加えられた時)
バックアップ/ ワークフロー	バックアップのみ	バックアップの他、ワークフロー用に未来のリビジョンを作成可能
リビジョンの日時指定 差替え	-	可能

🌟Power CMS for MT のリビジョン機能にはクラス「バックアップ」と「ワークフロー」の2種類があります。「バックアップ」はエントリ保存時に自動的に保存されたリビジョンデータ、「ワークフロー」は明示的に新規に作成したエントリのリビジョンデータ(将来のバージョン)を指します。

● リビジョン(バックアップ)の保存

ブログ記事/ウェブページの更新を行うと自動的にバックアップデータが作成されます。リビジョンデータはエントリ編集画面の最下部(保存/プレビュー等のボタンの上)にドロップダウンメニューとして表示されます。

「更新履歴コメント」を入力することでリビジョンにコメントを付けることも出来ます。

● リビジョンデータのプレビュー

ドロップダウンメニューからプレビューしたいバージョンを選択し、メニュー右側の🔍アイコンをクリックすると、別ウィンドウでリビジョンデータのプレビューが表示されます。

● バックアップからの復帰

ドロップダウンメニューから復帰させたいバージョンを選択し、メニュー右側の🔍アイコンをクリックすると、バックアップデータからエントリを復帰します。含まれる画像等が既に削除されていた場合、アイテムも同時に復帰します。

復帰された直後はエントリは再構築されていません。保存ボタンをクリックすることで再構築されます。復帰を取り消す場合は、「ブログ記事を直前の状態に戻す」リンクをクリックしてください。

● リビジョンデータの管理

「リビジョン」メニューをクリックすると、リビジョンデータの一覧を表示します。

この画面から、リビジョンデータのプレビュー、復帰、削除が出来ます。既に削除されたエントリも表示されますので、削除済みのエントリを復元することができます。タイトルと更新履歴コメントから検索したり、エントリの種類(ブログ記事/ウェブページ)やオリジナルの有無(削除済みかどうか)等による絞り込みも可能です。

すべてのリビジョンデータ [絞り込み]

復元 削除

元版	状態	復元	タイトル	種類	ユーザー名	クラス	変更メモ	公開日	更新日	表示	
<input type="checkbox"/>	✓	✏	➡	Power CMS for MT ver.2 の提供を開始	ブログ記事	junnama	ワークフロー	公開後の差替え用	2010年04月12日 18:31:35	2010年04月08日 18:32:00	🔍
<input type="checkbox"/>	✓	✏	➡	Power CMS for MT ver.2 を発表	ブログ記事	junnama	バックアップ	最新版	2010年04月06日 19:44:31	2010年04月08日 18:21:18	🔍
<input type="checkbox"/>	🗑	✏	➡	承認依頼	ブログ記事	test	バックアップ		2010年04月08日 17:09:24	2010年04月08日 17:09:46	🔍
<input type="checkbox"/>	✓	✏	➡	Power CMS for MT ver.2 を発表	ブログ記事	junnama	バックアップ		2010年04月06日 19:44:31	2010年04月08日 14:10:02	🔍
<input type="checkbox"/>	🗑	✏	➡	終了しましたけれども使えるウェブコンクール表彰式&...	ブログ記事	junnama	バックアップ		2010年04月06日 16:19:59	2010年04月06日 16:24:59	🔍
<input type="checkbox"/>	🗑	✏	➡	次年度の内容が決まったので使えるウェブコンクール表...	ブログ記事	junnama	ワークフロー		2010年04月06日 16:20:35	2010年04月06日 16:20:47	🔍

- ✏ アイコンをクリックすると、現バージョンのエントリの編集画面を表示します。
- 🗑 アイコンは、既に削除されたエントリのリビジョンデータであることを表します。
- 🔍 アイコンをクリックすると、別ウィンドウでプレビューを表示します。
- ➡ アイコンをクリックすると、バックアップされたリビジョンデータから復帰します。

● ワークフローへのリビジョン機能の活用

Power CMS for MT には自動保存されるバックアップの他に、明示的に現在のエントリを元に修正・更新を加えて保存する(配信予約も可能)「ワークフロー」リビジョンが作成できます。この機能を活用することで、公開中のエントリに修正を加えてワークフローに回したり、指定日に更新を予約することができます。

「ワークフロー」リビジョンを作成するには、ブログ記事・ウェブページの一覧画面でリビジョンの新規作成ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Blog' management interface. On the left is a sidebar with 'ブログ記事' (Blog Posts) selected. The main area displays a table of blog posts. The table has columns for 'タイトル' (Title), 'リビジョン' (Revision), 'カテゴリ' (Category), and 'ユーザー' (User). The second row shows a post titled '次世代ウェブサイトマネジメントプラットフォーム「Power CMS for MT 2」体感セミナー' with a 'リビジョン' column containing a green plus icon and the text 'リビジョンを作成' (Create Revision).

この機能を使うことで、エントリを公開したままの状態でも公開権限のないユーザーが公開中のエントリに修正を行って承認依頼を出したり、更新する予定の内容をあらかじめ保存したりしておくこと等が可能になります。

エントリー一覧画面の「リビジョン」列に表示される項目は左から「ワークフローリビジョンの新規作成」「ワークフローリビジョンの次の版(日付が一番古いもの)」「ワークフローリビジョンの数」です。次の版をクリックするとその版の編集画面に、「ワークフローリビジョンの数」をクリックするとワークフローリビジョンの一覧をダイアログで表示します。

尚、エントリー一覧画面に表示されるリビジョンは「ワークフロー」のみで「バックアップ」リビジョンは表示されません。



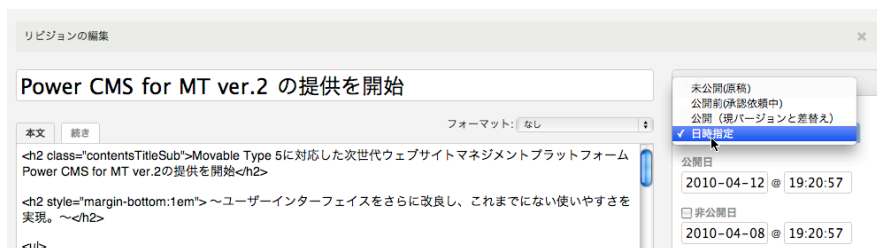
●リビジョンを現在公開中の版と差し替える

「バックアップ」「ワークフロー」リビジョンを現在の版と差し替えるには、リビジョンの編集画面から更新状態を「公開(現バージョンと差し替え)」として「保存」するか、エントリー一覧画面のプラグインアクションで「リビジョンのアップデート」を選択する、またリビジョン一覧画面から差し替えるといった3通りの方法があります。



● リビジョンを日時指定して現在の版と差し替える

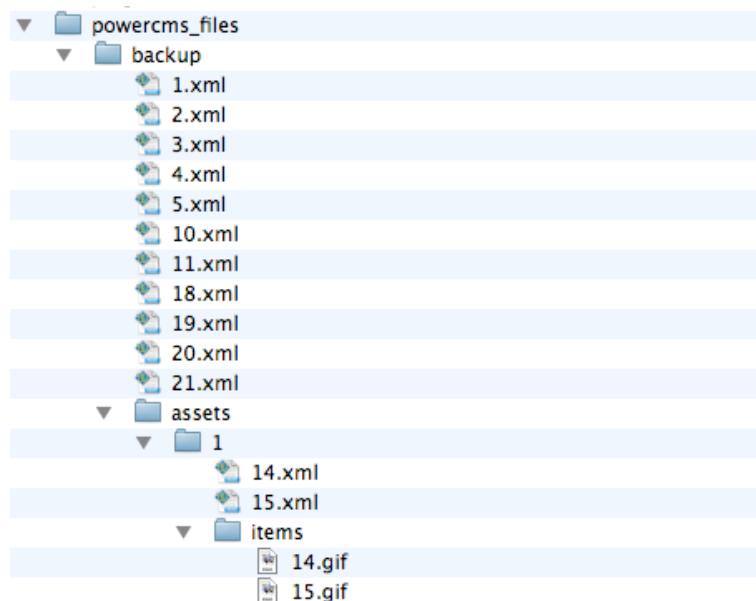
リビジョンのステータスを「日時指定」とすることにより、指定日時に現在の版との差替えを行うことができます。版の差替えは Movable Type の定期実行タスクによって実行されます。



公開日をずらすことで、同一のエントリに対して複数の日時指定公開を設定することも出来ます。

● リビジョンデータのバックアップ

リビジョンデータの実体はデータベースの mt_powerrevision テーブルに保存されたリビジョンのメタデータ及び powercms_files ディレクトリ(標準ではMTディレクトリ直下、mt-config.cgi の PowerCMSFilesDir 環境変数で設定可能)の backup ディレクトリ以下に保存されます。リビジョンデータをバックアップするためにはこれらのファイルもあわせてバックアップしてください。





●管理画面のロック

例えば Movable Type をステージングサーバーにおいて静的ファイルを生成するための CMS として利用している場合、ファイルを公開サーバーへ転送する際に他のユーザーによる編集や再構築が行われていると、思わぬリンク切れ等が発生する可能性があります。

こうした場合、管理画面を一時的にシステム管理者(スーパーユーザー)以外に対してロックすることで操作を行えなくし、その間に公開作業を行うと良いでしょう。

●管理画面のロックとロックの解除

管理画面のグローバルメニュー横に表示されるロック状態のアイコン()又はロック解除状態のアイコン()をクリックすることでロック及びロックの解除ができます。

ID とパスワードを求められます。ID とパスワードを入力してサインインすると、管理画面がロック(ロック解除)されます。

Movable Type の管理画面を一時的にロックしました。ロックを解除するまで管理者以外の一切の操作は制限されます。 ×

※この操作は「システム管理者(スーパーユーザー)」だけが実行できます。

管理画面がロックされている間、システム管理者以外のユーザーが操作を行おうとすると、以下の画面が表示されます。



The screenshot shows the Movable Type login interface. At the top, there is a red message box stating: "現在CMSはメンテナンスなどの理由のため管理者以外の操作が制限されています。" (The CMS is currently restricted from operations by non-administrators due to reasons such as maintenance). Below this, there are input fields for "ユーザー名" (Username) with the value "writer" and "パスワード" (Password) with masked characters. There is a checkbox for "ログイン情報を記憶する" (Remember login information) and a link for "パスワードをお忘れですか?" (Forgot your password?). A blue "サインイン" (Sign In) button is located at the bottom right.

●管理画面のロック状態の確認

ヘッダ部に表示される「鍵」アイコンで、ロック状態であるかどうかを確認できます。



👤 エクスポート/インポート機能

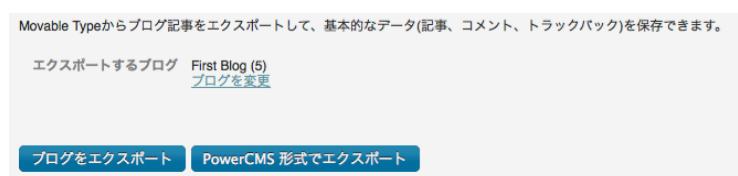
Power CMS のエクスポート/インポート機能を利用することで、カスタムフィールドを含んだエントリのエクスポート/インポートや CSV/TSV (Tab Separated Values)からのエントリ/カテゴリのインポートが可能になります。また、Power CMS によって拡張されたエントリの情報もエクスポート/インポートが可能です。この機能を利用すればサイト作成時の大量の初期データの作成や、テストデータの作成等の大幅な省力化が可能になります。

● Power CMS 形式のエクスポート/インポート

エントリのカスタムフィールド、Power CMS によって拡張された拡張フィールドやテンプレートセレクタに関する情報を引き継いでエクスポート/インポートが可能です。

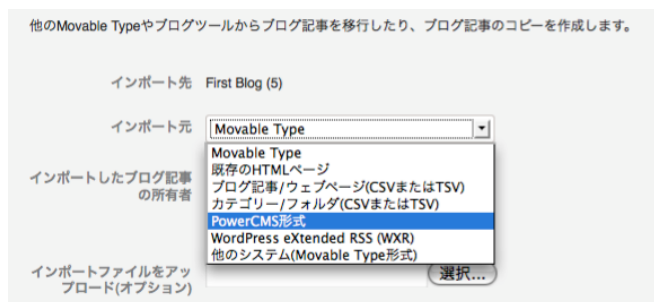
(1) エクスポート

各ブログの「エクスポート」画面から、「Power CMS 形式でエクスポート」をクリックします。エクスポートデータがダウンロードされます。



(2) インポート

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「Power CMS for MT」を選択します。ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。ファイルをアップロードする以外に、mt ディレクトリ直下の import ディレクトリにインポートデータを置いて構いません。



● CSV/TSV (Tab Separated Values)形式のファイルからのインポート

Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータからCSV又はTSV(Tab区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にエントリを生成することができます。

🌟 CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール Text::CSV_XS もしくは Text::CSV が必要です。TSV の場合には特別なモジュールは必要ありません。

(1) インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目にエントリのフィールド名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	指定(例)	解説
エントリのフィールド値	entry_title	entry_フィールド名として指定します。 entry_idを指定すると、そのIDのエントリが存在した場合、そのエントリデータを上書きします。 また、entry_blog_idを指定することで、複数ブログのデータを一括インポートすることが可能です。 entry_class に「page」を指定すると、ウェブページとして保存されます。
エントリのカスタムフィールド値	customfield_basename	customfield_ベースネーム として指定します。
エントリのカスタムフィールド(アイテム)値	customfield_asset_basename	customfield_asset_ベースネーム として指定します。 ここに登録する値は、サイトのルートパスを「%r」に置換したパスです。 例: %r/path/to/file/sample.jpg サーバーに該当するファイルがアップロードされていれば、アイテムへの登録は自動的に行います。ファイルが存在しない場合はこのフィールドはインポートされません。
Power CMS の拡張フィールド値	extfields_text_製品番号	Power CMS の拡張フィールドとして追加されたフィールドの値を extfields_フィールド種_ラベル名 形式で指定します。フィールド種が複数の選択肢を持つ場合(radio,select,cbgroup)はカンマで区切り、かつ選択されている値の前に「*」を付けます(チェックボックスの場合も同様)。また、フィールド種が file の場合、カスタムフィールドの「アイテム」と同様にサイトパスを「%r」に置換した値を入力します。
プライマリカテゴリ情報	primary_category	エントリの主カテゴリ(プライマリカテゴリ)を指定します。カテゴリが存在しなければインポート時に自動的に作成します。カテゴリの階層指定も可能です*。
カテゴリ情報	category	エントリのカテゴリを指定します。この項目は複数指定可能です。カテゴリが存在しなければインポート時に自動的に作成します。カテゴリの階層指定も可能です*。
タグ	tag	エントリのタグを指定します。1フィールドに指定できるタグは1つですが、この項目は複数指定することが可能です。
エントリテンプレート	template_module_id	エントリテンプレート (「拡張フィールドとテンプレートセレクト」参照) の機能によって作成されたテンプレートモジュールの ID(テンプレートモジュールの編集画面の URL パラメータ id(&id=*) がこれにあたります)を指定します。指定するエントリテンプレートはあらかじめ作成されていなければなりません。

◇	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	entry_title	entry_authored_on	primary_category	category	entry_excerpt	entry_text	entry_text_more	entry_keywords	tag	tag
2	憲法	20080203120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/憲法	憲法(けんぽう) 歴史的に見ると、なお、現在の日本では、	憲法		憲法・法令通則	
3	日本国憲法	20080202120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/日本国憲法	日本国憲法 日本国憲法は、	日本国憲法		憲法・法令通則	
4	元号法	20080126120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/元号法	元号法(げんごう) 元号に関する明	元号に関する明		憲法・法令通則	
5	国民の祝日に関する法律	20080125120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/国民の祝日に関する法律	国民の祝日に関する法律	国民の祝日に関する法律	国民の祝日に関する法律	憲法・法令通則	
6	法の適用に関する通則法	20080124120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/法の適用に関する通則法	法の適用に関する通則法	法の適用に関する通則法	法の適用に関する通則法	憲法・法令通則	
7	法例	20080123120448	憲法・法令通則		http://ja.wikipedia.org/wiki/法例	法例(ほうれい) また、	法例	法例	憲法・法令通則	
8	請願法	20080106120448	行政法 行政組織	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/請願法	請願法(げんねんぽう) 請願に関しては、	請願法		行政法	行政組織
9	地方公務員法	20071226120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方公務員法	地方公務員法	地方公務員法		行政法	地方自治
10	地方独立行政法	20071225120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方独立行政法	地方独立行政法	地方独立行政法		行政法	地方自治
11	住民基本台帳法	20071224120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/住民基本台帳法	住民基本台帳法	住民基本台帳法	住民基本台帳法	行政法	地方自治
12	地方公営企業法	20071223120448	行政法 地方自治	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方公営企業法	地方公営企業法 地方公共団体が	地方公営企業法		行政法	地方自治
13	地方税法	20071222120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/地方税法	地方税法	地方税法	地方税法	行政法	行政手続・救済
14	行政手続法	20071221120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政手続法	行政手続法	行政手続法		行政法	行政手続・救済
15	行政代執行法	20071220120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政代執行法	行政代執行法 代執行ができる	行政代執行法		行政法	行政手続・救済
16	行政不服審査法	20071219120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政不服審査法	行政不服審査法 上記の通り行政	行政不服審査法		行政法	行政手続・救済
17	行政事件訴訟法	20071218120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/行政事件訴訟法	行政事件訴訟法	行政事件訴訟法		行政法	行政手続・救済
18	国の利害に関する法律	20071217120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/国の利害に関する法律	国の利害に関する法律 国が	国の利害に関する法律	また、近年の改	行政法	行政手続・救済
19	国家賠償法	20071216120448	行政法 行政手続・救済	行政法	http://ja.wikipedia.org/wiki/国家賠償法	国家賠償法	国家賠償法	国家賠償法	行政法	行政手続・救済

✿カテゴリの階層を指定するには？

primary_category または category フィールドに入力するカテゴリ名を最上位の階層から「_」(アンダーバー)でつないで入力します。例えば、「東京都」カテゴリのサブカテゴリ「港区」に属するエントリの場合、「東京都_港区」と入力してください。

(2)データのインポート

作成したデータの拡張子を CSV の場合は「.csv」TSV の場合は「.tsv」とします。

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「CSV or TSV (Tab Separated Values)」を選択します。

ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。

ファイルをアップロードする以外に、mt ディレクトリ直下の import ディレクトリにインポートデータを置いて構いません。

他のMovable Typeやブログツールからブログ記事を移行したり、ブログ記事のコピーを作成します。

インポート先 First Blog (5)

インポート元 ブログ記事/ウェブページ(CSVまたはTSV)

説明 entry_author_idフィールドが存在すればそのユーザーの記事としてエントリを生成します (entry_blog_idの指定もできます)。所有者の設定についてはファイル中の値が優先されます。

オプション エントリをすべての親カテゴリに属するようにする

インポートしたブログ記事の所有者 自分のブログ記事としてインポートする
 ブログ記事の著者を変更しない

インポートファイルをアップロード(オプション) 選択...

テキストフォーマット なし

インポートするファイルの文字コード Auto-detect

ブログ記事の既定カテゴリ(オプション) カテゴリを選択

記事のインポート

✿インポートしたブログ記事の投稿者(Author)情報について

基本的にはインポート作業を行ったユーザーの投稿したエントリになりますが、投稿者に関する情報がファイルに指定されている場合(entry_author_id)はファイル中の値が優先されます。

●カテゴリ情報のインポート

Microsoft Excel 等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータから CSV 又は TSV(Tab 区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にカテゴリを生成することができます。この機能を利用することによって、階層を持ったカテゴリの作成や basename (出力ファイル/フォルダ名)を指定したカテゴリの作成が可能になります。

※カテゴリのインポートデータの1番目のセルは必ず「category_label」である必要があります。

(1)インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目にカテゴリのフィールド名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	指定(例)	解説
カテゴリのフィールド値	category_label * category_labelは必須	「category_フィールド名」として指定します。 また、category_blog_idを指定することで、複数ブログのデータを一括インポートすることが可能です。 category_class に「folder」を指定すると、フォルダとして保存されます。カテゴリの階層指定も可能です*。
エントリのカスタムフィールド値	customfield_basename	「customfield_ベースネーム」として指定します。

※カテゴリの階層を指定するには？

category_label フィールドに入力するカテゴリ名を最上位の階層から「_」(アンダーバー)でつないで入力します。例えば、「東京都」カテゴリのサブカテゴリ「港区」に属するエントリの場合、「東京都_港区」と入力してください。

(2)データのインポート

作成したデータの拡張子を CSV の場合は「.csv」TSV の場合は「.tsv」とします。

各ブログの「インポート」画面で「インポート元」に「カテゴリー/フォルダ(CSVまたはTSV)」を選択します。ファイルを選択して「ブログ記事をインポート」をクリックします。

ファイルをアップロードする以外に、mt ディレクトリ直下の import ディレクトリにインポートデータを置いて構いません。

他のMovable Typeやブログツールからブログ記事を移行したり、ブログ記事のコピーを作成します。

インポート先 First Blog (5)

インポート元

説明 所有者とブログIDについてはファイル中の値が優先されます。

インポートしたブログ記事の所有者 自分のブログ記事としてインポートする
 ブログ記事の著者を変更しない

インポートファイルをアップロード(オプション)

テキストフォーマット

インポートするファイルの文字コード

ブログ記事の既定カテゴリ(オプション)

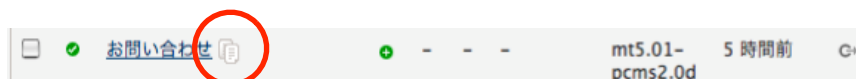
※所有者とブログ ID についてはファイル中の値が優先されます。

● エントリ(ブログ記事/ウェブページ)の複製

● 既存のエントリを複製して効率よく新しいエントリを作成する

Power CMS for MT では、既存のエントリを複製して新たなエントリを作成できます。既存エントリの一部を修正して新たなエントリを作成するのに便利です。

既存のエントリを複製するには、エントリ一覧画面のリストで複製元エントリのタイトルの右にある「複製」ボタンをクリックするか、サイドバーかダッシュボードでツリーのエントリを右クリックして「複製」を選択します。



複製後のエントリ編集画面では、見出しはブログ記事の「作成」となっていることに注意してください。この段階でエントリはまだ保存されていません。内容を編集して「保存」をクリックしてください。



● ブログ記事と複数のウェブページを関連付ける

EntryChildrenPages プラグインを使用することで、ブログ記事を親、ウェブページを子として関連付けを行うことができます。この機能を使って、複数のページに分割された長い記事を作成することができます。テンプレート・タグによって、グループ化されたページ間のリンクを自動的に生成させることも出来ます。

● ブログ記事に関連したウェブページを作成する

ブログ記事の編集画面の右側(カテゴリ選択の下)に表示されている「関連ウェブページ」の右側の「新規作成」をクリックしてウェブページを作成します。



ブログ記事編集画面の関連するウェブページの表示

● グループ化されたブログ記事、ウェブページ間のページ送りを作成する

例) ブログ記事とウェブページテンプレートのページ送りナビゲーション記述例

```
<MTSetVarBlock name="perma"><$MTEnterPermalink$></MTSetVarBlock>
<MTEnterChildrenPages>
  <MTSetVarBlock name="link"><$MTEnterPermalink$></MTSetVarBlock>
  <MTIfEntryChildrenHeader>
    <ul class="pages">
      <MTEnterChildrenPrev>
        <li class="prev"><a href="<$MTPermalink$>" title="前のペー
        ジ">&laquo;</a></li>
      </MTEnterChildrenPrev>
      <MTIf name="link" eq="$perma">
        <li class="prev"><span>&laquo;</span></li>
      </MTIf>
    </MTIfEntryChildrenHeader>

    <MTIf name="link" eq="$perma">
      <li class="current"><span><$MTEnterChildrenCounter$></span></li>
    <MTElse>
      <li><a href="<$MTPermalink$>"><$MTEnterChildrenCounter$></a></li>
    </MTElse>
  </MTIf>

  <MTIfEntryChildrenFooter>
    <MTEnterChildrenNext>
      <li class="next"><a href="<$MTPermalink$>" title="次のペー
      ジ">&raquo;</a></li>
    </MTEnterChildrenNext>
    <MTIf name="link" eq="$perma">
      <li class="next"><span>&raquo;</span></li>
    </MTIf>
  </ul>
</MTIfEntryChildrenFooter>
</MTEnterChildrenPages>
```



🔗 プラグインの設定

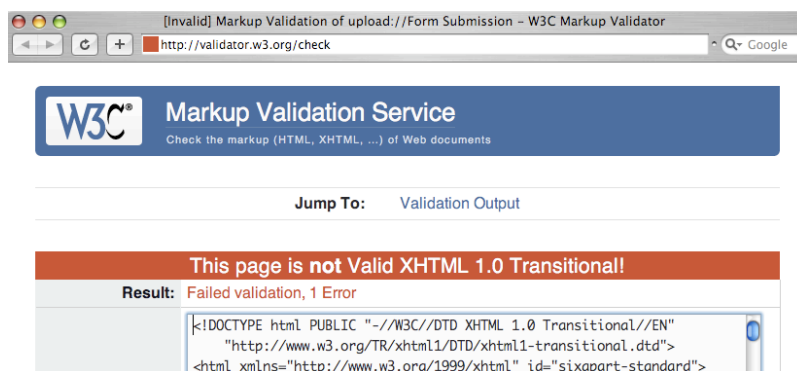
ブログ記事とウェブページを関連付ける EntryChildrenPages プラグインでは、TemplateSelector プラグインと組み合わせることによって、関連ページを作成する際にも入力フォーマットに沿った入力を行ったり、記事ごとにテンプレートを分けたりすることができます。EntryChildrenPages プラグインと TemplateSelector プラグインを組み合わせる場合には、プラグイン設定「テンプレート・セクタ」の項目にチェックを入れてください。

設定項目名	デフォルト値	解説
テンプレート・セクタ	無	TemplateSelector プラグインを使用する場合はチェックを入れてください。

👤 HTMLの文法チェック

● プレビュー時に生成されたHTMLの文法をW3C Markup Validation Serviceでチェックする

エントリー投稿時の「プレビュー」画面で生成されるプレビュー用のHTMLソースの文法をW3C Markup Validation Service (<http://validator.w3.org/>) で公開前に事前にチェックできます(「Markup Validation Service」ボタンをクリックすると、新しいウィンドウを開いてチェック結果を表示します)。



👤管理画面でブログ/ブログ記事の呼称をカスタマイズする

RenameBlogLabelプラグインの設定で「ブログ」「ブログ記事」の呼称を変更することができます*。

例えば、ECサイトにおける「取扱い商品」や、不動産サイトにおける「物件情報」を管理する「ブログ」を作成し、各アイテムを「ブログ記事」として作成・運用するような設計をした時などに、「ブログ記事」の表記を「商品」や「物件情報」とすることで、より分かりやすい管理画面を実現できます。

設定はシステムレベル、ウェブサイト、ブログそれぞれに設定できます。ブログの設定がない場合にはウェブサイト、システムレベルの順で設定値が適用されます。

適用後の管理画面

* 対応しているのは日本語/英語のみです。プラグインの言語ファイルで既定されている一部のラベルは変更されません。

🍷 リンクをオブジェクトで管理するLinkプラグイン

- ・ 外部リンクの「名前」「URL」「RSS」等の情報をオブジェクトとして管理できます。
- ・ リンク「タグ」をつけることができます。
- ・ 管理画面での検索に対応しています。
- ・ エディタにリンクを貼り付けることができます。
- ・ リンクをMTタグで出力することができます。
- ・ スタティック/ダイナミック・パブリッシングの両方に対応しています。
- ・ OPML/CSV形式のファイルからリンクをインポートすることができます。
- ・ CSVファイルへのエクスポートが可能です。
- ・ 一覧画面、または定期実行タスクによってリンクチェックを行えます。
- ・ カスタム・パーミッション/ロールを作成します。
- ・ 個別リンクのページを表示する場合は、オプションプラグインのViewerをインストールします。Viewerのインストールと使用方法についてはカスタムオブジェクトの記事を参照してください。

● Perlモジュールについて

- ・ XML::Simple (XML::Parser) - OPMLからのインポートの際に必要
- ・ LWP::UserAgent - リンクチェックに必要
- ・ HTTP::Date - リンクチェックに必要
- ・ Digest::MD5 - リンクチェックに必要

🌸 テンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTLinks

リンクをループで出力します。

コンテキスト (MTVar) にセットされる値

__first__: ループの最初

__counter__: ループの何回目か

`__odd__`: 奇数回目の出力
`__even__`: 偶数回目の出力
`__last__`: ループの最後

指定出来るモディファイア

`lastn (limit)`: 何件表示するかを指定します。
`offset`: 何件目から表示するかを指定します (デフォルト値:0)。
`sort_order`: 昇順、降順を指定します (`descend, ascend` / デフォルト値:`ascend`)。
`sort_by`: ソートするカラム名を指定します (`created_on, urlupdated_on, rssupdated_on, url`等 / デフォルト値:`id`)
`blog_id`: リンクが属するブログのIDを指定する場合に記述します。
`rating`: ランク (`rating`) が指定した数字と一致するリンクをロードします。
`more`: ランク (`rating`) が指定した数字以上のリンクをロードします。
`less`: ランク (`rating`) が指定した数字以下のリンクをロードします。
`tag`: タグが一致するリンクをロードします。

MTLinksHeader / MTLinksFooter

MTLinksブロックタグの最初と最後に出力されます。

MTLinkTags

リンクのタグをループ出力します。MTTagName、MTTagID等のタグ関連のMTタグが利用できます。

MT標準のMTTagsタグでtypeに'link'を指定することができます。

MTLinkAuthor

リンクを作成したユーザーのコンテキストをセットします。

ブロックの中ではMTAuthor関連のタグが利用できます。

MTLinkIfTagged

リンクがタグ付けされている時に出力されます。

MTIfActiveLink (MTIfBrokenLink)

リンクのURLがリンク切れしていない(している)場合に出力されます。

MTIfActiveRss (MTIfBrokenRss)

リンクのRSSがリンク切れしていない(している)場合に出力されます。

MTIfActiveImage (MTIfBrokenImage)

リンクの画像のURL がリンク切れしていない(している)場合に出力されます。

● ファンクション・タグ

MTLinkBlogID

リンクのブログIDを出力します。

MTLinkName

リンクの名前を出力します。

MTLinkHTML

リンクをHTMLのタグの形式で出力します。

MTLinkAuthorDisplayName

リンクの作成者名を出力します。

MTLinkUrl

リンクのURLを出力します。

MTLinkDescription

リンクの概要を出力します。

MTLinkTitle

リンクのタイトル(title属性値)を出力します。

MTLinkRel

リンクのrel属性値を出力します。

MTLinkImageAddress

リンクの画像URLを出力します。

MTLinkRSSAddress

リンクのRSSのURLを出力します。

MTLinkNotes

リンクのメモを出力します。

MTLinkRating

リンクのランク(rating)を出力します。

MTLinkAuthoredOn

リンクの作成日を出力します。

MTLinkModifiedOn

リンクオブジェクトの更新日を出力します。

MTLinkURLUpdatedOn

リンク先のページの最終更新日を出力します(正確に取得できない可能性があります)。

MTLinkRSSUpdatedOn

リンク先のRSSの最終更新日を出力します。

●コールバック

コールバックをトリガとして処理を行うプラグインを書くことで例えばリンク切れ検出をメールで通知する、等の拡張が可能です。

コールバック	パラメタ	解説
cms_pre_save.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からリンクオブジェクトを作成・更新した際に保存の直前にコールされます。
cms_post_save.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からリンクオブジェクトを作成・更新した際に保存の直後にコールされます。
cms_post_delete.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からリンクオブジェクトを削除した直後にコールされます。
post_broken_url.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	定期実行タスクの実行時にLinkオブジェクトのリンク切れを検知した時にコールされます。
post_broken_rss.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	定期実行タスクの実行時にLinkオブジェクトのRSSのリンク切れを検知した時にコールされます。
post_broken_image.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	定期実行タスクの実行時にLinkオブジェクトの画像のリンク切れを検知した時にコールされます。
post_task_blog_link-check	\$cb, \$app, \$blog, \$error	定期実行タスクで各ブログのリンクチェックが完了したタイミングでコールされます。エラーが1つ以上見つかったときには\$errorに1が入ります。
post_unpublish.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	一覧画面からリンクのステータスを非公開にした際にコールされます。
post_publish.link	\$cb, \$app, \$obj, \$original	一覧画面からリンクのステータスを公開にした際にコールされます。

標準オプションプラグイン

このセクションでは、Power CMS for MTの標準オプションプラグインについて解説します。プラグインを有効にするには、サポートサイトから必要なプラグインをダウンロードして設置してください。

Google Analyticsプラグイン

Google Analytics のデータを利用してテンプレートタグで人気記事/ページのランキングを作成することが可能です。ブログのダッシュボードで Blog Stats ウィジェットにページビューのサマリーを表示することもできます。

Google Analyticsプラグインの設定

レポートの取得は /path/to/mt/tools ディレクトリのスクリプト google-analytics-get-report を実行することで実行されます(options_mt/tools/google-analytics-get-reportにあります)。

例) 午前 4 時にレポートを取得する場合の cron ジョブの設定

```
0 4 * * * cd /path/to/mt; ./tools/google-analytics-get-report
```

プラグイン設定はブログ/ウェブサイト毎に行います。このプラグインにおいては、指定のない項目については親オブジェクトの値が利用されます。

つまり、ブログでGoogleAnalyticsが有効な場合にブログにユーザー名やパスワードについての記述がなければウェブサイトの設定値を利用し、ウェブサイトに設定がなければシステムプラグイン設定の値を利用します。

設定項目名	既定値	解説
Google Analytics	無効 (チェックなし)	ブログ毎にデータの取得を有効化・無効化します。(ウェブサイトとブログのみ)
Blog Stats	無効 (チェックなし)	ブログのダッシュボードで Google Analytics のレポートを PV サマリーに表示します。(ブログのみ)
Google Analytics ユーザ名		Google アカウントのユーザー名を指定します。
Google Analytics パスワード		Google アカウントのパスワードを指定します。
Google Analytics プロファイルID		取得するプロファイルの ID を指定します。ID は Google Analytics のサイトからレポートを表示した際の URL に含まれる「id」パラメータから得ることができます。
トラッキングコード (UA-xxxxxx-x)		「UA-」から始まる形式のトラッキングコードを指定します。
フィルタ (オプション)		Google Analytics のフィルタ機能を利用する場合のフィルタを指定します。
上位ページ取得数	100	取得するデータの最大数を指定します。
ドキュメントルート	/var/www/html	Web サーバーのドキュメントルートをファイルシステムのパスで指定します。
ディレクトリインデックス	index.html	「/」(スラッシュ)で終わるリクエストに対して補完するファイル名です。「/」と「/index.html」等が混在する場合に同一の URL として処理します。

● アクセス解析関連のテンプレート・タグ

✳ テンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTGAHotEntries

アクセスレポートの上位から lastn モディファイアで指定した数の記事を、降順に出力します。sort_order モディファイアによる出力順序の指定や period モディファイアによる対象期間の指定、class モディファイアによる対象の指定も可能です。period モディファイアで指定可能な値は年毎の「yearly」または既定値の月毎「monthly」、日毎の「daily」です。class モディファイアでは既定値の「entry」または「page」が指定可能です。また、このほかに target や limit、offset、include_blogs、blog_ids がモディファイアとして利用できます。このブロックタグの内部では MTEntries ブロックタグと同様のファンクションタグを使用できます。

例:

```
<ul>
<MTGAHotEntries period="daily" class="page">
  <li><a href="<$MTPagePermalink$>"><$MTPageTitle$> (<$MTGAHotEntriesCount$>)
    </a></li>
</MTGAHotEntries>
</ul>
```

MTIfCMSIsBlog

管理画面がシステムやウェブサイトではなくブログである場合に内容を処理します。プラグインの設定画面でこのプラグインが内部的に利用しています。

● ファンクションタグ

MTGAHotEntriesCount

MTGAHotEntries ブロックタグの中で使います。ページビューの回数を数字で出力します。

MTGALastUpdateTS

MTGAHotEntries ブロックタグの中で使います。Google Analytics から最後にデータを取得した日時を出力します。

MTGATrackingCode

アクセスログを記録するための JavaScript コードを出力します。このタグは HTML の head 閉じタグの直前に記述しておくのがよいでしょう。

● Abs2Rel プラグイン (相対パス変換)

Movable Type から構築されるファイル内のリンク(src / href / action 属性)を相対パスに変換します。スタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

リンク元	リンク先(パス記述)	変換後のパス
/index.html	http://example.com/foo/bar.html	foo/bar.html
/index.html	/foo/bar.html	foo/bar.html
/foo/bar.html	http://example.com/index.html	../index.html
/foo/bar.html	/index.html	../index.html
/foo/bar.html	http://example.com/foo/bar.html	bar.html

● Abs2Relプラグインの設定項目

(1)除外するファイルの拡張子

RSS ファイル(xml)等、処理対象外とするファイルの拡張子を指定できます。カンマ区切りで複数の拡張子を指定できます。

(2)処理対象外とするディレクトリ

処理対象外とするディレクトリを指定できます。ディレクトリはドキュメントルートを基準に指定します。カンマ区切りで複数のディレクトリを指定できます。

(3)ディレクトリに補完するファイル名

/で終わるリンクに補完するファイル名を指定します。
(同じ階層の'/'で終わるリンクが''(空白)に変換されるのを防ぎます)。
こちらを未入力もしくは'/'のみを指定された場合、正常に動作しない事があります。

※スタティックにファイルが出力される場合にのみ動作します。CGI スクリプトやダイナミックパブリッシングで動的にページを出力する際には機能しません。

※各ブログのカテゴリまたはフォルダが、実在のディレクトリ(物理ディレクトリ)ではなく仮想ディレクトリになっている場合には機能しません。

※URL と対応するフォルダ名の大文字・小文字が揃っていない場合は機能しないことがあります。

・機能しない例)

+ C:\Inetpub\wwwroot\testblog\ と http://host.domain.name/TestBlog/

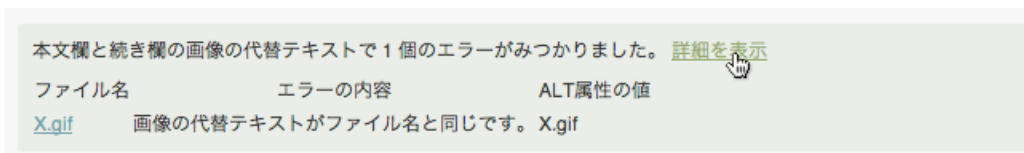
・機能する例)

+ C:\Inetpub\wwwroot\TestBlog\ と http://host.domain.name/TestBlog/

🔊 Accessibility プラグイン (アクセシビリティ向上支援)

● 画像の代替テキストのチェック

エントリの「本文」および「続き」欄の HTML に含まれる画像(img 要素)の代替テキスト(alt 属性)をチェックして編集画面に警告を表示します。



「本文」「追記」の画像が下記のパターンにあてはまる場合に警告を表示します。

- ・画像に代替テキストを指定する alt 属性がない場合(alt 属性値が空の場合は警告を表示しません)
- ・代替テキストが画像のファイル名と同一の場合
- ・代替テキストが半角空白文字だけの場合

● テキストフィルタ

入力されたテキストをアクセシブルに変換するモディファイア(タグ属性)です。スタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

🌟 テンプレート・タグの指定方法

● モディファイア

accessibility

アクセシビリティテキストフィルターを適用します。

例:

```
<MTEntryBody accessibility="1,2">
```

- 🌟属性値は1から6まで指定できます。カンマで区切って複数指定することができます。また、属性値「0」を指定すると全ての処理が有効になります。

accessibility="1" (Unicode::Normalize を利用した正規化)

機種依存文字を正規化し、全角英数字を半角に統一します。

変換前	変換後
F O O	FOO
123	123
アルファサード(有)	アルファサード(有)
①②③	123
¾	3/4
6月	6月
アルファサード	アルファサード

accessibility="2" (整形のための空白文字を削除)

見栄えの整形のために入力されたスペースを削除して分割された文章をつなげます。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
北 海 道(きた うみ みち)	北海道(ほっかいどう)
経 済(けい すみ)	経済(けいぎい)
[参考] This is Movable Type.	This is Movable Type. (変換れさません)

accessibility="3" (整形のための空白文字を削除)

円,ドル,ユーロ,セント,ポンド等の通貨が記号で表記されている場合、日本語表記に変換します。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
\$100 (ひゃく)	100ドル (ひゃくどる)
¥100 (ひゃく)	100円 (ひゃくえん)

accessibility="4" (日付の表記形式の変換)

日付の表記を音声読み上げに適したフォーマットに変換します。

変換前(読み上げ例)	変換後(読み上げ例)
2007/11/22 (11ぶんの2007 22)	2007年11月22日(2007ねん11がつ22にち)
H18.11.22(えっち18てん11てん22)	平成18年11月22日(へいせい18ねん11がつ22にち)

accessibility="5" (JavaScriptの削除)

script 要素、イベント属性(onclick 等)を削除します。

accessibility="6" (物理要素・属性の削除)

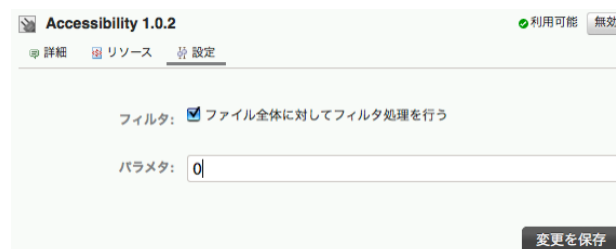
font|blink|marquee といった要素や target|style 等の属性を削除します。

●ファイル全体に対してフィルタを有効にする

システム「メニュー」→「プラグイン」

→「Accessibility」の設定で「ファイル全体に対してフィルタ処理を行う」にチェックを入れることで、特定のテンプレート・タグだけでなくファイル全体を対象にフィルタ処理を行うようになります(スタティック・パブリッシングのみ)。

パラメタに指定できる数値(カンマ区切り)はテンプレート・タグのモディファイアに指定出来る数字と同じです。



✳Perl モジュール `Unicode::Normalize` がサーバにインストールされている必要があります(Perl 5.8 以降は標準モジュールとなっています)。

✳出力文字コードが UTF-8 の場合にのみ対応しています。

● Quickeditプラグイン (エントリから編集画面へのスムーズな移動)

エントリやウェブページのページから編集画面へクリック一つで移動できるブックマークレット+プラグインです。

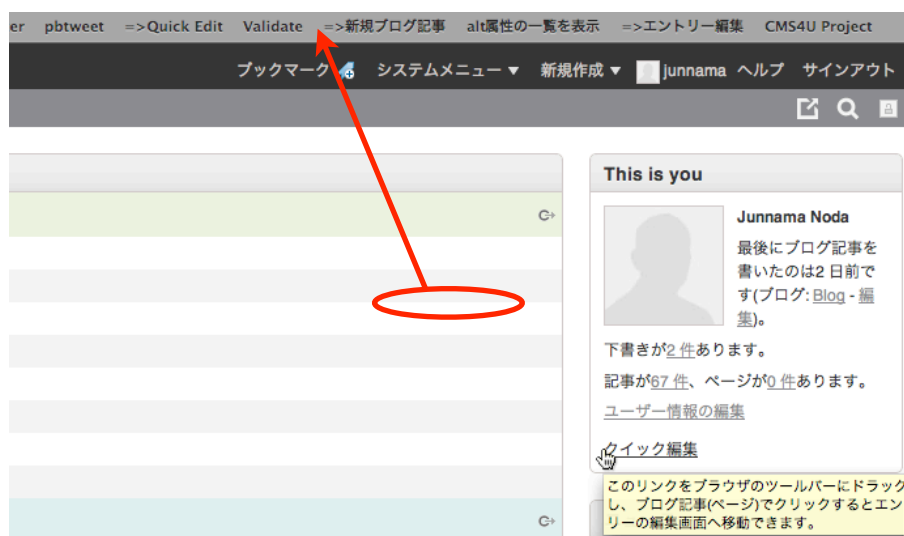
● 設定と利用方法

(1) プラグインの設置

OptionPlugins/QuickEdit ディレクトリを mt ディレクトリの plugins 直下にコピーします。

(2) ブックマークレットのブラウザへの登録

ユーザーダッシュボードに表示される「クイック編集」テキストリンクをブラウザのツールバーへドラッグまたは右クリックしてブックマークに登録します(ブックマークレットの登録方法はブラウザによって異なります)。



(4) エントリの画面から編集画面への移動

Movable Type にログインした状態で編集したいエントリのページをブラウザで閲覧し、登録しておいたブックマークレットをクリックすると、エントリの編集画面に移動します。カテゴリアーカイブのページ上でブックマークレットをクリックするとカテゴリの編集画面に移動します。

該当するエントリ/カテゴリが Movable Type に見つからなかった場合には、ブログのダッシュボードへ遷移します。

● RebuildIndexByID プラグイン (別ブログのインデックスアーカイブを同時再構築)

RebuildIndexByID プラグインを使うと、複数のブログを運用している際にブログをまたいだインデックスアーカイブの同時再構築が可能になります。

このプラグインはスタティック・パブリッシングにのみ対応しています。

● 設定と利用方法

(1) プラグインの設置

OptionPlugins/RebuildIndexByID ディレクトリを mt ディレクトリの plugins 直下にコピーします。

(2) 再構築対象のテンプレートIDを調べる

各ブログのメニュー「デザイン」から「テンプレート」を選択し、再構築対象にしたいインデックステンプレートをクリックしてブラウザのアドレスバーを確認してください。

例えばアドレスバーが以下のようにになっている場合、このテンプレートのIDは「18」です。

```
http://example.com/mt/mt.cgi?__mode=view&_type=template&id=18&blog_id=3
```

(3) 再構築のトリガーとなるテンプレート・タグを記述する

このプラグインでは、テンプレート・タグが呼び出された瞬間に指定したIDのテンプレートを再構築します。

よって、「テンプレートAが再構築される瞬間にテンプレートBを再構築する」には、テンプレートAに対してテンプレートBの再構築を呼び出すためのテンプレート・タグを記述します(テンプレート・タグは何も値を返しません)。

例: テンプレートIDが「18」のテンプレートを再構築する例

```
<MTRebuildIndexById template_id="18">
```

例: テンプレートIDが「18」「19」のテンプレートを再構築する例

```
<MTRebuildIndexById template_id="18,19">
```

✿ ブログAのトップページが再構築されるタイミングでブログBの特定のインデックスアーカイブを再構築するという用途に使えますが、相互に反映させることはできません。再構築のループに入らないように注意する必要があります(A再構築→B再構築→A再構築...延々再構築になる)。また、同様の理由で呼び出し元のテンプレートで自身のIDを指定しないでください。

🕒 TabSplitter プラグイン (タブ区切りテキストを柔軟に取り扱う)

TabSplitter プラグインを利用することで、任意のフィールドに入力されたタブ区切り形式のテキストを柔軟に取り扱えるようになります。Microsoft Excel 等のスプレッドシート・アプリケーションからデータをペーストしてテーブルを作成したり、リスト形式のコンテンツを取り扱うのに便利です。

🌟テンプレート・タグ(スタティックパブリッシング専用)

● ブロックタグ

MTTabSplitDatas

各行ずつループでデータを取り出すブロックタグです。object 属性にテーブル名、column 属性にカラム名を指定します。

● ファンクションタグ

MTTabSplitLine

各行のデータを取り出します。field 属性で何番目のカラムを取り出すかを指定します。

例: 1列目にURL、2列目にラベルを指定したタブ区切りデータからリンクリストを生成する

```
<ul>
<MTTabSplitDatas object="entry" column="excerpt">
  <li><a href="<$MTtabsplitline field="1"$>"><$MTtabsplitline field="2"$></a><-
</li>
</MTTabSplitDatas>
</ul>
```

● モディファイア

tab2table

タブ区切りテキストからテーブルタグを作成します。属性値1~4が指定できます。

- ・属性値=1(見出しなし):すべてのセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=2(行を見出しに):1行目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=3(列を見出しに):1列目のセルのみth要素で、その他のセルはtd要素として出力されます。
- ・属性値=4(行,列を見出しに):1行目のセルと1列目のセルをth要素として、その他のセルをtd要素として出力します。



表計算ソフトのデータをフィールドにペーストする
(タブ区切りテキストとしてペーストされます)

例: エントリの概要欄を1行目を見出しにしてテーブルとして出力する

```
<MTEntryExcerpt tab2table="2">
```

EntryTagEditor プラグイン (エントリの一括編集画面でのタグの編集)

EntryTagEditor プラグインをインストールすると「エントリ一覧」画面の「アクション...」メニューから「ブログ記事(ウェブページ)の一括編集」を選択して表示させたエントリの一括編集画面の「タイトル」の隣に「タグ」が表示されるようになります。

「タグ」フィールドのテキストを修正して「保存」をクリックすることによりエントリのタグを修正することができます。

The screenshot shows the 'すべてのブログ記事 [絞り込み]' (All Blog Posts [Filter]) interface. A dropdown menu 'アクション...' is open, showing options like 'ブログ記事の公開を取り消し', 'タグの追加', 'タグの削除', and 'ブログ記事の一括編集' (Batch Edit of Blog Posts), which is highlighted. Below the menu is a table of blog posts. The first row is selected, and its details are shown in an edit form below. The edit form has a 'タグ' (Tag) field next to the 'タイトル' (Title) field.

更新状態	タイトル	タグ	リビジョン	カテゴリ	ユーザー	作成
公開	MT3→MT4へタグやb...		+	なし	mt5.01-pcms2.0dev-kondoh	2010-
未公開(原稿)	お知らせ		+	なし	alfasado	2010-
公開	お問い合わせ		+	なし	mt5.01-pcms2.0dev-kondoh	2010-

エントリの一括編集画面

●EntryDown プラグイン (更新されたファイルの一括ダウンロード)

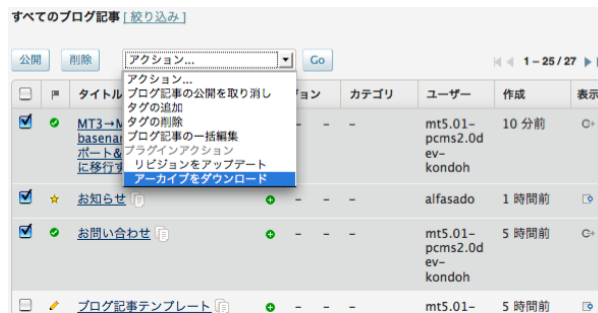
管理画面のエントリー一覧表示から、ダウンロードしたいエントリを選択、ZIP (tar)アーカイブとしてダウンロードが可能になります。

エントリで利用されている画像等のアイテムや、エントリの更新日時より新しいアーカイブ(インデックスアーカイブやカテゴリアーカイブ等)を含めてダウンロードすることも出来ます。

Perl モジュール Archive::Zip 又は Archive::Tar がインストールされている必要があります。

●エントリと関連データをダウンロードする

管理画面のエントリー一覧から、ダウンロードしたいエントリ(複数エントリを指定出来ます)にチェックを入れます。「アクション」→(プラグインアクション)「アーカイブをダウンロード」を選択して「Go」をクリックします。



ダウンロードが開始され、ZIP または tar 形式のファイルのダウンロードが開始されます。

●エントリと同時にダウンロードするファイルの指定

「システムメニュー」→「プラグイン」から、同時にダウンロードするアーカイブやアイテムの指定が出来ます。



この設定でチェックを入れたアーカイブまたはアイテムについては、ダウンロード対象のエントリの更新時刻よりもタイムスタンプが新しいファイルだけがダウンロード対象になります(複数のエントリが指定されている場合、更新日が最も古いエントリのタイムスタンプを比較対象とします)。

また、ダウンロード対象外とするファイルを拡張子をカンマ区切りで複数指定できます。

※利用する前に、ドキュメントルートのパスを指定しておいてください。

●UploadUser プラグイン (ユーザーの一括登録)

Movable Type へ CSV で作成したユーザー情報を一括で登録できます。また、ユーザー情報の CSV 形式でのダウンロードも可能です。

●CSVの作成とユーザー情報の一括登録



下記のフォーマットの CSV ファイル(項目の区切り文字はカンマ)を選択して「アップロード」ボタンをクリックすることで Movable Type へ CSV で作成したユーザー情報を一括で登録できます。

name	email	nickname	password	status	field.author_category	(空欄)
username	username@alfasado.jp	システム管理者	password	1		1_ウェブサイト管理者

※1行目(項目名)はmt_authorテーブルのカラム名です。カスタムフィールドの値については field.ベースネームと指定してください。

権限はいくつでも登録できます。_で区切られた権限名の前の数字は登録するブログのIDです(「0_システム管理者」とするとシステム管理権限が設定されます)。

※同一のユーザー名が存在する場合は上書きされますのでご注意ください(この場合権限については上書きはされません)。

●CSV のダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックするとアップロードフォーマットと同様の書式でCSVがダウンロードできます。

※ダウンロードした CSV にはパスワードは含まれません。

● ArchivePlus プラグイン (静的フォルダ/タグアーカイブ)

ウェブサイト/ブログに「フォルダアーカイブ」「タグアーカイブ」を追加します。スタティック・パブリッシング専用です (ダイナミックパブリッシングには対応していません)。

● フォルダアーカイブ

フォルダアーカイブはウェブサイトおよびブログともに「ウェブページアーカイブ」のマッピングに表示されます。



デフォルトのアーカイブマッピング	出力先
folder/sub-folder/index.html	<MTParentFolders glue="/"><MTFolderBasename></MTParentFolders>/index.html

アーカイブマッピング及びテンプレートではMTFolder関連のタグが利用できます。

フォルダアーカイブのテンプレートの例:

```
<MTSetFolderContext>
<MTParentFolders glue="/" setvar="folder_path"><MTFolderLabel></MTParentFolders>
<h1><MTFolderLabel></h1>
<MTPages folder="$folder_path">
  <MTPageTitle>...
</MTPages>
</MTSetFolderContext>
```

● タグアーカイブ

「タグアーカイブ」はウェブサイトでは「ウェブページアーカイブ」のマッピングに、ブログではブログ記事リストのマッピングに表示されます。

デフォルトのアーカイブマッピング	出力先
tag/tag_id.html	tag/tag_<mt:var name="tag_id">.html

✳️ タグアーカイブのマッピング及びテンプレートでは MTTAG 関連のタグは利用できません。<mt:var name="tag_id">, <mt:var name="tag_name"> がコンテキストにセットされていますので、この値を利用してテンプレートを作成してください。

タグアーカイブのテンプレートの例:

```
<MTSetTagContext>
```

```
<h1><mt:var name="tag_name"></h1>
<MTEntries tag="$tag_name">
  <MTEEntryTitle>...
</MTEntries>
</MTSetTagContext>
```

※ArchivePlus プラグインで利用出来るタグ (スタティック専用)

●ブロックタグ

MTSetFolderContext

フォルダアーカイブテンプレート編集画面からのプレビュー時にフォルダのコンテキストをセットします。

MTSetTagContext

タグアーカイブテンプレート編集画面からのプレビュー時に<mt:var name="tag_id">, <mt:var name="tag_name">をコンテキストにセットします。

● カスタムオブジェクト

カスタムオブジェクトとは、Movable Type (Power CMS for MT)の管理画面でオブジェクトのデータベース管理を行えるようにするものです。例えば「商品」「文房具」「楽器」「書籍」「楽曲」など、ウェブサイト/ ブログ毎に1種類のカスタムオブジェクトを持つことができます。



インストール直後のカスタムオブジェクト編集画面

カスタムオブジェクトはインストール直後は名前、公開日といった最低限の項目しか持っていません。カスタムオブジェクトはカスタムフィールドに対応しているため、管理画面、入力項目は自由に設計することができます。カスタムフィールドで指定したテキスト(複数行)欄ではリッチテキストエディタを使うことができます。

また、タグ付け、グループ化とソート順指定、管理画面から名前での検索、CSVのダウンロード、アップロードに対応しています。テンプレート・タグを使って値を自在に取り出すことができます。

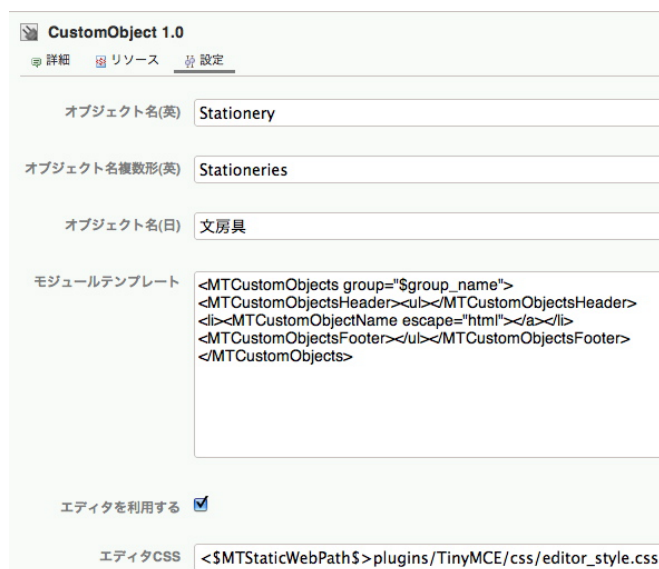
さらに、このカスタムオブジェクトを拡張するプラグインを書くこともできます。

● インストール

Optionsディレクトリから CustomObjectディレクトリをMTのpluginsディレクトリ以下にコピーして管理画面にアクセスします。データベースのアップグレード画面に遷移しますのでユーザー名/パスワード入力してデータベースのアップグレードを行ってください(あらかじめデータベースのバックアップをとっておいてください)。

● 名称を設定する

カスタムオブジェクトで管理するオブジェクトの名称はプラグイン設定画面で行うことができます。ブログ毎に指定することもできますし、システムやウェブサイト単位で行うことも可能です。



●カスタムオブジェクトの権限

カスタムオブジェクトを扱えるユーザーは「カスタムオブジェクトの管理」権限を持ったユーザーです。プラグインをインストールすると「カスタムオブジェクト管理者」というロールが追加されます(プラグインを設置した状態で新規インストールした場合にはロールは追加されませんので、別途ロールを追加するか既存のロールに「カスタムオブジェクトの管理」権限を追加してください)。

ロールの詳細

ロール名* カスタムオブジェクト管理者

説明

権限

管理 ウェブサイトと所属ブログの管理 ウェブサイトの管理
 ブログの管理 設定の変更
 カテゴリの管理 アドレス帳の管理
 タグの管理 ユーザーの管理
 公開バスの設定 カスタムオブジェクト管理者
 キャンペーン管理者 ログの閲覧
 リンク管理者

●管理画面をカスタムフィールドで自由に設計

インストール直後のカスタムオブジェクトの作成・編集画面の入力項目は「名前」「タグ」「作成日」「公開状態」の4つです。それ以外の入力項目は「カスタムフィールド」で設定していきます。
 例では「文房具」オブジェクトのカスタムフィールドを下記のように設定しました。

名前	ベースネーム	テンプレートタグ	種類
名称(追記)	cf_more	CustomobjectMore	テキスト
メーカー名	cf_manufacturer	CustomobjectManufacturer	テキスト
商品番号	cf_itemnumber	CustomobjectItemNumber	テキスト
紹介文	cf_body	CustomobjectBody	テキスト(複数行)
画像(1)	cf_image1	CustomobjectImageMain	画像
画像(2)	cf_image2	CustomobjectImageSub	画像
サイズ	cf_size	CustomobjectSize	テキスト
価格(税込)	cf_price	CustomobjectPrice	テキスト
備考	cf_remarks	CustomobjectRemarks	テキスト
メーカーURL	cf_url	CustomobjectUrl	テキスト

設定後、カスタムオブジェクト作成・編集画面に追加したカスタムフィールドが表示されます。プラグインの設定で「エディタを利用する」にチェックを入れておくと「テキスト(複数行)」フィールドでリッチテキストエディタが使えるようになります。

カスタムフィールドで項目設定後のカスタムオブジェクトの編集画面

● CSV からデータを一括投入する

一覧画面の上部のリンクをクリックするとCSVでのデータのダウンロードとアップロード(一括登録)を行うことができます。



CSVの書式は、CSVをダウンロードして確認することができます。1行目にカラム名(name,status等)、タグについてはtags(値はカンマ区切り)、カスタムフィールドについてはfield.+ベースネーム(例:field.cf_body)を記載し、2行目以降に投入したい値を入力します。日付についてはyyyyMMddHHmmss形式で入力してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	name	tags	field.cf_body	field.cf_itemnum	field.cf_manufac	field.cf_more	field.cf_price	field.cf_remarks	field.cf_size	field.cf_url
2	シャープペンシル筆記用具		書き心地抜群、ALFA-1000001f	ALFA-1000001f	アルファサード有	ブルー	700		14cm	http://alfasado.
3	シャープペンシル筆記用具		書き心地抜群、ALFA-1000001f	ALFA-1000001f	アルファサード有	レッド	700		14cm	http://alfasado.
4	シャープペンシル筆記用具		書き心地抜群、ALFA-1000002f	ALFA-1000002f	アルファサード有	ブルー	800		14cm	http://alfasado.
5	シャープペンシル筆記用具		書き心地抜群、ALFA-1000002f	ALFA-1000002f	アルファサード有	レッド	800		14cm	http://alfasado.
6	万年筆アルファ		本格派のクラシック	ALFA-1000003f	アルファサード	株式会社	10000	ケース付き	18cm	http://alfasado.

● カスタムオブジェクトをグループ化してソート順指定する

Power CMS for MTの他のグループ機能と同様のインターフェイスでカスタムオブジェクトをグループ化、ソート順を指定することができます。

グループの作成は「カスタムオブジェクト」メニュー(この例では「文具」メニュー)の「グループの作成」をクリックして行います。

左にオブジェクトの一覧(「タグ」での絞り込みが可能です)が表示されますので、グループに入れるオブジェクトをマウスでドラッグして右側のエリアにドラッグ&ドロップします。順番の入れ替えもドラッグ&ドロップで行えます。グループから削除したいオブジェクトは逆に右側のエリアから左へドラッグ&ドロップしてください。

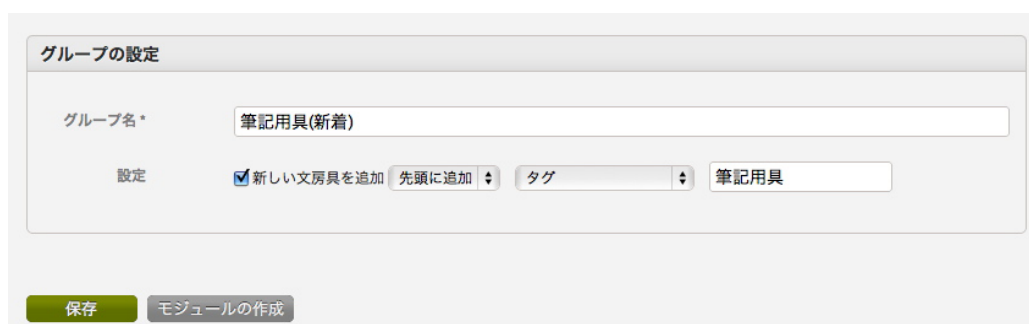


項目を指定したら画面下部の「グループの設定」で名前と追加条件を指定して保存してください(ブログ/ウェブサイト内でグループ名はユニークである必要があります)。

●グループ化したカスタムオブジェクトの一覧を表示するテンプレートモジュールを作成する

グループを保存後、グループ化したカスタムオブジェクトの一覧を表示するテンプレートモジュールをワン・クリックで作成することができます。

モジュールを作成するには、グループの保存後画面下部の「保存」ボタンの右側に表示される「モジュールの作成」ボタンをクリックするだけです。これで自動的にこのグループのオブジェクトの一覧を取り出すテンプレートモジュールが作成されますので、修正の必要があれば適宜編集して「保存」ボタンをクリックしてテンプレートモジュールを保存してください。「モジュールの作成」をクリックした時に生成されるテンプレートのひな形はプラグインの設定で指定することができます。



※カスタムオブジェクト関連のテンプレート・タグ

タグはすべてスタティック/ダイナミック(DynamicMTML)の両方に対応しています。

●ブロックタグ

MTCustomObjects

カスタムオブジェクトをループで出力します。

コンテキスト (MTVar)にセットされる値

__first__:ループの最初
__counter__:ループの何回目か
__odd__:奇数回目の出力
__even__:偶数回目の出力
__last__:ループの最後

指定出来るモディファイア

lastn (limit):何件表示するかを指定します。
offset:何件目から表示するかを指定します (デフォルト値:0)。
sort_order:昇順、降順を指定します (descend, ascend / デフォルト値:ascend)。
sort_by:ソートするカラム名を指定します (created_on, authored_on等 / デフォルト値:id)
blog_id:カスタムオブジェクトが属するブログのIDを指定する場合に記述します。
tag:タグが一致するカスタムオブジェクトを取得します。
group:カスタムオブジェクトグループ名を指定して、グループに属するカスタムオブジェクトを指定したソート順で出力します。groupモディファイアが指定されている場合、sort_byモディファイアの値は無視されます。

MTCustomObjectsHeader / MTCustomObjectsFooter

MTCustomObjectsブロックタグの最初と最後に出力されます。

MTCustomObject

モディファイアidを指定してオブジェクトを1件ロードしてコンテキストをセットします。

MTCustomObjectTags

カスタムオブジェクトに付けられているタグをループ出力します。MTTagName、MTTagID等のタグ関連のMTタグが利用できます。

MT標準のMTTagsタグでtypeに'customobject'を指定することができます。

MTCustomObjectAuthor

カスタムオブジェクトを作成したユーザーのコンテキストをセットします。

ブロックの中ではMTAuthor関連のタグが利用できます。

MTCustomObjectIfTagged

MTCustomObjectsまたは MTCustomObjectタグの中でコンテキストにセットされたカスタムオブジェクトがタグ付けされている場合に出力されます。

● **ファンクションタグ**

ファンクションタグはMTCustomObjectLabelタグを除きMTCustomObjectsまたはMTCustomObjectタグの中でコンテキストにセットされたカスタムオブジェクトに関する情報を出力します。カスタムフィールドで指定した値についてはブログ記事等のカスタムフィールドと同様に出力可能です。日付け関係のタグでは日付けに関するモディファイアを利用可能です。

MTCustomObjectBlogID

カスタムオブジェクトのブログIDを出力します。

MTCustomObjectID

カスタムオブジェクトのIDを出力します。

MTCustomObjectName

カスタムオブジェクトの名前を出力します。

MTCustomObjectAuthorDisplayName

カスタムオブジェクトの作成者名を出力します。

MTCustomObjectAuthoredOn

カスタムオブジェクトの作成日を出力します。

MTCustomObjectModifiedOn

カスタムオブジェクトオブジェクトの更新日を出力します。

●カスタムオブジェクトをページとして表示する

カスタムオブジェクトの一覧をインデックスアーカイブとして登録して出力することは可能ですが、個別のオブジェクトを表示させたいケースもあるかと思います。カスタムオブジェクトはアーカイブタイプに対応していないため個別ページを出力することはできませんが、Power CMS for MTのオプションプラグインViewerを利用することで動的に個別ページを出力させることができます。

●Viewerプラグインの設置とテンプレートの作成

- ・ OptionsディレクトリからダウンロードしたViewerディレクトリの直下のcgi-scriptsディレクトリにあるmt-viewer.cgiをMTのインストールディレクトリに設置して実行可能なパーミッションを付与する
- ・ ViewerディレクトリをMTのpluginsディレクトリにコピー
- ・ Viewerディレクトリ直下のtmplディレクトリ以下に表示用のテンプレートを設置(例:customobject.tmpl)

mt-viewer.cgi (*)はtemplateパラメタに指定したテンプレートを解釈してページを表示します。上記の例では http://example.com/cgi-bin/mt/mt-viewer.cgi?template=customobject&blog_id=1 のようにして呼び出すことができます。

✳️CGIスクリプト名はテンプレートタグでMTViewerScriptで呼び出すことができます。この値は環境変数 ViewerScriptをmt- config.cgiに記述することで変更することができます

テンプレートの中ではCGIスクリプトに渡された値がmt:var (MTGetVar)タグで取り出すことができます。上記リクエストの場合<mt:var name="template" escape="html">で「customobject」を受け取ることができます。

customobject.tmplに下記のように記述することで各ブログのテンプレートモジュールを使うことができます。

```
<$mt:include module="$template" blog_id="$blog_id"$>
```

パラメタにid指定がある場合は個別のカスタムオブジェクトのページを、id指定がない場合はカスタムオブジェクトの一覧を表示する簡単なテンプレートの例を示します。

```
<MTUnless name="id">
<MTCustomObjects lastn="30">
  <MTCustomObjectsHeader><ul></MTCustomObjectsHeader>
```

```

    <li><a
href="<MTViewerScript>?blog_id=<$MTBlogID$>&amp;id=<MTCustomObjectID>&amp;template=
<mt:var name="template" escape="html">"><$MTCustomObjectName$></a></li>
    <MTCustomObjectsFooter><ul></MTCustomObjectsFooter>
</MTCustomObjects>
<MTElse>
    <h1><$MTCustomObjectName escape="html"$>(<MTCustomobjectMore>)</h1>
    <MTCustomObjectImageMain>
        <p></p>
    </MTCustomObjectImageMain>
    <MTCustomobjectBody filters="__default__">
    <ul>
    <li><__trans phrase="Created On"> : <$MTCustomObjectAuthoredOn$></li>
    <li><__trans phrase="Created By"> : <$MTCustomObjectAuthorDisplayName$></li>
    </li>
    </ul>
</MTElse>
</MTUnless>

```

●プラグインによる拡張

カスタムオブジェクトプラグインを外部プラグインで拡張することが可能です。カスタムオブジェクト自体はMT::Objectのサブクラスですので、MTのAPIを利用してオブジェクトをロードしたりデータベースのカラムを拡張したり template_param, template_source等のコールバックに対応したプラグインを書くことができます。

●コールバック

コールバックをトリガとして処理を行うプラグインを書くことが可能です。

コールバック	パラメタ	解説
cms_pre_save.customobject	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からカスタムオブジェクトを作成・更新した際に保存の直前にコールされます。
cms_post_save.customobject	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からカスタムオブジェクトを作成・更新した際に保存の直後にコールされます。
cms_post_delete.customobject	\$cb, \$app, \$obj, \$original	管理画面からカスタムオブジェクトを削除した直後にコールされます。
post_publish.customobject	\$cb, \$app, \$obj, \$original	一覧画面からカスタムオブジェクトのステータスを「公開」に変更した時にコールされます。
post_unpublish.customobject	\$cb, \$app, \$obj, \$original	cms_post_delete.customobject

🔧 入力チェック支援プラグイン (RequiredFields)

エントリの編集画面で入力欄の必須チェック、日時の書式チェックを可能にし、不備があった場合には警告を表示して保存を抑止します。設定を行う事でプレビュー時にもチェックを動作させられます。日時形式の書式チェックは必須チェックに関係なく有効になります。

🔧 プラグイン設定

各ウェブサイト/ブログのプラグイン設定で指定します。

設定項目	解説	設定例
チェック対象のフィールド	チェックしたい対象を「警告で表示させる名前」と「入力欄のname属性」をカンマで区切りで指定します。複数の入力欄を対象にしたい場合は改行区切りで一行に種類ずつ指定します。	タイトル,title 本文,text 追記,text_more タグ,tags 概要,excerpt キーワード,keywords 公開日,authored_on_date 公開時間,authored_on_time 非公開日チェック,unpublished 非公開日,unpublished_on_date 非公開時間,unpublished_on_time 出力ファイル名,basename 変更メモ,revision_comment テンプレートセクター,template_module_id コメントを許可,allow_comments トラックバックを許可,allow_pings トラックバック送信先,to_ping_urls
チェック対象の拡張フィールド	チェック対象にしたい「拡張フィールドのラベル名」を指定します。	
カテゴリ	カテゴリ選択を必須にした場合にチェックを入れます。	
プレビュー	プレビューの際にもチェックを動作させたい場合にチェックを入れます。	

📁 ダウンローダ(Download)

日本語ファイル名に対応したクロスブラウザ対応のダウンロードアプリケーションです。
ダウンロードリンクを自動生成するテンプレートタグも利用可能です。

● インストール

- ・ Downloadプラグインをインストール(MTのpluginsディレクトリにコピー)します。
- ・ MTディレクトリに mt-download.cgiをコピーし実行可能なパーミッションを付与します。

● プラグイン設定(ブログ/ ウェブサイト単位で行います)

設定項目	解説

✿ テンプレート・タグ

● ブロックタグ

MTDownloadScript

ダミー

コンテキスト (MTVar) にセットされる値

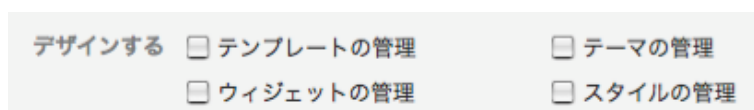
__first__ : ループの最初

指定出来るモディファイア

active: アクティブなキャンペーンのみを表示します。

📁 カスタム権限設定(DesignPermissions)

ウィジェットとスタイルの権限をテンプレート権限と別に管理可能になりました。



「ウィジェットの管理」権限を持っているユーザーは、ウィジェットの一覧閲覧・編集・保存を行えます。

「スタイルの管理」権限を持っているユーザーは、スタイルの一覧閲覧・適用を行えます。

● カスタムフィールドインポート/エクスポート(CustomFieldImporter)

カスタムフィールドの内容を、CSVファイル形式でのインポート・エクスポートできます。



● CSV/TSV (Tab Separated Values)形式のファイルからのインポート

Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータからCSV又はTSV(Tab区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にエントリを生成することができます。

※CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール Text::CSV_XS もしくは Text::CSV が必要です。TSV の場合には特別なモジュールは必要ありません。

インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目に項目名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	内容
basename	ベースネーム
blog_id	ブログID
default	規定値
description	説明
name	名前
obj_type	システムオブジェクト
options	オプション
required	必須?
tag	テンプレートタグ
type	種類

👤 多段階(無制限)ワークフロー(EntryWorkflow)

ブログ記事/ウェブページの無制限段階の承認ワークフローが可能です。

👤 LightBox

画像挿入時にLightboxによる画像拡大表示設定を簡単に設定できます。

テンプレートにあらかじめLightboxの記述を行います。

エディタで画像を配置する際、ファイルオプションで「Lightboxで表示する」を選択すると<a>タグに「rel="lightbox"」が追加されます。

ファイルオプション

画像にaltテキストを設定する

 画像を記事/ページに表示
 サムネイルを利用 (幅: ピクセル) 位置
 なし 左 中央 右
 LightBoxで表示する (幅: ピクセル)
 ポップアップウィンドウで元の大きさの画像にリンクします。 設定を記憶

👤 ログローテーション(Logrotate)

システムログのローテーションが可能です。

ローテーションを定期実行するスクリプトが同梱されています。

Logrotate 0.5

🟢 利用可能
📄 詳細 ⚙️ 設定

圧縮 ログファイルをZIP圧縮する

日数を経過したログを CSVに保存

この世代分のログを保存する

🛡️ 管理画面のIPアドレス制限(Protection)

管理画面へのアクセスをホワイトリスト、ブラックリスト形式で制限できます。
システムメニューのプラグイン設定で設定をします。

👤 ユーザーの情報の一括インポート

ユーザーデータ・権限に加え、ユーザーカスタムフィールドの情報もインポート・エクスポートすることができます。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ユーザー名	表示名	作成者	ブログ記事	注目	被注目
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	admin	admin	システム	40	0	0
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	test	test	admin	1	0	0
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ユーザー名	表示名	作成者	ブログ記事	注目	被注目

CSV/TSV (Tab Separated Values)形式のファイルからのインポート

Microsoft Excel等のスプレッドシート・アプリケーションで作成したデータからCSV又はTSV(Tab区切りテキスト)ファイルを作成して、そのデータを元にエントリを生成することができます。

🌟CSVの処理にはサーバーにPerlモジュール `Text::CSV_XS` もしくは `Text::CSV` が必要です。TSV の場合には特別なモジュールは必要ありません。

インポートデータの作成

インポートデータでは、1行目に項目名等、インポートしたデータの各セルをどこに保存するかについての情報を指定します。指定に関するルールは以下の通りです。

項目の種類	内容
api_password	
auth_type	
basename	
can_create_blog	
can_view_log	
created_by	
created_on	
email	
external_id	
hint	
is_superuser	
modified_by	
modified_on	
name	
nickname	
password	
preferred_language	
public_key	
remote_auth_token	
remote_auth_username	
status	
text_format	
type	
url	
userpic_asset_id	
field.(ベースネーム)	

🔑 Professional 版以上のエディションに含まれるプラグイン

🔑 リンクチェッカ

LinkChecker プラグインでは、再構築をトリガとしてファイル中のリンクを抽出してリスト化し、リンクチェックを行います。相対パス、絶対パス、外部リンク、内部リンク、ハイパーリンクの他、画像リンクや CSS/JavaScript 等の外部ファイルへのリンクもあわせてチェックします(一部 JavaScript によって生成される動的なリンクはサポートしていません)。

🌟 **ダイナミックパブリッシングによって生成されるページのリンクチェックには対応していません(スタティック・パブリッシングされたファイルから、ダイナミックパブリッシングによるページへの内部リンクについてはチェックを行います)。**

● リンクチェックの実行

リンクチェックを行うには、対象ファイルを再構築する必要があります。

再構築ウィンドウに表示される「再構築後にリンクチェックを行う」チェックボックスにチェックを入れ、再構築を実行すると、再構築完了後に「リンクチェックを実行」ボタンが表示されますので、クリックしてレポートを表示します。

● リンクチェックの修復

ファイルの URL の右側のインデックス、ブログ記事等のテキストリンクをクリックするとブログ記事(ウェブページ)の場合は該当のエントリの編集画面、その他のアーカイブの場合はテンプレートの編集画面に移動して素早く修正を行うことができます。

● リンクチェック関連の設定

システムプラグイン設定から LinkChecker プラグインの設定を表示します。

設定項目名	解説	設定例
外部リンク	サイト外のURLに対してHTTPアクセスしてリンクチェックを行います。	
内部リンク	サイト内のURLに対してファイルの存在チェックを行います。	
/で終わるリンク	/category/ 等の / で終わる内部リンクに対して存在をチェックするファイル名を記述します。カンマ区切りで複数指定が可能です。	index.php,index.html,index.htm
タスク	チェックを入れることで、再構築直後ではなく次回のタスク(run-periodic-tasks)実行時にリンクチェックを行います。対象ファイル数が多く、CGIによるリンクチェックがタイムアウトやエラーになる場合に設定します。	
チェック完了時通知先	タスクによってリンクチェックを行った結果を通知するメールアドレスを入力します。カンマ区切りで複数指定が可能です。	
レポート	チェックを入れるとエラーのみをレポートします。	

- ✿ 「.../」など、イレギュラーなリンク先の記述には対応していません。
- ✿ 日本語ファイル名のファイルへのリンクチェックに関しては、UTF-8 環境でのみ動作保証されます。
- ✿ その他、Abs2Rel に関する制限事項 と同等の制限事項があります。

📧 メールマガジン

メールマガジンを作成し、登録ユーザーに配信することができます。指定日配信も可能です(指定日配信には、Cron ジョブの登録による、タスクの定期実行が必要になります)。また、メールマガジンをブログ記事として保存し、バックナンバーとして公開することもできます。

● インストールされるロール

MailMagazine プラグインをインストールすると、アップグレードの際に自動的に以下のロールがインストールされます。

(1) メールマガジンの購読

メールマガジンを購読します。このロールに属するユーザがメールマガジンの送信対象として扱われます。

(2) メールマガジンの作成

メールマガジンを作成することができるロールです。

デザイン	▼
カスタムフィールド	▼
メールマガジン	▼
メールマガジンの一覧	
メールマガジンの新規作成	
アクション	▼
設定	▼
ログ	▼

● MailMagazine プラグインの設定項目

このプラグインでは、各ブログ単位での設定と、システムメニューでの設定があります。各ブログでのメールマガジン作成に関する設定はそのブログのプラグイン設定画面から行う必要があります。

(1) 送信先を選択する(各ブログ、システムメニュー)

チェックすると、メールマガジン作成の際に送信先を選択することができます。送信対象が多い場合はメールマガジン作成画面の構築に時間がかかるので、その場合はチェックを外してください。チェックがなければ、「メールマガジンの購読」ロールに属するユーザ全員にメールを送信します。

(2) メールの送信元(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジン送信の際に、ここで設定したメールアドレスが送信元となります。

(3) メールタイトル(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「タイトル」欄に入るテキストとなります。

(4) メール本文(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「本文」欄に入るテキストとなります。

(5) メールにつける署名(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの作成の際に、デフォルトで「本文」欄の最後に入るテキストとなります。

(6) 送信間隔(システムメニューのみ)

メールマガジン送信の際に、一つ一つのメール送信のインターバルになります。単位は秒です。

(7) 一覧表示件数(各ブログ、システムメニュー)

メールマガジンの一覧表示ページにおいて、1 ページに表示する件数を半角数字で指定します。

●メールマガジンの配信

各ブログのメニュー「メールマガジン」の「メールマガジンの新規作成」から、メールマガジンを新規作成できます。

表示される編集画面で、タイトル、本文を入力後、送信先をチェックボックスで選択し、「変更を保存」ボタンで保存します。「すぐに送信」を押すとその場で送信されます。「タスク送信」を押した場合、その場では送信しませんが、同梱のメール配信スクリプトを使って送信を行うことができます(後述)。この方法を使うことで MT の動作とは別に送信動作を行うことができるので、送信件数が多く、時間がかかる場合などに有効です。

●指定日配信機能

指定日配信を行いたい場合、一番下の「送信時間」の項目で「指定日配信」にチェックを入れ、配信時間を設定します。日付の指定は、カレンダーをクリックするだけで行うことができます。

- ※指定日到来後の、次のタスク実行の際にメールマガジンが配信されます。
- ※指定日配信には、Cron ジョブの登録による、MT のタスクの定期実行が必要になります。
- ※「指定日配信」にチェックを入れていても、「すぐに送信」を押すとその場で送信処理が行われます。

編集完了後、「指定日配信」ボタンを押すと送信するメールのデータが XML で書き出されます。MailMagazine プラグインのメール送信ツール(Power CMS に同梱されています)を Cron ジョブに登録しておくことで、定期的に XML データを元に購読者にメールを送信する作業を行わせることができます。この方法を使うことで、MT の動作とは別に送信動作を行うことができるので、送信件数が多く、処理に時間がかかる場合などに有効です。

- ※この機能を使用する場合、「powercms_files/mail」に、Web サーバから書き込みできる権限設定を行ってください。

例) 午前 4 時にメール配信する場合の cron ジョブの設定例

```
0 4 * * * cd /path/to/mt/; ./tools/send-mailmagazine
```

●メールマガジンの一覧と再編集

「設定」メニューから「メールマガジン」を選択することで閲覧することができます。
作成途中で保存しておいたメールマガジンを編集したい場合、該当のメールマガジンのタイトルをクリックして表示される編集画面から、通常の作成と同様に編集を行うことができます。

✳一度配信したメールマガジンの再編集はできません。

●メールマガジンをエントリとして保存する

メールマガジン作成の際、「ブログ記事として保存する」にチェックを入れることで、そのメールマガジンをブログ記事として保存することができます。保存されたブログ記事は通常のブログ記事と全く同じですので、テンプレートを使ってバックナンバーとして公開することができます。

The screenshot shows a form with the following sections:

- 改行** (Line Breaks): A text input field containing '0', followed by '実行する' (Execute) and '元に戻す' (Reset) buttons.
- 送信時間** (Delivery Time): A checkbox for '指定日配信' (Scheduled Delivery) is checked, with a date field '2010-04-06' and a time field '22:51:16'.
- 保存** (Save): A checkbox for 'ブログ記事として保存する' (Save as Blog Post) is checked.
- 状態が** (Status): A dropdown menu set to '未公開(原稿)' (Unpublished (Draft)).
- 改行が** (Line Breaks): A dropdown menu set to 'リッチテキスト' (Rich Text).
- カテゴリが** (Category): A dropdown menu set to '選択 ...' (Select ...).

● 会員限定サイト (Members プラグイン)

Members プラグインを使うと、Movable Type のログイン機能を使って Movable Type にログインしているユーザー限定のページを簡単に作成することができます。Power CMS のテンプレートセットを適用してブログを作成すれば、標準で携帯電話でのアクセスにも対応しています(会員専用サイトはmt-config.cgiによる検索はできません)。

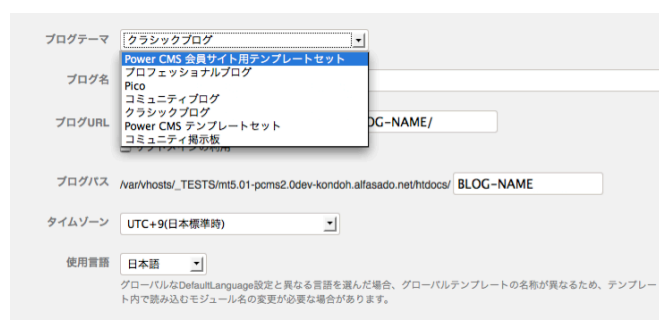
● Members プラグインによる処理の流れ

- ・各ファイルの冒頭で、PHP によってログイン状態および閲覧権限の有無を確認します。
- ・ログイン状態でない場合もしくは閲覧権限がない場合、ブラウザを mt-members.cgi にリダイレクトし、ログイン画面を表示します。

● 会員限定サイトの構築手順

(1) テンプレートセットのインストール

PowerCMSTemplateSet プラグインをインストールした上で、ウェブサイト/ブログを作成する際に選択する「テンプレートセット」の項目で「Power CMS 会員サイト用テンプレートセット」を選択してください。必要なテンプレートがインストールされます。



The screenshot shows a web form for installing a template set. The 'Blog Theme' (ブログテーマ) dropdown menu is open, showing several options. The option 'Power CMS 会員サイト用テンプレートセット' (Power CMS Member Site Template Set) is highlighted in blue. Other options include 'クラシックブログ', 'ブログフェッショナルブログ', 'Pico', 'コミュニティブログ', 'クラシックブログ', 'Power CMS テンプレートセット', and 'コミュニティ掲示板'. Below the dropdown, there are input fields for 'Blog Name' (ブログ名), 'Blog URL' (ブログURL), 'Blog Base' (ブログパス), 'Time Zone' (タイムゾーン), and 'Language' (使用言語). The 'Blog Base' field contains the path '/var/hosts/_TESTS/mt5.01-pcms2.0dev-kondoh.alfasado.net/htdocs/'. The 'Time Zone' is set to 'UTC+9(日本標準時)' and the 'Language' is set to '日本語'. A small note at the bottom explains that the template name may change if the default language is changed.

☀上記手順で、携帯電話からのアクセスに対応するためのテンプレートも同時にインストールされます。携帯電話からのアクセスに対応する必要がない場合、テンプレートセットをインストールしたあと、携帯対応のためのテンプレートを削除してください。携帯対応のためのテンプレートは、テンプレート名が「～(携帯用)」となっています。

(2) mt-config.cgi への設定の追加

ユーザー限定領域に対して Movable Type のログインクッキーを有効にするために、mt-config.cgi に以下の一行を追加します。

```
CookiePath /
```

☀既にログインしている環境では、ブラウザのクッキーを削除して再度ログインする必要があります。

(3) mt-members.cgi の設置とパーミッション設定

mt/mt-members.cgi を、Movable Type をインストールしたディレクトリ内にコピーし、実行可能なパーミッションを付与します。

(4)確認

ブログ全体の再構築を行ったあと、Movable Type からログアウトした状態で、対象の領域のページへアクセスすると、ログインページにリダイレクトされるようになります(右は携帯電話でのアクセスの場合です)。ログインを行うことで、ページを閲覧することができるようになります。

※IIS サーバをお使いの場合は、カスタムエラーハンドラでステータスコード 403 の場合の処理ファイルを `mt-member.php` に設定する必要があります。 `mt-member.php` はインデックステンプレートとしてテンプレートセットに含まれており、ブログの公開パス直下に出力されます。

※`mt-members.cgi` を Movable Type をインストールしたディレクトリ以外に設置する場合は、設置場所の URL を `mt-config.cgi` に設定する必要があります。設定は以下のようになります。

```
MemberScript http://url/to/mt-members.cgi
```

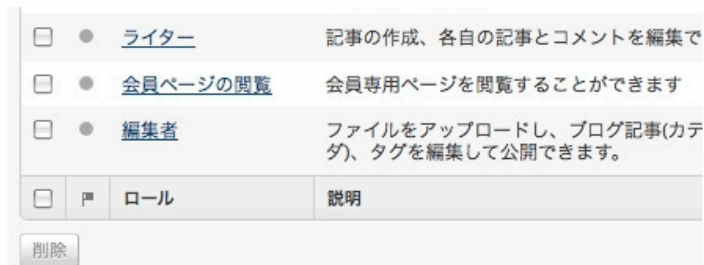
※`mt-members.cgi` を他のファイル名に変更する場合についても上記設定を行ってください。

●会員限定サイトと一般公開サイトの切り替え

ブログを会員限定にするか、一般公開するかはブログの「設定」→「全般」から簡単に切り替えることができます。会員限定サイトにしない場合は、「会員限定サイトにする」のチェックを外してください。

● 「会員」とインストールされるロールについて

Members プラグインにおける「会員」は、Movable Type 上では「会員ページの閲覧」ロールが割り当てられているユーザが会員と見なされます。「会員ページの閲覧」ロールについては、Members プラグインをインストールすることによって自動的に作成されます。



● Members プラグインの設定

「システムメニュー」→「プラグイン設定」→「Members」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
サイトのルート・パス	ドキュメントルートのパスをフルパスで指定します。	/home/usr/public_html
セッションの有効期限	セッションの有効期限を秒単位で指定します。	3600
仮登録ユーザーの有効期限	仮登録後、ここで指定した秒数を経過した場合に本登録をできなくします。	
すべてに同時登録	サインアップの際に、全てのブログに対して同時にサインアップさせたい場合はチェックしてください。	
登録通知先	会員登録が行われた場合に通知する通知先を設定します。通知先として選択できるのはシステム管理者権限を持つユーザに限られます。	
メールのFromアドレス	メール送信の際に送信元として使用されます。	

● Members プラグインで利用出来るタグ

● ファンクションタグ

MTBlogIsMembersOnly

ブログの設定で「会員限定サイトにする」にチェックが入っている場合に 1 を返します。

MTMembersScript

環境設定 MembersScript の値を出力します。

MembersLoginCheck

テンプレートセット標準の「Dynamic Site BootStrapper」に記述されており、ログインチェックを行う PHP スクリプトを出力します。

このテンプレート以外で使用する場合は、モディファイア `phpcode="1"` をつけると MT の API を読み込む形で、スタティックな PHP コードを出力します。「Dynamic Site BootStrapper」以外で使用する場合は必ず `phpcode="1"` をつけて、テンプレートの冒頭に設置してください(空白や、空の改行等も含まれないようにする必要があります)。

ブログの設定で「会員限定サイトにする」にチェックを入れない場合でも、会員・非会員による表示内容の分岐を行う場合にはこのタグを設置してください。

📱 携帯機能(Mobile プラグイン)

Mobile プラグインは、携帯電話からのメール投稿機能や、携帯端末からのアクセスのために複数のフォーマットの画像を自動生成する機能があります。

- 🌟メールによる投稿を行うためには、Perl モジュール MIME::Parser がサーバーにインストールされている必要があります。
- 🌟メールの取り込みのために、Cron ジョブの登録による、MT のタスクの定期実行が必要になります。

📧 メール投稿のための設定

Mobile プラグインでは、「各ブログのプラグイン設定」「各ブログの設定」の、2 種類の設定箇所があります。

●各ブログのプラグイン設定

任意のブログ→「プラグイン設定」→「Mobile」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
メール投稿時の送信先メールアドレス	メール投稿を行うための送信先となるメールアドレスを入力してください(この項目は実際にはプログラム内では使用されませんので、メモとしてご利用ください)。	post@example.com
送信先メールアドレスのアカウント名	送信先メールアドレスのアカウント名を設定します。	post
送信先メールアドレスのパスワード	送信先メールアドレスのパスワードを設定します。	*****
送信先メールアドレスのメールサーバ	メールサーバのサーバ名を設定します。	mail.example.com
送信先メールアドレスのプロトコル	送信先メールアドレスのメールサーバからのメールの受信に使うプロトコルを設定します。	pop3
添付ファイルを保存するディレクトリ	メールに添付されていたファイルを保存するディレクトリを設定してください。例えば、「files」を指定した場合、「/path/to/blog/files」に保存されます。	files
画像の幅	メールに添付されていたファイルが画像の場合に、ここで指定した幅より大きければサムネイルを作成します。	480

設定項目	解説	設定例
画像のマークアップ形式	メールに添付されていたファイルが画像の場合に、画像をマークアップする形式を指定します。なお、画像のマークアップは「続き」欄に保存されます。	<p class="image"></p>

(3)各ブログの設定

任意のブログ→「設定」→「全般」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
メール投稿	メール投稿を行うブログでは、「メール投稿を許可する」にチェックを入れてください。なお、メール投稿はブログでのみ行うことができ、ウェブサイトでは行うことができません。	

🗨 ユーザのメールアドレスの設定

ユーザ情報設定画面から、それぞれのユーザの携帯メールアドレスを設定してください。スパム対策のため、ここで指定されたメールアドレスからの投稿でない場合は受け付けられません。

電子メール *	mail@example.com
携帯メール	mail@mobile.com

🗨 メール投稿

ユーザ情報設定画面で設定した携帯メールアドレスから、プラグイン設定「メール投稿時の送信先メールアドレス」で設定したメールアドレスにメールを送信します。

メールには、件名に記事のタイトルを入力し、本文に記事の内容を記載してください。画像などの添付ファイルがあった場合はプラグイン設定「画像のマークアップ形式」の形でマークアップされ、「続き」欄に保存されます。

🗨 メールの取り込み処理

MT のタスクが実行される際にメールが取り込まれ、ブログ記事として保存されます。

●サムネイルの自動生成のための設定

Mobile プラグインでは、ひとつのフォーマットの画像をアップロードした際に、他のフォーマットの画像を自動的に作成する機能があります。新規にアイテムをアップロードする画面で、「他のフォーマット画像の作成(画像の場合のみ)」にチェックを入れて画像をアップロードすると、自動的に他のフォーマットの画像が生成され、アイテムとして保存されます。

The screenshot shows a web form for uploading files. At the top, it says 'アップロードするファイルを選択' (Select file to upload) with a text input field and a '選択...' (Select...) button. Below that, there is a section titled '他のフォーマット画像の作成(画像の場合のみ)' (Generate other format images (image case only)) with a checked checkbox labeled '作成する' (Generate). Underneath, there is a section 'アップロード先' (Upload destination) with a dropdown menu showing '<サイトパス>' (Site path) and a text input field. A note below says '下のオプションからアップロード先のパスを選択してください。しない場合は作成されません。' (Please select the path from the options below. It will not be created if not selected). At the bottom, there is a blue 'アップロード' (Upload) button.

●各ブログのプラグイン設定

任意のブログ→「設定」→「全般」の設定で以下の項目が設定出来ます。

設定項目	解説	設定例
他のフォーマット画像の作成	「デフォルトにする」にチェックを入れると、アイテムのアップロード画面で「他のフォーマット画像の作成」にデフォルトでチェックが入った状態になります。	
サイドバーへの表示	チェックすると自動的に作成された他のフォーマットの画像をサイドバーに表示されます。	

📱携帯サイト用ライブラリ

Power CMS for MT 標準の携帯サイトテンプレートで利用されている絵文字や画像フォーマットの変換などの機能は KeitaiLib プラグインによって提供されています。

🌟KeitaiLib プラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTKeitaiContent

ブロックで囲まれたコンテンツを size モディファイアで指定のサイズで start_tag モディファイアで指定したタグで分割して出力します。static モディファイアを指定すると静的ファイルを分割出力します。

MTKeitaiContentBody

MTKeitaiContent ブロックタグの中で分割対象にするコンテンツを格納します。

MTKeitaiContentPageList

MTKeitaiContent ブロックタグで分割されたページ情報をループ出力します。glueモディファイアでリストをつなげる区切り文字が指定できます。

MTKeitaiContentPageListHeader

MTKeitaiContentPageList ブロックタグのループの一回目で出力されます。

MTKeitaiContentPageListFooter

MTKeitaiContentPageList ブロックタグのループの最終回目で出力されます。

MTIfKeitaiPagePrev

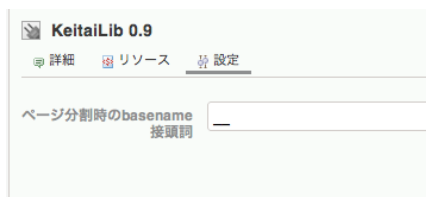
MTKeitaiContent ブロックタグでページが分割された場合、現在参照中のページの前のページが存在する場合に真を返します。

MTIfKeitaiPageNext

MTKeitaiContent ブロックタグでページが分割された場合、現在参照中のページの次のページが存在する場合に真を返します。

MTIfKeitaiPageCurrent

MTKeitaiContent ブロックタグでページが分割された場合、MTKeitaiContentPageList のループの中で現在参照中のページと一致する場合に真を返します。ページ分割時にはダイナミックパブリッシング及び静的ダイナミックパブリッシングではページのURLに?page=2 のようにパラメタを付与します。スタティックパブリッシングではプラグイン設定の「ページ分割時の basename 接頭詞」で指定した文字列を basename に付与して foo_2.html のようなファイル名で分割出力されます。



例: ブログ記事分割してリストと共に表示する例

```

<mt:KeitaiContent start_tag="p" static="1" size="300" str2keitai="1" convertthumb-
  nail="100,240" z2h="1">
  <mt:KeitaiContentBody>
    <$mt:EntryBody$>
    <$mt:EntryMore$>
  </mt:KeitaiContentBody>
  <mt:KeitaiPageCount setvar="page_count">
  <mt:if name="page_count" gt="1">
    [ <mt:ifKeitaiPagePrev>
      <a href="<$mt:KeitaiPagePrevLink$">>PREV</a>
    </mt:ifKeitaiPagePrev>
    <mt:KeitaiContentPageList>
      <mt:IfKeitaiPageCurrent>
        <strong><$mt:KeitaiPageNumber$></strong> |
      <mtelse>
        <a href="<$mt:KeitaiPageLink$">><$mt:KeitaiPageNumber$></a> |
      </mt:IfKeitaiPageCurrent>
    </mt:KeitaiContentPageList>
    <mt:ifKeitaiPageNext>
      <a href="<$mt:KeitaiPageNextLink$">>NEXT</a>
    </mt:ifKeitaiPageNext> ]
  </mt:if>
</mt:KeitaiContent>

```

PREV 1 2 3 4 NEXT

✿static="1" を指定する場合、MTKeitaiContent ブロックタグはアーカイブテンプレート内に記述してください。テンプレートモジュール内に記述するとページ分割が正しく行われません。

MTConvertSJIS

(ダイナミックパブリッシング専用)ブロック内の文字コードを Shift_JIS に変換して出力します。

* スタティック・パブリッシングで出力文字コードを Shift_JIS に変換する場合、テンプレート単位で「テンプレートの設定」の「エンコーディング」「このアーカイブを Shift_JIS 出力する」にチェックを入れてください (MTConvertSJIS タグは使えません)。



MTEmoticon2emoji

(ダイナミックパブリッシング専用)エディタから貼り付けられた絵文字を3キャリア別の絵文字に変換します。

指定出来るモディファイア

base: 絵文字が格納されているディレクトリへのパスを指定します。

size: 携帯以外からのアクセスの場合に表示される絵文字画像の表示サイズを指定します(単位:ピクセル)

emoticon: 携帯でないアクセスの場合に絵文字画像を表示します。

alt: 絵文字画像にalt属性を追加する場合に指定します。

MTStripLineFeeds

ブロックタグ内から改行コード(キャリッジリターンおよびラインフィード)を除きます。

MTIfKeitai

ユーザーエージェントが DoCoMo/au/SoftBank からのアクセスの場合に真を返します。

MTIfiPhone

ユーザーエージェントが iPhone/iPod touch からのアクセスの場合に真を返します。

MTIfAndroid

ユーザーエージェントが Android 端末からのアクセスの場合に真を返します

IfSmartphone

ユーザーエージェントが Smartphone 端末(Android,BlackBerry,iPhone(iPod touch),iPad,Palm,Opera Mini)からのアクセスの場合に真を返します

IfPC

ユーザーエージェントが 携帯(DoCoMo/au/SoftBank)、Smartphone 端末(Android,BlackBerry,iPhone(iPod touch),iPad,Palm,Opera Mini)以外のアクセスの場合に真を返します

● ファンクションタグ**MTGetEmoji**

DoCoMo の絵文字番号を docomo_id モディファイアで指定してキャリア毎の絵文字を出力します。

MTGetEmoticon

DoCoMo の絵文字番号を docomo_id モディファイアで指定して絵文字アイコン画像を取り出します。絵文字アイコンを用意する必要があります。DoCoMo の絵文字番号と画像の変換テーブルは lib/KeitaiLib/EmojiUnicode.pm を参照してください。

例:DoCoMoの絵文字番号1(晴れ)のアイコンを取得する例

```
<mt:GetEmoticon docomo_id="1" base="/mt-static/emoticon/" size="16" emoticon="1">
```

MTGetEmojiUnicode

MTGetEmoji と同様の結果を返します。

MTGetEmojiLegacy

DoCoMo の絵文字番号を docomo_id モディファイアで指定して絵文字アイコン画像を取り出します。MTGetEmojiと違い、DoCoMo では Shift_JIS の 10 進数形式、au では形式で出力します。

MTGetEmojiRegacy

DoCoMo の絵文字番号を docomo_id モディファイアで指定して絵文字アイコン画像を取り出します。MTGetEmojiと違い、DoCoMo では Shift_JIS の 10 進数形式、au では形式で出力します。

MTKeitaiPageLink

MTKeitaiContentPageList ループの中で対象のページへの URL を出力します。

MTKeitaiPageNextLink

MTKeitaiContent ブロックタグの中で現在のページの次のページの URL を返します。

MTKeitaiPagePrevLink

MTKeitaiContent ブロックタグの中で現在のページの前のページの URL を返します。

MTKeitaiPageNumber

MTKeitaiContentPageList ループの中で対象のページの番号を出力します。

MTKeitaiPageCount

MTKeitaiContent ブロックタグで分割されたページ数を出力します。

MTXMLDocument

<?xml version="1.0" encoding="<MTPublishCharset>?">と同様の出力結果を返します。

● モディファイア

emoticon2mtml

絵文字画像のファイル名から絵文字を識別してキャリア別に出力します。静的スタティックパブリッシングの場合は適切な MTGetEmoji タグに変換して出力されます。

convertthumbnail

適用範囲に含まれる img タグを、指定したサイズのサムネイルへのリンクに変換します。サムネイルは自動的に生成され、ダイナミックパブリッシング及び静的ダイナミックパブリッシングの場合はキャリアに応じた画像が返されます。スタティックパブリッシングの場合、オリジナルと同じフォーマットのサムネイル画像への変換が行われますが、GIFの場合は PNG、PNG の場合は GIF 形式のサムネイルが同時に生成されます。
convertthumbnail="100,240" のようにカンマで区切った場合、最初に指定したサイズのサムネイルから、次に指定したサイズのサムネイルへのリンクに変換されます。

z2h

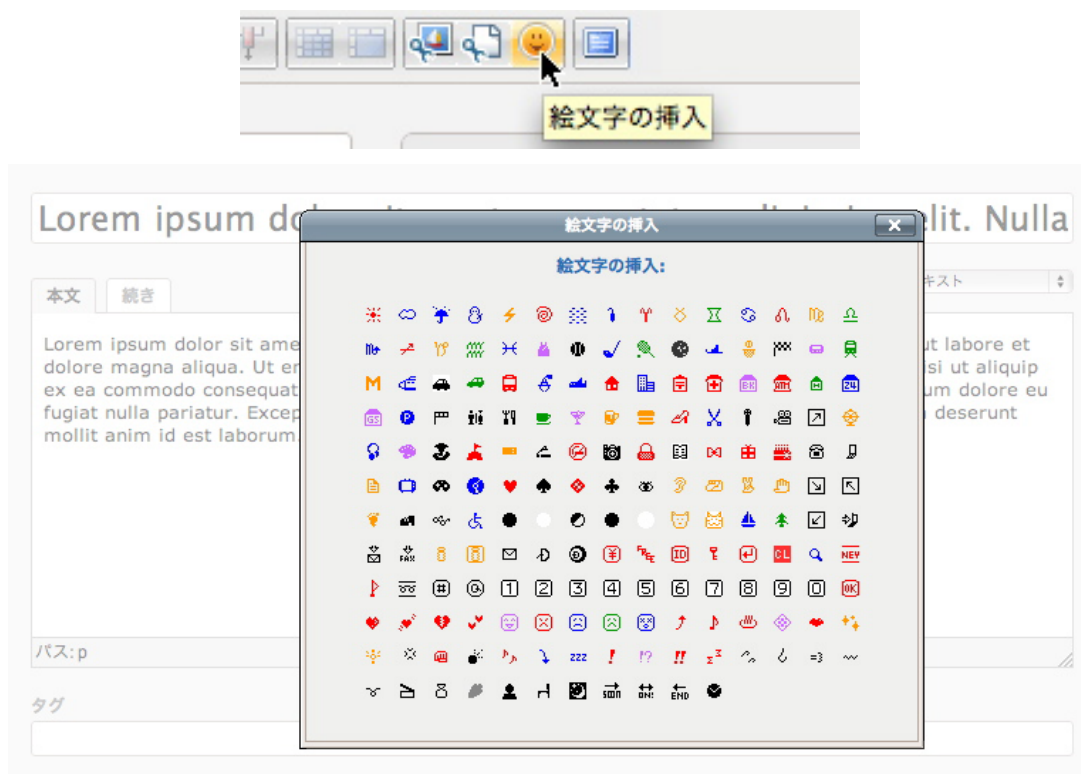
全角カタカナを半角カタカナに変換します。

str2keitai

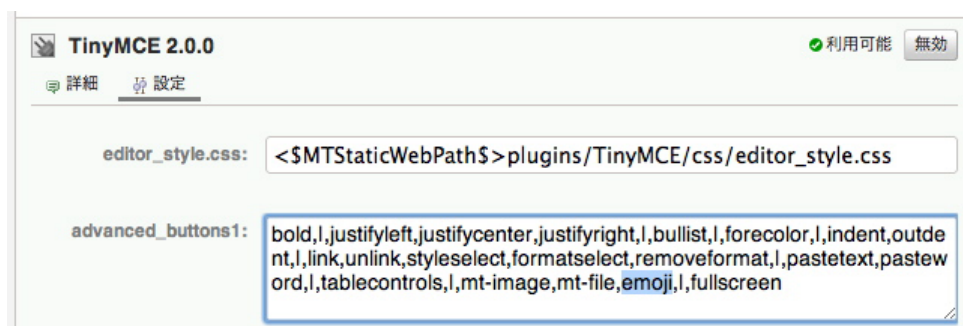
script 要素を要素内容とともに削除し、strong, em, b, i, u, s, font, frameset, frame, noframes の各タグ、onclick 等の物理イベント属性を削除します。また、blockquote タグの cite 属性と iframe要素の src 属性をリンクに置換します。

🍌 絵文字の貼り付け

リッチテキストエディタで絵文字アイコンを挿入できます。



絵文字挿入ボタンをリットテキストエディタに適用するには、システムプラグイン設定→TinyMCEの設定で、advanced_buttons1(~ 5)のボタンを表示させたい箇所に「emoji」と入力して設定を保存してください。

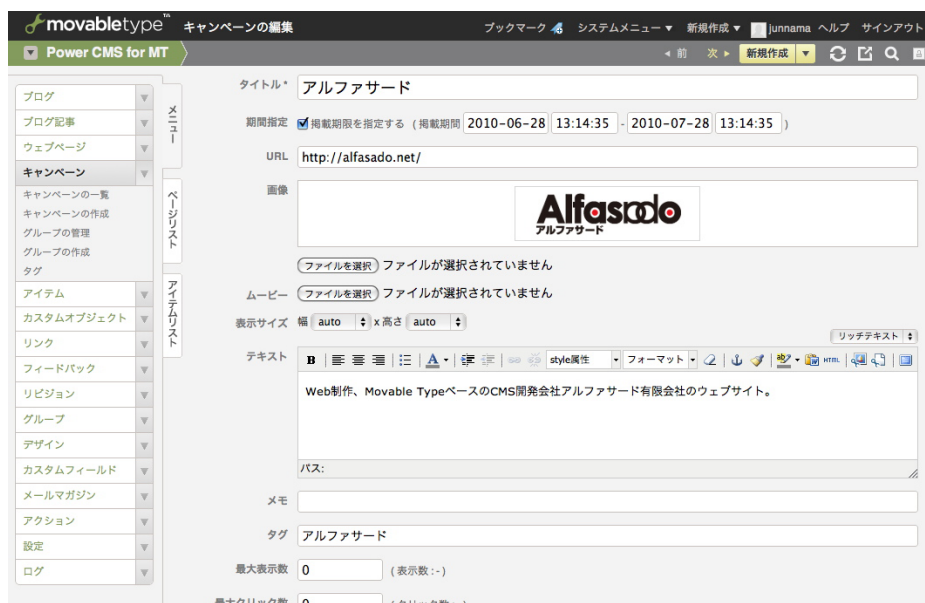


🎯 キャンペーン

Campaignとは、タイトル、URL、画像、ムービー、テキスト、メモ等のフィールドを持つMovable Typeのオブジェクトです。カスタムフィールドに対応しているため、自由に入力項目を拡張することができます。画像とムービーはMT::Assetオブジェクトとして管理されます。キャンペーングループをドラッグ&ドロップインターフェイスで登録することが出来ます。

Movable Typeの定期実行タスクによってキャンペーンの掲載開始、終了を制御することやダイナミック・パブリッシングとの組み合わせによってランダムな出力や効果測定が簡単に行えます。

最大表示数やクリック数の設定、ランダムな表示に対応しており、本格的な広告の管理・運用を行うことができます。



● インストール

- ・ PowerCMSProfessionalプラグインをインストール(MTのpluginsディレクトリにコピー)します。
- ・ powercms_filesディレクトリ直下にcampaignディレクトリを作成し、CMSから書き込み可能なパーミッションに設定します。
- ・ スタティックパブリッシングで効果測定を行う場合は、MTディレクトリに mt-campaign.cgiをコピーし実行可能なパーミッションを付与します。
- ・ 個別のキャンペーンページを表示する場合は、オプションプラグインのViewerをインストールします。Viewerのインストールと利用方法についてはカスタムオブジェクトの記事を参照してください。

● プラグイン設定(ブログ/ ウェブサイト単位で行います)

| 設定項目 | 解説 |
|------------|---|
| バナーの最小サイズ | キャンペーン編集画面で幅/高さを指定するプルダウンの最小値(数値)を指定します。 |
| バナーの最大サイズ | キャンペーン編集画面で幅/高さを指定するプルダウンの最大値(数値)を指定します。
この値より大きな画像をアップロードした場合、このサイズにリサイズされた画像が利用されます。 |
| バナーのデフォルト幅 | キャンペーン編集画面で幅を指定するプルダウンのデフォルト値を指定します。 |

| 設定項目 | 解説 |
|------------------------|---|
| バナーのデフォルト高 | キャンペーン編集画面で高さを指定するプルダウンのデフォルト値を指定します。 |
| バナーの保存場所 | アップロードした画像やムービーの保存場所を指定します(デフォルト値は<サイトパス>/banner/)。 |
| 初期キャンペーン期間(日) | キャンペーン作成時の終了日の初期値(作成日から何日後か)を指定します(デフォルトは30日)。 |
| クッキーの有効期限(日) | 効果測定のためのクッキーの保存期間を日数で指定します(デフォルトは30日)。 |
| 集計対象外のIP | 効果測定から除外するアクセス元IPアドレスを改行区切りで指定します。 |
| コンバージョンカウント後のリダイレクトURL | MTCampaignConversionCounter タグが呼び出された後にリダイレクトする先のURLを指定します(デフォルトは/mt-static/images/spacer.gif)。 |
| エディタの設定 | 本文欄でリッチテキストエディタを利用する際の設定を行います。 |

✿テンプレート・タグ

タグはすべてスタティック/ダイナミック(DynamicMTML)対応ですが効果測定系のタグの振る舞いについては一部パブリッシング方法によって異なる部分があります。

●ブロックタグ

MTCampaigns

キャンペーンオブジェクトをループ出力します。

コンテキスト (MTVar) にセットされる値

__first__ :ループの最初

__counter__ :ループの何回目か

__odd__ :奇数回目の出力

__even__ :偶数回目の出力

__last__ :ループの最後

指定出来るモディファイア

active:アクティブなキャンペーンのみを表示します。

*出力時点のタイムスタンプが掲載開始日,終了日の範囲内であるキャンペーン

lastn (limit):何件表示するかを指定します。

offset:何件目から表示するかを指定します(デフォルト値:0)。

sort_order:昇順、降順を指定します(descend,ascend / デフォルト値:ascend)。

sort_by:ソートするカラム名を指定します(id, title, publishing_on, created_on, displays等 / デフォルト値:publishing_on)

shuffle:取得したオブジェクトをランダムに並び替えて出力します(スタティックパブリッシングの場合は再構築時点で並び替え)。

group:キャンペーングループ名を指定します。

グループ名を指定した場合は表示順は常にグループのオーダー順になります(昇順,降順の指定は可能です)。

blog_id:キャンペーンが属するブログのIDを指定する場合に記述します。

MTCampaignsHeader / MTCampaignsFooter

MTCampaigns ブロックタグの最初と最後に出力されます。

MTCampaign

id/title/basename(identifier)モディファイアを指定してキャンペーンオブジェクトを読み込みます。activeモディファイアを指定した場合、そのキャンペーンがアクティブな場合のみ内容を出力します。

MTCampaignRandom

blog_id/active/groupモディファイアが指定可能です。groupモディファイアを使うことによって、特定のグループのキャンペーンから1件をランダムに出力する、といった使い方ができます。

```
tag="アルファサード"
```

といった指定ができ、特定のタグの付いたキャンペーンからランダム1件を取得できます。

ダイナミックパブリッシングの場合は(キャッシュが無効な場合)文字通りランダムに出力されますが、スタティックパブリッシングの場合は再構築の度にランダムに出力されます。

MTIfCampaignHasImage

キャンペーンに画像が指定されている場合に出力されます。

MTIfCampaignHasMovie

キャンペーンにムービーが指定されている場合に出力されます。

MTCampaignIfTagged

キャンペーンにタグが付けられている場合に出力されます。

MTCampaignAuthor

キャンペーンの作成者のAuthorコンテキストをセットします。

MTCampaignAsset

キャンペーンのアイテムをコンテキストにセットします(優先度は画像,ムービーの順)。typeまたはclassモディファイアにimageまたはmovieを指定することで、画像/ムービーを明示的に指定可能です。

MTIfCampaignActive

アクティブなキャンペーン場合(出力時点のタイムスタンプが掲載開始日,終了日の範囲内であるキャンペーンである場合)に出力されます。

● ファンクションタグ

MTCampaignID

キャンペーンIDを出力します。

MTCampaignTitle

キャンペーンのタイトルを出力します。

MTCampaignText

キャンペーンのテキスト(本文)を出力します。

MTCampaignMemo

キャンペーンのメモを出力します。

MTCampaignBasename

キャンペーンのベースネーム(basename)を出力します。

MTCampaignUrl

キャンペーンのURLを出力します。

MTCampaignBannerUrl

キャンペーンの画像のURLを出力します。

MTCampaignMovieUrl

キャンペーンのムービーのURLを出力します。

MTCampaignBannerWidth

キャンペーンバナーの表示サイズ(幅:px)を出力します。

MTCampaignBannerHeight

キャンペーンバナーの表示サイズ(高さ:px)を出力します。

MTCampaignCreatedOn

キャンペーンバナーの作成日を出力します。日付に関するモディファイアが利用できます。

MTCampaignPublishingOn

キャンペーンバナーの掲載開始日を出力します。日付に関するモディファイアが利用できます。

MTCampaignPeriodOn

キャンペーンバナーの掲載終了日を出力します。日付に関するモディファイアが利用できます。

MTCampaignAuthorDisplayName

キャンペーンの作成者の表示名を出力します。

MTCampaignCounter

(*ダイナミックパブリッシングの場合キャンペーンの表示数を+1した上で)キャンペーンの表示回数を出力します。

*この時、クッキーをチェックしてユニークユーザー数をあわせて確認します。カウント対象外のIPアドレスをプラグイン設定で指定できます。スタティック・パブリッシングの場合、単に表示回数を出力します。このタグの代わりに効果測定用CGIを利用することも出来ます。MTCampaignScriptの項を参照してください。

MTCampaignRedirect

(*ダイナミックパブリッシングの場合キャンペーンのクリック数を+1した上で)キャンペーンのURLにリダイレクトします。*この時、クッキーをチェックしてユニークユーザーのクリック数をあわせて確認します。

カウント対象外のIPアドレスをプラグイン設定で指定できます。

ダイナミックテンプレートの先頭に記載する必要があります。

このタグを記載したテンプレートページへのリクエストにはクエリー文字列 campaign_id=[対象キャンペーンのID]を指定してください。

スタティック・パブリッシングでは利用できません。このタグの代わりに効果測定用CGIを利用することも出来ます。MTCampaignScriptの項を参照してください。

MTCampaignMaxClicks

キャンペーンの最大クリック数を出力します。

ダイナミックパブリッシングの場合 MTCampaignRedirect タグが呼び出された時点で MTCampaignMaxClicks が指定されていて且つ MTCampaignClicks の値が指定値を超えていた場合、キャンペーンを終了します。

スタティック・パブリッシングの場合、単に数値を出力します。

MTCampaignMaxUniqClicks

キャンペーンの最大クリック回数(ユニークユーザーベースでの最大クリック回数)を出力します。

ダイナミックパブリッシングの場合 MTCampaignRedirect タグが呼び出された時点で MTCampaignMaxUniqClicks が指定されていて且つ MTCampaignUniqClicks の値が指定値を超えていた場合、キャンペーンを終了します。

スタティック・パブリッシングの場合、単に数値を出力します。

MTCampaignMaxUniqClicks

キャンペーンの表示数を出力します。表示数は MTCampaignCounter タグが処理される時点でカウント・保存されます。

MTCampaignClicks

キャンペーンのクリック数を出力します。クリック数は MTCampaignRedirect タグが処理される時点でカウント・保存されます。

MTCampaignUniqClicks

キャンペーンのクリック数(ユニークユーザーベースでのクリック数)を出力します。クリック数は MTCampaignRedirect タグが処理される時点でカウント・保存されます。

MTCampaignUniqDisplays

キャンペーンの表示回数(ユニークユーザーベースでの表示回数)を出力します。表示数は MTCampaignCounter タグが処理される時点でカウント・保存されます。

MTCampaignUniqClicks

キャンペーンのクリック数(ユニークユーザーベースでのクリック数)を出力します。クリック数は MTCampaignRedirect タグが処理される時点でカウント・保存されます。

MTCampaignMaxDisplays

キャンペーンの最大表示数(管理画面で設定した数値)を出力します。

MTCampaignMaxUniqDisplays

キャンペーンの最大表示回数を出力します(管理画面で設定したユニークユーザーベースでの最大表示回数)。

MTCampaignConversionCounter

(*ダイナミックパブリッシングの場合キャンペーンのコンバージョン数を+1した上で)プラグイン設定で指定したURLにリダイレクトします。

*この時、クッキーをチェックしてキャンペーンを経由したユーザーのコンバージョン数をあわせて確認します。カウント対象外のIPアドレスをプラグイン設定で指定できます。

ダイナミックテンプレートの先頭に記載する必要があります。

このタグを記載したテンプレートページへのリクエストにはクエリー文字列 campaign_id=[対象キャンペーンのID]を指定してください。

具体的には `` のようにイメージタグを指定すると良いでしょう。

スタティック・パブリッシングの場合、単に数値を出力します。

このタグの代わりに効果測定用CGIを利用することも出来ます。MTCampaignScriptの項を参照してください。

MTCampaignConversionView

コンバージョンページの表示数を出力します。このタグによる出力値はキャンペーンの広告を経由していないユーザーの表示数も含む数値になります。

MTCampaignConversion

コンバージョンページへの到達数を出力します。このタグによる出力値はクッキーによってチェックされたキャンペーンの広告を経由したユーザーの表示数のみをカウントします。

MTCampaignScript

環境変数 CampaignScript で設定した値を出力します。デフォルト値は mt-campaign.cgi です。

● mt-campaign.cgiによる効果測定

ダイナミックパブリッシングでの効果測定用タグ MTCampaignCounter, MTCampaignRedirect, MTCampaignConversionCounter の代わりにCGIアプリケーションmt-campaign.cgiを使って効果測定を行うことができます。

各タグの代わりにCGIアプリケーションを利用する時は下記のように __modeパラメタとcampaign_idパラメタを付与します。

```
http://site.example.com/to/mt/mt-campaign.cgi?__mode=counter&campaign_id=1
http://site.example.com/to/mt/mt-campaign.cgi?__mode=redirect&campaign_id=1
http://site.example.com/to/mt/mt-campaign.cgi?__mode=conversion&campaign_id=1
```

テンプレートタグは以下のように記述します。

```
<$MTCGIPath$><$MTCampaignScript$>__mode=counter&campaign_id=<MTCampaignID>
```

● プラグインによる拡張

Campaignプラグインを外部プラグインで拡張することが可能です。Campaignオブジェクト自体はMT::Objectのサブクラスですので、MTのAPIを利用してオブジェクトをロードしたりデータベースのカラムを拡張したりtemplate_param, template_source等のコールバックに対応したプラグインを書くことができます。

● コールバック

コールバックをトリガとして処理を行うプラグインを書くことが可能です。

| コールバック | パラメタ | 解説 |
|------------------------|--------------------------------|--|
| cms_pre_save.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | キャンペーンオブジェクトが保存される直前にコールされます(キャンペーンの作成・編集画面から保存された場合のみ)。返り値が0の場合保存は行われません。 |
| cms_post_save.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | キャンペーンオブジェクトが保存された直後にコールされます(キャンペーンの作成・編集画面から保存された場合のみ)。 |

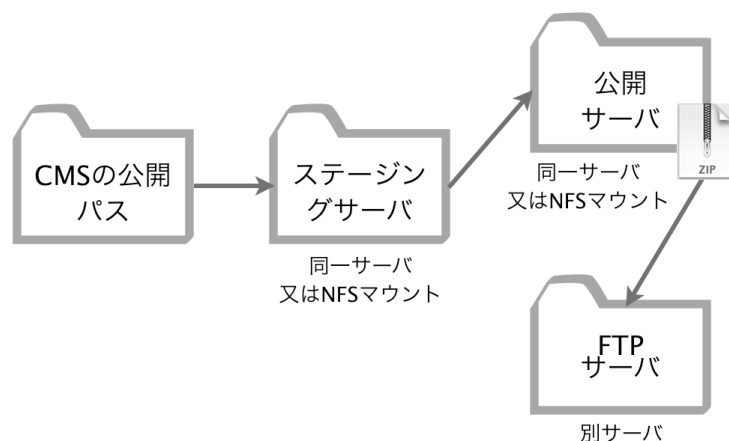
| コールバック | パラメタ | 解説 |
|--------------------------|--------------------------------|--|
| cms_post_delete.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | キャンペーンオブジェクトが削除された直後にコールされます。 |
| post_unpublish.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | 一覧画面から、もしくはタスク実行によってキャンペーンオブジェクトのステータスが「下書き」に変更された直後にコールされます。 |
| post_publish.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | 一覧画面から、もしくはタスク実行によってキャンペーンオブジェクトのステータスが「公開」に変更された直後にコールされます。 |
| post_reserved.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | 一覧画面から、もしくはタスク実行によってキャンペーンオブジェクトのステータスが「日時指定」に変更された直後にコールされます。 |
| post_close.campaign | \$cb, \$app, \$obj, \$original | 一覧画面から、もしくはタスク実行によってキャンペーンオブジェクトのステータスが「終了」に変更された直後にコールされます。 |

Professional 版以上のエディションに含まれるオプションプラグイン

● Copy2Public プラグイン (ステージングサーバー→公開サーバーへのデータの転送)

Movable Type によって生成された静的ファイルをテストサーバー(ステージングサーバー)、公開サーバーへ更新されたファイルをコピーするインターフェイスを提供します。

このプラグインを利用することにより、承認→テストサーバー(ステージングサーバー)でのテスト公開→公開サーバーへの反映、といったワークフローが実現できます。



- ✳このプラグインは、静的生成されたファイルの転送・同期を行うため、コミュニケーション機能(コメント/トラックバック/フォーム機能)や検索機能がそのままでは利用できないことに注意してください。
- ✳このプラグインはデータのコピーや FTP アクセスを伴うため、プラグインのインストール後には必ず設定を行ってください。また、運用の前に十分なテストを行っていただくことをおすすめします。
- ✳テストサーバー、公開サーバーでのリンク切れを防ぐため、Abs2Rel プラグイン(リンクを相対パスに変換)をあわせて有効にしてください。
- ✳コンテンツのファイルは ZIP アーカイブして FTP サーバに転送されるため、転送先サーバで以下が可能である必要があります。
 1. Perl モジュール Archive::Zip がインストールされていること
 2. Perl モジュール Archive::Zip を使ってアーカイブを展開する Perl スクリプトを設置し、実行できること
 3. アーカイブの展開を行い、ファイルの配置を行うスクリプトを cron またはタスクスケジューラによって定期的に実行することができること

●同期する対象ファイルの判別について

同期するファイルについては MT 環境の公開パス以下のファイル、ステージング環境以下のファイル、公開環境以下のファイルそれぞれのファイルのタイムスタンプを比較して行います。同期先に同一のファイルが存在した場合、オリジナル(コピー元)ファイルが新しいもののみ同期が実行されることに注意してください。

何らかのエラーにより同期処理が途中で終了してしまった場合などは、同期先のファイルを一度クリアするか手動で同期を図ってから再度処理を実行してください。

●プラグイン設定

設定は各ブログの「設定」→「プラグイン」→「Copy2Public」の設定で行います。

| 設定項目 | 解説 | 設定例 |
|--------------------|---|--|
| ステージングサーバのルート | ステージングサーバのフルパスを設定します。

パスが指定されていない場合や、指定したパスが環境変数 AllowCopy2PublicStagingRoot の設定値と前方一致しない場合は Copy2Public を実行できません。 | /var/www/stage/ (Movable Typeから書き込み可能である必要があります) |
| 公開パス | 公開サイトのフルパスを設定します(FTP転送を行う場合も一次保存場所として指定してください)。

パスが指定されていない場合や、指定したパスが環境変数 AllowCopy2PublicPublishRoot の設定値と前方一致しない場合は Copy2Public を実行できません。 | /var/www/htdocs/ (Movable Typeから書き込み可能である必要があります) |
| コピー対象外のパス(カンマ区切り) | MTの公開パス以下のファイルでステージ,公開環境に同期対象外としたいファイル/ディレクトリのパスをフルパス(カンマ区切り)で指定します。
前方一致でチェックします。 | /var/www/cms/mt,/var/www/cms/templates_c/var/www/cms/mt/cache/ |
| 対象外の拡張子 | 同期対象外とするファイルの拡張子をカンマ区切りで指定します。 | cgi.php,fcgi,ini,pm |
| 削除対象外のパス(カンマ区切り) | 公開環境/
ステージング環境から削除したくないファイル/
ディレクトリのパスを指定します(フルパス/
前方一致/カンマ区切り)。 | /var/www/htdocs/cgi/,/var/www/htdocs/cms/ |
| FTPサーバー | 公開時にFTP転送する場合にチェックを入れてください。 | |
| FTP設定 | ブログ毎に個別の設定を行わずシステム全体で同じFTPアカウント、サーバーを利用する場合はチェックを入れてください。共通FTPの設定はシステムプラグイン設定で指定します。 | |
| FTPサーバー名 | FTPサーバーのホストまたはIPアドレスを記述します。 | ftp.example.cpm |
| ユーザーID | FTPサーバーへのログインIDを指定します。 | userid |
| パスワード | FTPサーバーへのログインパスワードを指定します。 | password |
| アーカイブ&ログのアップロード先パス | ファイルをアップロードするFTPサーバーのディレクトリを指定します。 | /tmp |
| アップロード先の絶対パス | 「アーカイブ&ログのアップロード先パス」で指定したディレクトリをサーバー上のフルパスで記述します(同じパスである場合も記述してください)。 | /var/www/tmp |
| 公開サーバーのOS | UNIX OS または Windows を指定します。ディレクトリのパス区切り文字の判別に利用されます。 | |
| パッシブ・モード | FTP転送でパッシブ・モード転送を行う場合にチェックします。 | |
| サーバーの公開パス | FTPサーバーに転送したZIPアーカイブの展開先(サーバーの公開パス)をフルパスで記述します。 | /var/www/htdocs/ |

●環境変数の設定

環境変数は mt-config.cgi へ記述して設定を行います。

| 設定項目 | 解説 | 初期値 |
|-----------------------------|---|------|
| AllowCopy2PublicStagingRoot | ステージ同期先に指定可能なパス(前方一致)を指定します。ここに設定しているパスと前方一致しないパスへの同期を行う事はできません。 | /tmp |
| AllowCopy2PublicPublishRoot | 公開同期先に指定可能なパス(前方一致)を指定します。ここに設定しているパスと前方一致しないパスへの同期を行う事はできません。 | /tmp |
| AllowCopy2PublicDirectSync | 1を設定すると同期の際に ID/パスワード を要求しません。 magic_token によるチェックと権限があれば即時に同期を実行します。 | 0 |

●転送の実行について

転送はウェブサイト/ブログ毎に行います。「アクション」メニューから「ステージ同期」または「公開サーバー同期」を選択して実行します。同期の実行にはブログ管理者権限が必要です。

The image shows two screenshots of the Power CMS for MT interface. The top screenshot is titled 'ステージ同期' (Stage Sync) and the bottom one is '公開サーバ同期' (Public Server Sync). Both screens show a list of items to sync, with 'Power CMS for MT' checked. Below the list, there are radio buttons for '今すぐ実行する' (Execute now) and '日時を指定' (Specify date and time). The '日時を指定' option is selected, and a date/time picker is shown with the date '2010-04-10' and time '15:05:39' (top) and '15:06:09' (bottom). A calendar view is also visible, showing the month of April 2010. At the bottom of each screen, there are 'キャンセル' (Cancel) and '次へ' (Next) buttons.

今すぐ同期を実行する場合は「今すぐ実行する」を、日時を指定して同期予約をする場合には「日時を指定」を選択して実行日時を指定します。日時を指定した場合、同期は run-periodic-tasks の実行時に(指定した日時を過ぎて実行される最初のタスク実行で)実行されます。

ブログ(ウェブサイト)公開パス以下のアイテムのリストが表示されますので、同期する対象をチェックします。リンク切れ等を防ぐために通常は全てにチェックを入れてください(すべてにチェックを入れた場合にも同期は常に差分ファイルのみが対象になります)。



✳同期実行の前には再度ログインIDとパスワードを求められます。環境変数 AllowCopy2PublicDirectSync を設定した場合はログインを要求なくなります。

●公開サーバでのファイルの同期について

テンポラリ領域へアップロードした ZIP アーカイブを、公開サーバに設置した Perl スクリプトの実行によって Web ドキュメントルートに反映することが出来ます(Copy2Public/tools/do-synchronize)。

do-synchronize スクリプトはログファイルを確認して Web ドキュメントルートへの反映を行います。

スクリプトの実行は、公開サーバで cron ジョブや Windows タスク・スケジューラを利用してください。

do-synchronize スクリプトでは、FTP 転送されたログを見て反映するファイル・削除するファイルを判断します。ログが転送されるのはすべてのファイルがアップロードされた後ですので、FTP 転送が途中でエラーとなった場合などに意図しない状態でサイトが公開されることを防ぐことができます。

crontab への登録の例(20分おきのタスク実行):

```
0,20,40 * * * * cd /path/to/mt; ./tools/do-synchronize
```

do-synchronize スクリプト設置の際には、テキストエディタ等で以下の項目を設定してください。

| 設定項目 | 解説 | 設定例 |
|-----------------|--|--------------------------|
| 1行目 | サーバのPerlのパスにあわせて適宜変更してください。 | #!/usr/bin/perl -w |
| 5行目(\$upld_dir) | データのアップロードパスを指定します。 | '/var/www/tmp'; |
| 6行目(\$sync_log) | タスク実行をログファイルに保存する場合、ログファイルのパスを記述してください | '/var/www/log/sync.log'; |

●予約された同期タスクの確認

「アクション」メニューから「同期タスクの管理」を選択することで、予約された同期タスクの一覧を表示することができます。タスクを取り消すには対象のタスクを選択して「削除」ボタンをクリックしてください。

movabletype 同期タスクの管理

ブックマーク システムメニュー 新規作成 Junnana ヘルプ サインアウト

Power CMS for MT 表示オプション 新規作成

すべての同期タスク [絞り込み]

削除 1 - 25 / 38

| 同期元 | 種別 | 同期先 | 実行予定日時 |
|---|--------|------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/about_us/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/atom.xml | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/common.js | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/contact/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/home.html | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/index.html | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/mobile/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/mt.js | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/mtview.php | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/privacy_policy/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/search_tracking.js | ファイル | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/service/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |
| <input type="checkbox"/> /Applications/MAMP/htdocs/sitemap/ | ディレクトリ | ステージ | 2010年04月12日 16:13:47 |

🔑 Enterprise エディションに含まれるプラグイン

👤 既存 HTML からのインポート

既存の HTML や XML 等のファイルから、Movable Type のウェブページ(ブログ記事)へインポートすることができるため、サイトリニューアル等の際、過去のコンテンツ資産を有効に再利用できます。

● インポートの準備

ブログのサイト・パス以下の任意の場所に、取込み対象のファイル(HTML 等)をあらかじめ設置しておきます。HTML 内で利用されている画像等をあわせて設置しておくことでインポートと同時にアイテムとして登録することができます。

● インポートの設定

各ブログの「アクション」メニューから「インポート」を選択し、インポート元「既存の HTML ページ」を選択します。

他のMovable Typeやブログツールからブログ記事を移行したり、ブログ記事のコピーを作成します。

インポート先 会員サイト (8)

インポート元 既存のHTMLページ

エントリー パーマリンクが同一のページを上書きする
 ブログ記事としてインポート ウェブページとしてインポート

インポート対象のファイル拡張子(カンマ区切り)
html

インポート・ルート
/www/sites/alfasadonet/htdocs/import

インポート対象外のパス(前方一致)

抽出開始,終了文字のセパレータ
,

タイトル 正規表現
<title.*?>(.*)</title>

本文 正規表現
<div\sclass="asset\-body">(.*?)</div>

追記 正規表現

概要 正規表現
<meta\s?*name="description"\s?*content="(.*?)".*?>

キーワード 正規表現
<meta\s?*name="keywords"\s?*content="(.*?)".*?>

カテゴリ フォルダ(カテゴリ)を作成する
 エントリーをすべての親フォルダ(カテゴリ)に属するようにする

設定 設定を保存する

インポートしたブログ記事の所有者 自分のブログ記事としてインポートする
 ブログ記事の著者を変更しない

インポートファイルをアップロード(オプション)

テキストフォーマット なし

インポートするファイルの文字コード Auto-detect

ブログ記事の既定カテゴリ(オプション) カテゴリを選択

設定項目	解説	設定例
パーマリンクが同一のページを上書きする	インポート元ファイルのURLが既存のウェブページ(ブログ記事)のパーマリンクと同じ場合、そのエントリを上書きするかたちでインポートします。このチェックを入れることで、インポートのリトライを繰り返すことが可能になります(あわせて「フォルダ(カテゴリ)を作成する」を指定する必要があります)。 ウェブページとして取込む場合、ウェブページのアーカイブマッピングの設定を以下のように設定してください。 <mt:folderPath>/<mt:pagebasename>.html	
ウェブページ(ブログ記事)としてインポート	デフォルトではウェブページとしてインポートを行います。	
インポート対象のファイル拡張子(カンマ区切り)	インポート対象のファイルの拡張子を指定します。カンマ区切りで複数の種類のファイルを指定することもできます。	html,php
インポート・ルート	インポート対象のファイルが設置しているルート・パスをサーバー上のフルパスで指定します。	/var/httpd/html/ import_root/
インポート対象外のパス(前方一致)	インポート対象外のパスを指定します。カンマ区切りで複数指定も可能です。	/var/httpd/html/ import_root/cgi-bin
抽出開始,終了文字のセパレータ	開始文字と終了文字を指定してフィールド値の抽出を行う場合に、開始文字と終了文字の区切り文字を指定します。例えば「,」(カンマ)を指定して、タイトルを<title>,</title>と指定した場合、HTMLのタイトル要素をエントリのタイトルとしてインポートします。	,
各フィールド(タイトル, 本文, 追記, 概要, キーワード)	エントリの各フィールドの抽出条件を指定します。正規表現にチェックが入っている場合は正規表現、チェックのない場合は「抽出開始,終了文字のセパレータ」として指定した区切り文字の前後のテキストの間の文字列を該当するフィールドにインポートします。	<div\class="asset-body">(.*)</div>
フォルダ(カテゴリ)を作成する	インポート時にフォルダ(カテゴリ)を<mt:folderPath>/<mt:pagebasename>.html となるように自動生成します(ウェブページとして取り込む場合)。ブログ記事としてインポートする場合はカテゴリが階層化されて作成されます。	
エントリをすべての親フォルダ(カテゴリ)に属するようにする	フォルダ(カテゴリ)を作成する際に、インポートによって作成されたエントリはすべてのフォルダ(カテゴリ)に属することになります。この場合、最下層のフォルダ(カテゴリ)がプライマリフォルダ(カテゴリ)になります。	
設定を保存する	インポート設定を保存します。「パーマリンクが同一のページを上書きする」にあわせてチェックを入れることで、リトライを繰り返すことができます。	
インポートしたブログ記事の所有者	この設定に意味はありません。すべてインポートしたユーザーが所有者となります。	
インポートファイルをアップロード (オプション)	サーバー上のファイルのフルパスが1ファイル1行に記述されたファイルをアップロードすれば、リストのファイルのみを対象としたインポートを行います。	

● アイテムの同時取り込み

エントリのインポートと同時にページに含まれる画像等を同時に「アイテム」として取り込むことができます。

アイテムへの登録は SidebarImage プラグインが行います。

インポートするブログのプラグイン設定の SidebarImage の設定で、「アイテムのパスを絶対パスに変換(常に変換)」
「絶対パス変換時にアイテムへ登録する」の2つにチェックが入っている必要があります。

● プラグインによる拡張

エントリのインポート直後に発行されるコールバックに呼応して動作する外部プラグインを作成することで、カスタムフィールドへのデータ投入等を同時に行うことができます。

コールバック	パラメタ	解説
cms_post_save.category cms_post_save.folder	\$cb, \$app, \$obj, \$original	インポート時にフォルダ、カテゴリが保存された直後に実行されます。このコールバックは、cms_post_save.page(entry)よりも前に実行されます。
cms_post_save.page cms_post_save.entry	\$cb, \$app, \$obj, \$original	ウェブページ、ブログ記事が保存された直後に実行されます。
cms_post_import.entry cms_post_import.page	\$cb, \$app, \$entry, \$path, \$data	\$entryにはインポート時に作成されたエントリ、\$pathにはインポート元のファイルのフルパス、\$dataにはインポートファイルのデータが丸ごと格納されて渡されます。このコールバックは、cms_post_save.page(entry)の直後に実行されます。

以下の例は HTML から本文を抽出する Perl モジュール HTML::ExtractContent を利用してウェブページの本文に抽出したテキストをインポートするサンプルです。

プラグインの例:

```
package MT::Plugin::ExtractContent;
use strict;
use MT;
use MT::Plugin;

use base qw( MT::Plugin );

@MT::Plugin::ExtractContent::ISA = qw( MT::Plugin );

my $plugin = new MT::Plugin::ExtractContent ( {
    name => 'ExtractContent',
} );

MT->add_plugin( $plugin );

sub init_registry {
    my $plugin = shift;
    $plugin->registry ( {
        callbacks => {
            'cms_post_import.page'
                => \&_cms_post_import,
        },
    } );
}

sub _cms_post_import {
    my ( $cb, $app, $entry, $path, $data ) = @_;
    require HTML::ExtractContent;
    my $extractor = HTML::ExtractContent->new;
    $extractor->extract( $data );
    my $text = $extractor->as_html;
    $entry->text( $text );
    $entry->save or die $entry->errstr;
}

1;

# HTML::ExtractContent - search.cpan.org
# http://search.cpan.org/dist/HTML-ExtractContent/
```

📍 リモートバックアップ(BackupConfig プラグイン)

定期的にデータベースのダンプとドキュメントルート以下のファイルバックアップを同時に行い、Movable Type の完全なバックアップを実現します。バックアップしたデータを FTP で転送することも可能です。

📍 バックアップの実行

バックアップは /path/to/mt/tools ディレクトリのスクリプト run-backup-sql-and-docs を実行することで実行されます。

例) 午前 4 時にバックアップを実行する場合の cron ジョブの設定

```
0 4 * * * cd /path/to/mt; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

📍 リモートバックアップ機能に関する注意事項

1. DB に Oracle を使っている場合、BackupConfig は、DB サーバーと Power CMS が動作しているサーバーが同一でなければ動作しません。
2. DB に MySQL を使っている場合、BackupConfig が動作するには、Power CMS が動作しているサーバーに mysqldump コマンドがインストールされている必要があります。
3. Power CMS for MT ver. 2.0 では以下のデータベース環境については動作保証されません。今後のバージョンで対応予定です。

```
Oracle 11g Windows  
Oracle 11g Linux  
SQL Server 2008
```

🕒 バックアップ設定

バックアップの設定については RDBMS によって異なります。設定はシステムプラグイン設定の「Backup Configuration」プラグインの設定から行います。

Backup Configuration 1.0 🟢 利用可能

SQL SQLデータベースのダンプをバックアップする

ドキュメント ドキュメント・ルート以下をバックアップする

ZIP圧縮 SQLファイルをZIP圧縮する

mysqldump(pg_dump | exp | sqlcmd)コマンドのパス

SQLオプション

SQLファイルのバックアップ先

ドキュメントバックアップ対象(カンマ区切り)

ドキュメントルートのバックアップ先

差分バックアップ 差分バックアップ

バックアップ除外パス カンマ区切り (正規表現)

FTP転送 バックアップデータをFTP転送する

最終バックアップ(Unix time)

● バックアップに関する設定内容

設定項目	解説
SQLデータベースのダンプをバックアップする	データベースのダンプデータをバックアップします。 データベースがSQLiteの場合、ダンプデータではなくデータベースファイルそのものをバックアップします。
ドキュメント・ルート以下をバックアップする	ドキュメント・ルート以下のファイルをzip圧縮してバックアップします(PerlモジュールArchive::Zipが必要です)。
SQLファイルをZIP圧縮する	SQLのダンプファイルをzip圧縮してバックアップします(PerlモジュールArchive::Zipが必要です)。
mysqldump(pg_dump exp sqlcmd)コマンドのパス	MySQLの場合 mysqldumpコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/mysqldump PostgreSQLの場合 pg_dumpコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/pg_dump Microsoft SQL Serverの場合 SQLCMDコマンドのパスをフルパスで記述します。例) C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Tools\Binn\SQLCMD.EXE Oracleの場合 expコマンドのパスをフルパスで記述します。例) /usr/bin/exp ※SQLiteの場合は指定の必要はありません。
SQLオプション	各コマンドに対する必要なコマンドオプションを記述します。尚、ユーザー名やパスワードについてはmt-config.cgiから値を取得しますので記載の必要はありません。各コマンドのコマンドのオプションについては各データベースのドキュメントを参照してください。 MySQLの場合 例) --first-slave --compact --add-drop-table ※データベース内のテーブルを全てロック、コメントを抑制、DROP TABLEステートメントをCREATE TABLEステートメントの前に追加
SQLファイルのバックアップ先	バックアップファイルの保存先をフルパスで記述します。同名のファイルが既に存在した場合は上書きされます。パスの指定にはMTタグが使用できます。 例えば、 /tmp/<mt:date format="%Y%m%d%H%M%S">.sql と指定した場合、/tmp/20090219000000.sql のようにバックアップ時刻をファイル名に含めることが出来ます。また、 /tmp/<mt:date format="%a">.sql のように、曜日指定することで、/tmp/Mon.sql のように曜日毎にバックアップファイルが作成されるため、1日1回実行することで一週間分のローテーションでバックアップが可能です。
ドキュメントバックアップ対象(カンマ区切り)	バックアップするドキュメントのルート・パスをフルパスで記述します。複数指定する場合はカンマで区切ります。
ドキュメントルートのバックアップ先	ドキュメントルート以下のファイルをZip圧縮したアーカイブの保存場所を指定します。MTタグが利用できます。例) /tmp/<mt:date format="%Y%m%d%H%M%S">.zip
差分バックアップ	チェックを入れると前回バックアップ実行時以降に更新されたファイルのみを対象にバックアップを行います(ファイルのタイムスタンプで判断します)。
バックアップ除外パス	バックアップ除外するファイル、フォルダのパスに含まれる文字列を正規表現で指定します。例えば「\。」と指定すると、「.(ドット)」で始まるファイルを除外します。

各データベースに関する特記事項

● PostgreSQLの場合

PostgreSQL では、バックアップを実行するユーザーのホームディレクトリに .pgpass ファイルを作成する必要があります。 .pgpass ファイルを作成するにはバックアップを実行するユーザーとしてログイン後以下のコマンドを実行します。

```
# vi ~/.pgpass
```

.pgpass ファイル内に以下のように記述します。

```
*:*:*:DB名:パスワード
```

vi を終了後、.pgpass ファイルのパーミッションを変更します。

```
chmod 600 ~/.pgpass
```

設定後、バックアップスクリプトを実行して、バックアップが正常に実行されることを確認してください。

```
cd /path/to/mt; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

● Microsoft SQL Server 2005の場合

SQL Server でリモートバックアップを利用する場合は、ActiveState 社の ActivePerl を利用する必要があります。

Windows Server に、バックアップを実行するユーザーを作成します。このユーザーは、SQLServer2005MSSQLUser \$<コンピューター名>\$MSSQLSERVER グループに属するようにします。Userグループに属している必要はありません。

次に、[SQLファイルのバックアップ先]として指定するディレクトリで、フォルダのプロパティを表示し、セキュリティタブを選択します。ここで、SQLServer2005MSSQLUser\$<コンピューター名>\$MSSQLSERVER グループに対して変更権限を設定します。

その後、Windows Serverのタスクを作成します。以下の点に注意が必要です。

設定項目	解説
実行するファイル名	「<perl.exeへのパス> tools\run-backup-sql-and-docs」と指定します。 例) C:\Perl\bin\perl.exe tools\run-backup-sql-and-docs
開始	Movable Typeがインストールされているパスを指定します。 例) "C:\Program Files\Movable Type Enterprise\"
実行するアカウント名	バックアップ用に作成したアカウントを指定します。パスワードの入力が必要です。

● Oracle Database 10g for Linux の場合

バックアップにはexpコマンドを利用します。run-backup-sql-and-docs コマンドを実行するcronジョブにおいて、データベースのキャラクタセット指定に合わせてNLS_LANG環境変数をエクスポートします。データベースのキャラクタセットと環境変数が異なる場合、バックアップデータが文字化けすることがあります。

例) 午前 4 時にバックアップを実行する場合の cron ジョブの設定例(/path/to/mt は、MT をインストールしたディレクトリです)

```
0 4 * * * export NLS_LANG=JAPANESE_JAPAN.AL32UTF8; cd /path/to/mt; ./tools/run-backup-sql-and-docs
```

詳細については『Oracle Database ユーティリティ 10g リリース2』および『Oracle Database グローバリゼーション・サポート・ガイド 10g リリース2』を参照してください。

● Oracle Database 10g for Microsoft Windows の場合

バックアップには exp コマンドを利用します。バックアップを実行する前に、データベースのキャラクタセット指定に合わせてNLS_LANG環境変数(JAPANESE_JAPAN.AL32UTF8 など)をシステム環境変数として設定してください。データベースのキャラクタセットと環境変数が異なる場合、バックアップデータが文字化けすることがあります。

Windows Serverに、バックアップを実行するユーザーを作成します。このユーザーは、Backup Operators グループに属するようにします。User グループに属している必要はありません。

次に、[SQLファイルのバックアップ先]として指定するディレクトリで、フォルダのプロパティを表示し、セキュリティタブを選択します。ここで、Backup Operators グループに対して変更権限を設定します。

その後、Windows Serverのタスクを作成します。注意すべき点については、「Microsoft SQL Server 2005の場合」と同じ設定値を指定します。

詳細については『Oracle Database ユーティリティ 10g リリース2』および『Oracle Database グローバリゼーション・サポート・ガイド 10g リリース2』を参照してください。

● FTPに関する設定

設定項目	解説	設定例
バックアップデータをFTP転送する	バックアップ後、バックアップデータをFTPプロトコルを使用して転送します。同名のファイルが転送先に存在した場合、上書きします。	
FTP転送が成功したらバックアップファイルを削除する	FTPによる転送が成功後、ディスク上に生成されたバックアップデータを削除します。バックアップデータはFTP転送されたサーバに保存されます。	
FTPサーバー名	FTPアクセスのためのサーバー名又はIPアドレスを指定します。	192.168.11.19
ディレクトリ(CWD)	転送先ディレクトリを指定します。	/backup
ユーザーID	FTPアクセスのためのユーザーアカウント(ID)を指定します。	username
パスワード	FTPアクセスのためのパスワードを指定します。	password

● その他の設定

設定項目	解説
最終バックアップ(UNIX time)	差分バックアップのために最終バックアップタイムスタンプが自動的に設定されます。最終バックアップ時刻をクリアして、再度フルバックアップを作成する場合は値を空にして設定を保存してください。通常は設定する必要はありません。

●エンタープライズ検索

Power CMS には PHP+SQL の高速検索が標準で付属していますが、別途インデックス型の検索エンジン Hyper Estraier を利用したインデックス型検索をサポートします。

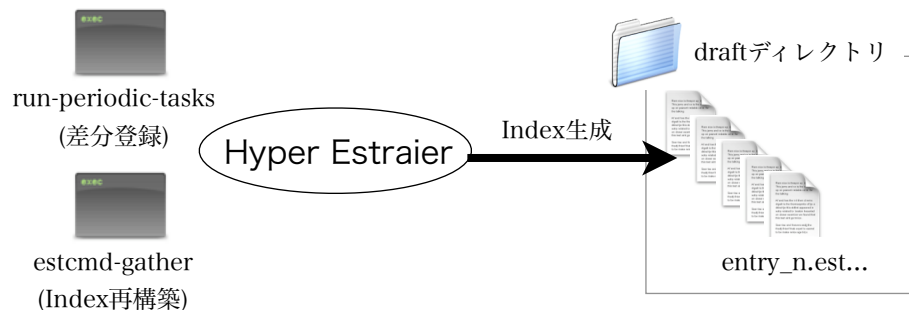
Power CMS では、Hyper Estraier の検索インデックスをタスクで実行するプログラム及び検索結果を出力するための Movable Type テンプレート・タグを提供します。

※全文検索にはサーバーにHyper Estraier 及び Perlモジュール Estraier が必要です。

全文検索システム Hyper Estraier (<http://hyperestraier.sourceforge.net/index.ja.html>)

●検索インデックスの作成

Movable Type によって生成されるブログ記事／ウェブページは、Power CMS のテンプレートによって文書ドラフト (Hyper Estraier の独自のファイル形式) に変換されます。各種設定(mt-config.cgi 及びPowerSearchプラグインの設定を適切に行った後、/path/to/mt/tools/estcmd-gather スクリプトを実行することで検索用インデックスが生成されます。



PDF や MS Excel 等のファイルのインデックスは、ブログのサイトパス以下に配置されたすべてのファイルを対象にインデックス作成を行います(ブログ毎のプラグイン設定で除外パスを指定することも可能です)。

●検索インデックスの自動更新

例1) 午前 4 時に検索インデックスをすべてクリアして新規にインデックスを作成する場合の cron ジョブの設定例

```
0 4 * * * cd /path/to/mt/; tools/estcmd-gather
```

例2) 20分おきに検索インデックスに差分登録する場合の cron ジョブの設定例

```
0,20,40 * * * * cd /path/to/mt/; tools/run-periodic-tasks
```

●エンタープライズ検索関連のテンプレート

Power CMS テンプレートセットをインストールすると以下のテンプレートが同時にインストールされます。

種別	名前	アーカイブパス	解説
アーカイブ	ブログ記事ドラフト	draft/entry_<MTEntryId>.est	文書ドラフト(Hyper Estraier 独自のデータ形式)でブログ記事を出力します。
アーカイブ	ウェブページドラフト	draft/entry_<MTPageId>.est	文書ドラフト(Hyper Estraier 独自のデータ形式)でウェブページを出力します。
システム	Hyper Estraier 検索結果	-	検索結果(mt-estraier.cgi)のテンプレートです。 ※手動でテンプレートを作成する場合、identifierが「estraier_result」である必要があります。

●文書ドラフトテンプレート

検索に含めるテキストの範囲を変更するには(拡張フィールドやカスタムフィールドを含める場合)、ブログ記事ドラフト及びウェブページドラフトテンプレートを修正します。

カスタムフィールドや拡張フィールドの値を検索対象に含める場合、MTEntryKeywordsタグの後に値が出力されるようにテンプレートを調整します。モディファイア is_draft を追加することで、データ中の HTML タグを削除します(画像の ALT 属性は展開されます)。

標準のブログ記事ドラフトテンプレート:

```
@uri=<$MTEnterPermalink$>
@title=<$MTEnterTitle is_draft="1"$>
@cdate=<$MTEnterDate format="%Y-%m-%dT%H:%M:%S"$><$MTBlogTimezone$>
@mdate=<$MTEnterModifiedDate format="%Y-%m-%dT%H:%M:%S"$><$MTBlogTimezone$>
@blog_id=<$MTBlogID$>
@suffix=html
<mt:if tag="EntryCategory">parent=<$MTEnterCategory is_draft=1$>
parentUrl=<$MTEnterLink archive_type="Category"$></mt:if>

<$MTEnterTitle is_draft="1"$>
<$MTEnterBody is_draft="1"$>
<$MTEnterMore is_draft="1"$>
<$MTEnterKeywords is_draft="1"$>
```

文書ドラフトの出力例:

```
@uri=http://aquarius.alfasado.net/contact/
@title=お問い合わせ

@cdate=2009-02-06T18:24:07+09:00
@mdate=2009-02-10T19:52:38+09:00
@blog_id=1
@suffix=html
parent=Power CMS
parentUrl=http://aquarius.alfasado.net/
```

お問い合わせ

以下の文章はサンプルです。内容を適切に書き換えてください。お問い合わせはメールで: email (at) domainname.comコンテンツを編集

文書ドラフトについてはHyper Estraierのドキュメントを参照してください。

User's Guide of Hyper Estraier Version 1 (Japanese) <http://hyperestraier.sourceforge.net/uguide-ja.html>

(以下、ドキュメントより抜粋)

文書ドラフトは以下の仕様を満たす必要があります。

- ・ 正常な UTF-8 エンコードのテキストから構成されます。
- ・ 改行形式は UNIX 形式 (LF) か MS-DOS 形式 (CR+LF) のどちらかです。
- ・ 属性部とテキスト部からなり、両者は最初に出現した空行で区切られます。
- ・ 属性部において、各行は属性の指定として扱われます。属性名と値は最初に出現した「=」で区切られます。
- ・ テキスト部において、各行は本文の文字列として扱われます。行頭がタブ文字で始まっている場合、その行は隠しテキストとして扱われます。

●検索の実行とテンプレート

インデックスの生成が完了したら、以下の URL より検索を実行します。

```
http://example.com/mt/mt-estraier.cgi?blog_id=*
```

検索フォームおよび検索結果の表示に使われるテンプレートは、パラメータ `blog_id` で指定したブログのシステムテンプレート「Hyper Estraier 検索結果」が使用されます。パラメータ `blog_id` を省略した場合、全てのブログの中からソースコード内で一番最初にロードされたブログのシステムテンプレート「Hyper Estraier 検索結果」が使用されます。この場合、該当のブログは ID が一番若いものになることが多いでしょう。

●環境変数の設定

mt-config.cgiに、以下の環境設定を記述します。

設定項目	解説	設定例
EstCmdPath	Hyper Estraierのコマンド「estcmd」のパスを記述します。	/usr/local/bin/estcmd
EstFilterPath	PDFやMS Office文書のインデックスを作成する外部コマンドのフィルタのパスを記述します。	/usr/local/share/hyperestraier/filter
EstCmdIndex	検索用のインデックスを作成するパスを記述します。	/var/www/estindex/casket
EstraierScript	検索CGIスクリプトの名前を記述します(省略可)。デフォルト値はmt-estraier.cgiです。	search.cgi

記述例:

```
EstcmdPath /usr/local/bin/estcmd
EstFilterPath /usr/local/share/hyperestraier/filter
EstcmdIndex /var/www/estindex/casket
EstraierScript mt-estraier.fcgi
```

●プラグインの設定

システムプラグイン設定及び各ブログの PowerSearch プラグイン設定で指定する設定項目は以下の通りです。同一の設定項目については、各ブログの設定値が優先されます。

システムプラグイン設定

設定項目	解説	設定例
文書ドラフトのディレクトリ	文書ドラフトテンプレート(ブログ記事ドラフト/ウェブページドラフト)の出力先ディレクトリを指定します。	draft
デフォルト言語	検索に利用するデフォルトの言語を指定します。	ja
HTML以外の検索対象	PDFやMS Office文書等、HTML以外のインデックス作成対象文書の拡張子をカンマ区切りで指定します。	xls,doc,ppt,pdf
インデックスアップデート	チェックを入れると、エントリの作成・更新時やアイテムのアップロード時にインデックスへの登録やアップデートを行います(インデックスへ反映されるのは、タスクrun-periodic-tasksの実行時)。	
デフォルトのページ送り件数	1ページあたりに表示される検索結果の件数を指定します。	20

ブログプラグイン設定(システムプラグイン設定を上書きします)

設定項目	解説	設定例
文書ドラフトのディレクトリ	文書ドラフトテンプレート(ブログ記事ドラフト/ウェブページドラフト)の出力先ディレクトリを指定します。	draft
デフォルト言語	検索に利用するデフォルトの言語を指定します。	ja

設定項目	解説	設定例
HTML以外でインデックス対象から除外したいパス(カンマ区切り)	HTML以外のファイルを検索対象に含める場合、検索対象外としたいディレクトリのパス(前方一致、カンマ区切り)を指定します。	

※PowerSearchプラグインで利用出来るタグ

●ブロックタグ

MTEstraierMeta

検索結果に関する検索キーワードや絞込みの条件を出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__query__$">(検索キーワード)
<$mt:var name="__limit__$">(表示件数)
<$mt:var name="__offset__$">(表示件数オフセット)
```

MTEstraierTarget

MTEstraierMeta タグの中で使用します。検索対象にしたブログのIDをループで出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__target__$">(検索対象にしたブログID)
```

MTEstraierSuffix

MTEstraierMeta タグの中で使用します。検索対象にしたファイルの拡張子をループで出力します。
このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__suffix__$">(検索対象にしたファイルの拡張子)
```

MTEstraierResults

検索結果をループ出力します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

```
<$mt:var name="__start__$">(現在表示している検索結果の開始番号)
<$mt:var name="__last__$">(現在表示している検索結果の最後の番号)
```

MTEstraierBlock

モディファイア query で渡した検索語にマッチする検索結果をループ出力します。その他の指定は MTEstraierResults タグと同様です。

MTEstResultHeader

MTEstraierResults の最初のループ実行時に真を返します。

MTEstResultFooter

MTEstraierResults の最後のループ実行時に真を返します。

MTIfEstResultMatch

MTEstraierResults タグの中で使用します。検索条件にマッチする場合、真を返します。

MTEstResultPager

検索結果のページ送りをループで出力します。

このタグの中では以下の変数がセットされています。

<mt:var name="__current__"> (現在表示している検索結果のページと、ループのページ番号がマッチする場合に1)

<mt:var name="__counter__"> (ループのページ番号)

例:

```
<MTEstResultPager>
<MTEstResultPagerHeader>
  <p>
    <MTIfEstResultPrev>
      <a href="<$mt:var name="search_params"$><mt:var name="__prevoffset__">">前へ</a>
    </MTIfEstResultPrev>
  </MTEstResultPagerHeader>
  <mt:if name="__current__"><strong>[<mt:var name="__counter__">]</strong>
  <mt:else><a href="<$mt:var name="search_params"$><mt:var
name="__offset__">">[<mt:var name="__counter__">]</a></mt:else></mt:if>
  <MTEstResultPagerFooter>
    <MTIfEstResultNext><a href="<$mt:var name="search_params"$><mt:var
name="__nextoffset__">">次へ</a></MTIfEstResultNext>
  </p>
</MTEstResultPagerFooter>
</MTEstResultPager>
```

MTEstResultPagerHeader

MTEstResultPager の最初のループ実行時に真を返します。

MTEstResultPagerFooter

MTEstResultPager の最後のループ実行時に真を返します。

MTIfEstResultPrev

MTEstResultPager ループの中で使用します。ページ送りの際にひとつ前の検索結果ページが存在する場合に真を返します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

<mt:var name="__prevoffset__"> (前のページのオフセットの値)

MTIfEstResultNext

MTEstResultPager ループの中で使用します。ページ送りの際にひとつ次の検索結果ページが存在する場合に真を返します。このタグの中では以下の変数がセットされています。

<mt:var name="__nextoffset__"> (次のページのオフセットの値)

MTEstResultEntryCtx

MTEstResultsループの中で使用します。検索にマッチしたMTのエントリの情報を取得する時にこのブロックタグを指定します。ブロックタグ内でEntry関係のタグが利用できます。

MTEstResultBlogCtx

MTEstResultsループの中で使用します。検索にマッチしたMTのエントリが属するブログの情報を取得する時にこのブロックタグを指定します。ブロックタグ内でBlog関係のタグが利用できます。

● ファンクションタグ

MTEstraierScript

検索結果テンプレートの出力ファイル名を出力します。

MTEstResultCount

MTEstraierResults タグの中で使用します。検索でヒットした件数を出力します。

MTEstResultURL

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）のURLを出力します。

MTEstResultTitle

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）のタイトルを出力します。

MTEstResultExcerpt

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）の概要を出力します。

MTEstResultDate

MTEstraierResults タグの中で使用します。ヒットしたページ（ファイル）の日付を出力します。

MTEstCmdPath

Hyper Estraierのコマンド(EstCmd)のパスを出力します。

MTEstDbPath

検索対象のデータベースのパスを出力します。

● モディファイア

highlight

検索結果表示文字列中の検索語をハイライト(strong タグでマークアップ)します。

hilight

highlight と同じ動作をします。

is_draft

文書ドラフトテンプレートの中で、HTML タグを削除するために指定します。

- ※ Hyper Estraier がサーバにインストールされており、Perl モジュール Estraier.pm が合わせてインストールされている必要があります。
- ※ 検索画面を表示する mt-estraier.cgi はデータベースと同じサーバに設置されている必要があります。

● Windows Server 2008 でのエンタープライズ検索のセットアップ

Windows Server 2008 でエンタープライズ検索を利用する場合には、Power CMS に同梱の Hyper Estraier のセットアップと Perl モジュール(PPM パッケージ)のインストールが必要です。

● Hyper Estraier のセットアップ

Power CMSに同梱の hyperestraier-1.4.12.zip を伸長(解凍)し、適切なディレクトリ(例 : C:\hyperestraier) に配備します。次に、システム環境変数PATHに、このディレクトリへのパスを追加します。

☀ Windows Server 2008 でエンタープライズ検索を利用する場合には、必ず Power CMS に同梱の Hyper Estraier をご利用下さい。公式配布版など、その他の Hyper Estraier では、エンタープライズ検索をご利用いただけません。

● Perl モジュール(PPM パッケージ)のインストール

Power CMSに同梱の Estraier-1.5.zip を一時的なディレクトリに伸長(解凍)します。次に、コマンドプロンプトを開き、Estraier.ppd のあるディレクトリに移動します。

次のコマンドを入力します。

```
ppm install Estraier.ppd
```

以上で、エンタープライズ検索が利用可能な環境が整いました。

Enterprise エディションに含まれるオプションプラグイン

ZipUploader プラグイン (アイテムの一括登録)

ZIPファイルとCSVによりアイテムを一括登録します。

● CSV の作成と Zip ファイルからのアイテム一括登録



ブログ/ウェブサイトのメニュー「アイテム」の「新規」を選択してアップロード画面に遷移します。アップロードするファイルを選択します。ZIP ファイルを選択した場合「アップロード後にZIPファイルを展開する」チェックボックスにチェックを入れます。「アイテムリスト(CSV)を選択」ボタンが表示されますので下記の書式で作成した CSV ファイルを選択して「アップロード」ボタンをクリックしてください(CSVを添付しなくてもアイテムは登録されます)。

パス	名前	説明	タグ
zipfiledir/directory/file1.gif	アップロード画面のキャプチャ	ZIPファイルとCSVファイルからアイテムを一括登録する画面のキャプチャ	Movable Type,Power CMS for MT,スクリーンショット
zipfiledir/directory/file2.gif	アップロード画面のサムネイル	ZIPファイルとCSVファイルからアイテムを一括登録する画面キャプチャのサムネイル	Movable Type,Power CMS for MT,サムネイル

※ zipfiledir ディレクトリを ZIP アーカイブにする時の CSV 記述例です。1行目(項目名)は必要ありません。

※同一のユーザー名が存在する場合は名前をユニークなものに変更して登録を行います。既存アイテムの上書きはされません。

👤 こんな時は

このセクションでは、特定の場合に発生する事象と、その回避方法について解説します。

🗨️ Movable Type のログにエラーが残る場合

特定の場合に、EntryPrepublish プラグイン、TemplateSelector プラグイン、ExtFields プラグインなど、ユーザ権限により表示の分岐が行われているプラグインが、Movable Type のログにエラーを吐くことがあります。以下はエラーの例です。

```
EntryPrepublishでエラーが発生しました: Can't call method "can_publish_post" on an unde-
fined value at /home/powercms/public_html/mte/plugins/PowerCMS/EntryPrepublish.pl
line 608.
```

```
TemplateSelectorでエラーが発生しました: Can't call method "can_edit_templates" on an
undefined value at
/home/powercms/public_html/mte/plugins/PowerCMS/TemplateSelector.pl line 1035.
```

このエラーは、システム管理者権限を持つユーザに、任意の権限を与えた場合等に吐かれるようになります(システム管理者は全ての権限を持っているので、本来であれば任意の権限を与える必要がありませんが、Movable Type 管理画面上は権限を与える操作を行うことができます)。

このエラーが発生した場合は、該当のユーザに、各ブログに対するブログ管理者権限を設定するか、ブログ管理者権限を与えることが出来ない場合は、適切な権限を与え直すことで、エラーが発生しなくなります。

🔒 ソフトウェア利用許諾書

本ソフトウェア (Power CMS for MT ver 2.0) は、アルファサード株式会社 (以下「アルファサード」という) が著作権等の知的財産権その他一切の権利を保有しています。この利用許諾契約は、本ソフトウェアに関してお客さまとアルファサードとの間で締結される契約です。アルファサードは、本ソフトウェアをサーバーにインストールしたことをもって、利用者が本契約のすべての条項を承諾したものとみなします。

1. 利用許諾

お客様は次の範囲内で本ソフトウェアをご利用いただくことができます。

- (1) 本ソフトウェアを Movable Type がインストールされたサーバー(*1)にインストールして、ライセンスによって定められたユーザー数で利用(*2)すること。

*1 Standardエディション及びProfessionalエディションにおいてはMovable Type がインストールされた1台のコンピューター、又は Movable Type がインストールされた1台のコンピューター及びウェブページの公開用に使用する1台以下のコンピューター及びデータベース・サーバー用に使用する2台以下のコンピューターから成る1つのコンピューター群を意味します。Enterpriseエディションにおいてはインストールするサーバー数に制限はありません。

*2 「ユーザー」とは、本ソフトウェアがインストールされている Movable Type の「ブログ投稿者の追加/編集」機能をもって Movable Type により生み出される独自のログイン名を持ち、且つ90日以内にログインした個人を意味します。尚、ユーザー数には Movable Type において「ブログ記事の投稿」権限を持ったユーザーを指します (コメント投稿のみを許可されたユーザーは含まれません)。尚、Enterpriseエディションを除き登録できるユーザーはライセンス利用権を持つ法人または団体に所属する人に限られます。

Enterpriseエディションでは、親会社、子会社での共同利用、関連会社との共同利用、フランチャイズチェーンでの利用、複数の企業が参加する団体や協会での利用が可能です。

ただし、他社へのブログ・CMSサービスの提供やホスティング事業での利用はできません。

2. サポート

お客様 (*1) は製品のサポート有効期限内であればウェブサイトよりサポートを受けることができます。サポートの対象範囲、サポートの利用方法についてはウェブサイトに記載するものとします。

*1 代理店ライセンスの場合、エンドユーザーに対する一次サポートは代理店様が行うものとします。代理店ライセンスでは、アルファサードは代理店様に対してサポートを提供することとし、エンドユーザーに対する直接のサポートは行いません。

3. 禁止事項

お客様は次の各号に定める利用をすることはできません。

- (1) 本ソフトウェアを第三者に配布すること。
- (2) WWW、FTP、LAN等により、本ソフトウェアを特定、不特定に関わらず第三者にネットワーク配信もしくは記録媒体複製により頒布・販売すること。
- (3) 本ソフトウェアを改変修正その他変更する等本ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権を侵害すること。

4. 不保証および免責

- (1) アルファサードは、明示または黙示を問わず、本ソフトウェアの完全性、正確性、有用性、特定目的への適合性、第三者の権利非侵害、及びその他一切の保証を第5条にて記載しているものを除いては行いません。
- (2) お客様による本ソフトウェアのインストール、利用、利用不能および第三者への配布等から生じる一切の損害 (使用機器およびプログラム設定の破損、逸失利益、事業の中断、情報の喪失またはその他の金銭的損失を含み、またこれらに限定されない損害) に関して、アルファサードは一切の責任を負わないものとします。

上記の制限および排除は、お客様の所在地の法律上認められる限度で適用されるものとします。本契約に起因または関連してアルファサード、その関連会社およびサプライヤが負う責任の総額は、本ソフトウェアについてお客様が支払った金額を上限とします。

5. アルファサードによる保証

- (1) アルファサードは本ソフトウェアに含まれるオープンソース部分をのぞき、情報についての管理者の意図若しくは許可なくコンピューター、コンピューター・システムまたはコンピューターネットワーク内の情報を変更し、損失し、破壊し、記録または送信するように意図的に設計された命令を本ソフトウェアに含めていないことを保証します。
- (2) アルファサードは本ソフトウェアに含まれるオープンソース部分をのぞき、本ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害するものではないことを保証します。
- (3) 本契約の有効期間中、本ソフトウェアに本項の保証に反するものが(オープンソースコードを除く)含まれていることが判明した場合には、アルファサードは唯一の法的救済として、アルファサードの費用において本ソフトウェアの主要な機能を損なうことなく本項に定める保証に合致するように本ソフトウェアを改変または交換する、あるいはお客様がソフトウェアを本契約に従って使用し続けられよう権利を取得する、合理的な営業上の努力を払います。お客様は、本項に定める保証の違反についての他の法的救済を求める前に、アルファサードが当該変更または交換を行うための猶予を与えるものとします。

6. その他

- (1) 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
- (2) 本契約に関して訴訟の必要が生じた場合には、大阪地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。

●作成者

アルファサード株式会社
<http://alfasado.net/>

大阪オフィス

〒541-0047
大阪府中央区淡路町3-2-8 トーア紡第2ビル702号
電話：06-6203-5702 ファクス：06-6203-5703

東京オフィス

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-10-3 松晃ビル8F
電話：03-3265-8488 ファクス：03-3265-8489

文書のバージョン 2.059

文書の作成日 2014年10月22日